

文部科学省 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

最終成果・外部評価(28年度)報告書

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大 阪 医 科 大 学

京 都 薬 科 大 学

文部科学省

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

最終成果・外部評価(28年度)報告書

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大 阪 医 科 大 学

京 都 薬 科 大 学

文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

「最終成果」、「外部評価(28年度)」報告書

1. 外部評価実施方針について

- ・最終年度であるため、「最終成果報告書」としても位置づけ、5年間の成果発表および「28年度外部評価」を受ける。
- ・評価は、評価委員3名を選任し、書面による評価を受ける。
- ・評価項目については、事業評価ガイドライン(24.3.29 文科省 養成推進委員会)の評価項目を基本として、連携する各大学により設定された「個性や特色、得意分野に応じた各グループ固有の達成目標」及び、事業申請書に記載のあった目標を評価項目とする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 3～

3. 「次代を担う研究者・医療人養成プラン」について

「連携する大学」、「事業の概要」、「事業の目的・必要性」、
「各大学の役割分担」 6～

4. 「平成24～28年度 取組状況等」

	「平成24～28年度 取組状況等」	9～
資料 1	「募集・受入目標人数・入学人数」	58～
資料 2	「24～28年度 入学実績」(京大拠点・全国平均対比) 「28年度 入学実績」	59～
資料 3	「資格取得者数一覧」(24年度～28年度)	60～
資料 4	「28年度 がんプロ学生調査(要望・改善点)」	62～
資料 5	「がんの特化した講座の設置状況」	66～
資料 6	「事業推進委員会議事録」 (「最終成果」・「外部評価(28年度)」報告書の作成)	67～
資料 7	「24年度～28年度新たに導入された医療チーム」 「事業開始前から設置されていた医療チーム」	69～
資料 8-1	「がんセンター体制の体制(京都大学)」	71～
資料 8-2	「平成28年度 滋賀医科大学 がんセンター体制の体制」	73～
資料 9-1	「平成28年度 インテンシブコース実施事業」	74～
資料 9-2	「シンポジウム・セミナー等の開催」	75～
資料 10-1	「国際学会・英文誌への発表一覧(京都大学)」	76～
資料 10-2	「国際学会・英文誌への発表一覧(滋賀医科大学)」	84～
資料 10-3	「国際学会・英文誌への発表一覧(京都薬科大学)」	85～

資料	11-1	「国内学会・雑誌等への発表一覧（京都大学）」	86 ～
資料	11-2	「国内学会・雑誌等への発表一覧（滋賀医科大学）」	95 ～
資料	12	「海外学会・シンポジウム等参加状況」	96 ～
資料	13	「国内学会・シンポジウム等参加状況」	99 ～
資料	14	「プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況」	105 ～

5. 評価について

「評価結果表」	108 ～
「講評」	109 ～

6. 外部評価委員について

がん感染症センター 都立駒込病院 放射線診療科 唐澤克之 部長
 名古屋大学 附属病院化学療法部部長 安藤雄一 教授
 岐阜大学大学院 腫瘍制御学講座 腫瘍外科学分野 吉田和弘 教授

7. 評価実施日程について

平成29年 1月25日 ～ 平成29年 2月 7日

外部評価項目

共通項目

1. 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか、
2. がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか
3. コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか、
4. がんに特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は、
5. 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数、
6. 外部委員による外部評価を実施し、PDCA サイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか、
7. 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数、
8. 多職種が共同で参加できるがんサージカルボード等の整備数、
9. 医療チーム、がんサージカルボードの質の向上のための取組実績、
10. コース履修者の医療チーム、がんサージカルボードの開催数、期間等、
11. 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績
12. 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数、
13. 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）
14. 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか、

国際交流

15. コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数、

16. コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、
17. 国際交流プログラムの実施数、
18. 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、
19. コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み、

連携大学間・職種間連携

20. 連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況、
21. 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、
22. 連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率、
23. 新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて、
24. 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、

教育改革

25. がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、
26. 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況、
27. がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況、
28. 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進、

地域貢献

29. 地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数、
30. 市民公開講座等一般向け講演会の開催数、
31. インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況、

32. 各本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況、
33. 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて、
34. I Tを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み、
35. テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み、
36. がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み、

研究者養成

37. コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数、
38. 国際学会、英文誌への研究論文発表数、
39. 学会への研究論文の発表推進への取組み、
40. 先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数、
41. がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況、
42. がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況、
43. 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

「次代を担う研究者・医療人養成プラン」について

連携する大学

京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学

事業の概要

本事業は、平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プランで選定された京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学における次代を担うがん研究者・医療人養成プランに関する取組である。このプランにおいては先端的がん研究者の養成と地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成に重点を置く。前者では次代のがん研究、がん診療のイノベーションを担う人材、新規診断法や治療法、ケア法を開発できる人材を養成し、後者では地域のがん診療拠点と連携して、腫瘍内科医、腫瘍外科医、放射線治療医、乳腺専門医、婦人科腫瘍専門医、緩和医療医、がん専門薬剤師、がん専門看護師を養成する。先端研究施設、がんセンター等での分野横断的研究、集学的研究、腫瘍薬学研究等の基盤を整備、同時に集学的医療、全人的医療プログラムの充実、がん教育の推進、5大学間の人材交流を図り、人材養成とがん医療の発展を目指すものである。

事業の目的・必要性

本補助事業の全体の目的は、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤をさらに充実させながら、大学院コースにおける基礎研究能力、臨床研究能力の向上、がん専門医療人教育プログラムの多様化と拡充、地域がん診療拠点病院などとの連携強化ならびに問題点の改善を図り、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次代のがん研究、がん診療を担う人材の養成に資するため、中長期的視野に立って教育基盤の整備を行うことにある。今後のがん医療の発展には腫瘍学を深く理解し、斬新な発想で画期的な医療技術や診断治療法を開発できる人材が欠かせないが、そのためには高度な基礎研究能力、学際的研究能力を備えた先端研究者を養成することが求められている。具体的には、手術、放射線治療の領域では新しい治療機器や治療方法の開発、薬物療法、婦人科がんの領域では新規医薬品、バイオマーカーの開発、臨床腫瘍薬学分野ではトランスレーショナルリサーチの推進、がん専門薬剤師には国際試験、臨床研究の実施、医学物理学分野では高精度放射線治療の実施、推進と次世代型の放射線治療システムの開発、がんリハビリテーションの領域では臨床エビデンスの創生が必要とされており、これらを担う

人材の養成が求められている。

地域がん医療貢献に関しては、集学的医療、全人的医療を実践する優れた腫瘍内科医、放射線治療医、緩和医療医の養成が急務であり、疾病頻度の急激な増加に伴い乳腺専門医や婦人科腫瘍専門医の養成は社会的な要請である。化学療法、支持療法、緩和療法、チーム医療を高度に展開できるがん専門薬剤師、がん専門看護師の養成も重要課題である。さらに、国際的視野をもったがん専門医療人が不足しており、その養成も強く望まれている。京都大学、京都薬科大学はがん研究者の養成に、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学は地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成により重きをおくが、互いに連携協力して人材養成、がん医療の発展に努める。

また、平成19年度からのがんプロフェッショナル養成プランとして実施し、高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成プログラムにおける取組の充実・発展を図り、本取組を次代を担うがん研究者・医療人養成プランとして拡充することにより、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次世代のがん研究、がん診療における人材養成基盤の強化を図ることが、本補助事業の目的である。

各大学の役割分担

コース名	重点区分
京都大学 次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース 先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース 次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース 新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース 高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師(研究者)養成コース 先端医学物理研究者養成コース 新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース 外来がん化学療法チーム養成コース(インテンシブ) 高度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ) 地域がん医療を担う薬剤師養成コース(インテンシブ) 次世代の臨床試験を担う人材養成コース(インテンシブ)	③研究者 ③研究者 ③研究者 ③研究者 ③研究者 ③研究者 ③研究者 ②地域貢献 ②地域貢献 ②地域貢献 ③研究者
三重大学 放射線腫瘍医養成コース 乳腺外科専門医養成コース 腫瘍内科専門医養成コース がん専門薬剤師養成コース 婦人科がん治療専門医養成コース チーム医療を促進するがん看護を専門とする看護師養成コース がん治療医養成コース(インテンシブ) 緩和医療医養成コース(インテンシブ)	①教育改革 ①教育改革 ①教育改革 ②地域貢献 ②地域貢献 ②地域貢献 ②地域貢献 ②地域貢献
滋賀医科大学 地域の放射線治療を支える専門医養成コース 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース 新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース 高度放射線治療を担う医療人養成コース(インテンシブ) 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース(インテンシブ)	②地域貢献 ②地域貢献 ③研究者 ③研究者 ②地域貢献 ②地域貢献
大阪医科大学 化学療法専門医養成コース 放射線療法専門医養成コース がん手術療法専門医養成コース	②地域貢献 ②地域貢献 ②地域貢献
京都薬科大学 がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース	③研究者

備考 ①教育改革 がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース
 ②地域貢献 地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース
 ③研究者 がん研究者養成に重点を置くコース

「平成24－28年度 取組状況等」

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間で「専門医療人 74名」、「研究者養成 104名」合計 178名 を数値目標とする。</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>○5年間の入学目標数 178名に対して、目標を上回る入学者数 235名を達成</p> <p>○入学者達成率においても、全国平均達成率（27年度平均率）78%を上回る119%を達成</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 28年度においても、新入生オリエンテーションにおいて、がん教育の重要性を説明のうえ、履修生の獲得に努め、受入目標人数 17名を上回る入学者数 25名を達成した。</p> <p>三重大学： 28年度においても、充足率を満たすために、大学院HPでの案内、近隣の大学へのパンフレット郵送、緩和医療関連学会でのPR、三重県内のがん関連の研修会、セミナー等で各コースについての紹介を行い、腫瘍内科専門医養成コースに2名、放射線腫瘍医養成コースに2名、看護コースには2名が入学した。 また、平成29年度においても、乳腺外科専門医養成コースに1名、放射線腫瘍医養成コースに1名、看護コースに2名の入学が予定されている。</p> <p>滋賀医科大学： 28年度においても、受入れ目標数に達するよう、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行い、学生の入学者獲得に努めた。 各コース5年間の入学者 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース:2名 新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース:6名 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:3名 地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース:1名</p> <p>大阪医科大学： 受け入れ目標人数を充足するためにホームページや大学院案内などでの広報活動を実施、この活動により、28年度には、唯一入学者がいなかった放射線療法コースにおいても入学者が確保された。 これにより、5年間の入学者数は、化学療法専門医養成コース・5名、放射線療法専門医養成コース・1名、がん手術療法専門医養成コース5名となった。</p> <p>京都薬科大学： 28年度においても、大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。 説明会では大学院進学の意味、「臨床腫瘍薬学」の重要性、がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース(がんプロコース)の説明を行い、大学院進学を促進している。</p>	<p>(資料1) 「募集・受入目標・入学人数」</p> <p>(資料2) 「入学実績」(京大拠点・全国平均対比)</p> <p>「28年度 入学実績」</p>
2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○がんに関する専門資格の取得へ向けた取組みの推進</p>	<p>(資料3) 「資格取得者数一覧」</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
2	<p>がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか</p>	<p>5年間の取組状況</p> <p>24年度・専門医資格取得者数 29名 25年度・専門医資格取得者数 47名 26年度・専門医資格取得者数 42名 27年度・専門医資格取得者数 39名 28年度・専門医資格取得者数 23名</p> <p>24年度～28年度の5年間に於いて、延べ 180名が専門医の資格を取得。地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し専門医、認定医取得を推進させた。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 28年度においても、引き続き地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し専門医取得指導を行っている。</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) がん薬物療法専門医取得または更新の単位となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会参加・発表のサポートを行った。 その他、Best of ASCOや癌治療学会など、がん薬物療法の知識取得に役立つセミナーなどに派遣した。 がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の取得に必須となる造血器、呼吸器、消化管、乳房領域の薬物療法が学会認定の指導医のもとで研修出来るプログラムを継続して施行している。 また受験のために必須となる病歴要約も専門医の指導教官が添削・指導している。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 早期に各臓器の放射線治療に関する勉強会(放射線治療科モーニングレクチャー)を行い、専門医試験に向けて理解を深めるような取り組みを行っている。 日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会だけでなく、日本がん治療学会、日本がん分子標的学会、欧州放射線腫瘍学会、米国放射線腫瘍学会、など、がん治療の知識取得に役立つ国内外学会での発表の機会を設けた。 専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。</p> <p>(婦人科コース) コース参加の大学院生には婦人科腫瘍専門医取得にむけて、大学病院において症例の経験を積ませている。 さらに、学会発表や論文執筆の指導を行っている。 平成28年度には大学院生1名が婦人科腫瘍専門医を取得した。 さらに平成27年度末に大学院生1名が研修修了し、現在病院勤務しているが、平成28年度に婦人科腫瘍専門医試験を受験予定である。</p> <p>(薬剤師コース) 日本医療薬学会がん専門薬剤師・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師・日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行っている。 また、セミナーや症例検討会を定期的に関催し、最新の文献紹介を通してがん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を習得する機会を定期的に設けている。</p> <p>(手術療法・機器開発コース) 領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラム・講演を実施した。</p>	<p>(資料3) 「資格取得者一覧」</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
2	<p>がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか</p>	<p>(臨床試験を担う人材養成コース) がん薬物療法専門医申請に必須となる症例報告書の提出前査読と指導、面接試験対策。 乳腺専門医受験予定者のための、外来における薬物療法研修</p> <p>三重大学: 各コースのコーディネーターが責任を持って、研修カリキュラムに従った、コース履修者の指導・教育を行っており、受験に必要な各領域の受け持ち患者数が確保できるように、適切な患者の割り当てを行っている。 また、専門医取得のための学会主催の教育セミナーに参加するための支援を積極的に行っている。</p> <p>さらに、大学内で開催する専門医取得に有用ながん治療セミナーは、がんプロ推奨セミナーとして、大学院の単位取得の対象セミナーとして認定している。 看護師養成コースでは、三重専門看護師会と共同した勉強会に大学院生も参加し現役専門看護師とともに学ぶ機会を設けている。</p> <p>滋賀医科大学 履修案内において、それぞれのコースにおいて取得が見込まれる学会資格等の概要、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス(入学前・在学中・修了後)を掲載しており、28年度においては、癌専門医療人の育成に向けたセミナーを12回開催</p> <p>大阪医科大学 専門的知識向上に向けて、がんセンター主催で外部講師による講演会(5/12・10/6)を行った。また、講演会(5/12・10/6・11/24・11/25)を行った。</p> <p>京都薬科大学 「がん専門薬剤師」認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。 資格取得条件である「一般社団法人 日本医療薬学会」(5年間の入会が必要)への入会を促しており、在籍者2名が当該学会に入会している。</p>	
3	<p>コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか</p>	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○コース履修者の満足度を満たすための取組みの推進</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>京都大学では、毎年、がんプロ履修生全員に「がんプロ学生調査(要望・改善点)」アンケート調査を行っており、その調査結果については、毎年度「外部評価報告書」および「ホームページ」において公表している。 また、25年度外部評価より、調査により判明した要望や改善点については、要望等を行ったがんプロ履修生自身や他の履修生も理解できるよう、同じく、「外部評価報告書」および「ホームページ」において、要望、改善点に対する事業方針を回答し公表している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 引き続き、京都大学では、コース履修者の満足度を満たす取組みとして、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行い、調査結果をHPにおいて公表し、また、質問・改善要望についても、その回答を同じく公表した。 (がんプロ事業の継続を望むとの回答が多く寄せられている。)</p>	<p>京都大学: (資料4) 「がんプロ学生調査(要望・改善点)」のとおり</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	<p>(薬剤師コース) 学会参加・発表やがんプロ協賛セミナーへの参加を通して、がんプロ大学院生のがん薬物療法および関連領域における知識や研究能力のスキルアップのための機会を積極的に設けている。 また、知識や技能の習得および問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員や病院薬剤師が常に情報交換できる環境を整備している。</p> <p>(放射線治療コース) 希望に添った研究テーマ、研究発表機会の提供。講座内での定期的な進捗報告会の開催。</p> <p>(リハビリコース) 毎月定期ミーティングを行い、情報交換、研究計画進行状況のチェック、アドバイス等を行っている。また国際誌に掲載されたがんリハビリテーション関連の論文を抄読し、知識をupdateするよう務めている。</p> <p>(婦人科コース) 研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。</p> <p>(手術療法コース) 学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させている。</p> <p>三重大学： 他大学の講義を、e-learnigで受講可能とし、毎月、病院全体で開催されるtumor boardや、がん関連診療科で開催されるがん医療についての講演会やセミナーをがんプロ推奨セミナーに認定し、臨床的なスキルを身につける教育を積極的に行っている。また、手術ビデオなどのe-learnig教材も作成し、いつでも受講できるよう満足度を満たすための取り組みを継続して行っている。</p> <p>また、看護コースの講義では、非常勤講師として、全国的に活躍されている看護実践者・研究者、がん看護専門看護師を招いた講義をおこない、大学院セミナーとしても他専攻大学院生に公開している。</p> <p>滋賀医科大学： ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・がんプロ主催のシンポジウム、国際ジョイントセミナーおよび国内学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果の第三者評価の機会を設け履修意欲の向上に努めている。</p> <p>大阪医科大学： 化学療法専門医養成コースでは、カンファレンスや症例検討会において、履修生へのマンツーマン指導が行われている。</p> <p>京都薬科大学： 教育研究環境整備に努めるほか、学長をはじめ、指導教員とがんプロコース履修学生の意見交換会を定期的実施している。月1回程度</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
4	<p>がんの特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は</p>	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○がんの特化した新講座の設置計画を計画どおり進め、活発な教育研究活動を推進</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>申請時に計画された、京都大学、三重大学、滋賀医科大学における、がんの特化された3講座を予定どおり設置 (滋賀医科大学は、25年度の設置予定を前倒して、24年度10月に設置) 各講座において、活発な教育・研究が行われている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学講座(分野)」を平成24年9月に設置、がんプロ経費にて平成24年12月より新規助教を採用 1) 化学療法を中心とした高度ながん治療の展開を推進させた。 2) 化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進させた。 3) 化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医の養成を推進させた。</p> <p>三重大学: 平成24年5月に「放射線腫瘍学講座」を設置し、放射線治療医の育成および診療・研究に取り組んでいる。放射線腫瘍医養成コースにはこれまで4名の入学があるが、平成28年度は新たに1名が入学した。平成28年度は香港で行われた5大学連携海外研修に参加し発表を行った。 附属病院において放射線治療および先進医療開発に取り組むとともに、地域病院と連携して放射線治療の啓蒙をはかるためにセミナーや市民公開講座を開催した。</p> <p>滋賀医科大学: ・平成24年度10月に大学の正規講座として「臨床腫瘍学講座」が設置されており、腫瘍学講義を学部・大学院で担当している。また、附属病院腫瘍内科及び腫瘍センターを運営して、がん診療活動と先進医療開発に従事している。 さらに、地域病院と連携したセミナーや市民公開講座等を複数回実施している。また同講座より滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定・推進に引き続き取り組んでいる。 ・教授1名、講師1名、特任講師3名、特任助教1名(臨床腫瘍学講座・腫瘍内科および腫瘍センター)を配置し、活発な教育研究活動を実施している。</p>	<p>(資料5) 「講座設置計画・講座設置状況」</p>
5	<p>教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組状況、開催数と参加者数</p>	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組みを推進する。</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等も含めた医療関係者、がんプロ履修生を参加対象者として、「最新医療技術について」、「最新医療研究データについて」、「がん患者症例と治療法について」などのフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。また、インテンシブコースにおいては、自大学職員だけでなく、他大学職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、「がんチーム医療研修」、「高精度放射線治療研修」「専門薬剤師研修」を開催している。 なお、上記FD開催数に入れていないものの、各コース毎に、週1回程度、グループ・合同カンファレンスが行われ、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組んでいる。</p>	

番号	達成目標	取組状況等										参考資料等		
		取組内容	大学名等	24年度		25年度		26年度		27年度			28年度	
				開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数		開催数	参加人数
5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	教員の指導技術向上等のためのファカルティ・ディベロップメントの各年度における開催数・参加人数	京都大学	18	1300	20	1259	7	574	16	919	10	437	
			三重大学	5	362	17	854	14	624	2	93	7	198	
			滋賀医科大学	12	600	11	340	10	620	7	443	7	370	
			大阪医科大学	1	24	1	28	1	21	1	34	2	45	
			京都薬科大学	5	160	5	140	3	192	4	356	2	88	
		計		41	2446	54	2621	35	2031	30	1845	28	1138	
		<p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 引き続き、教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントへの取り組みとして、講演会、セミナー、研修会等を開催、また、各疾患別の症例カンファレンス、カンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置し積極的にFDに取り組んだ。</p> <p>(薬剤師コース) 指導教員は指導能力向上のために講演会(ex. 11月2日@メルパルク京都、12月9日@リーガロイヤルホテル京都など)に積極的に参加し、FDに取り組んでいる。また、がんプロ学生についても、勉強会やセミナーへの参加を励行し、がん薬物療法における必要な専門知識やがん薬物療法についての研究最新知見の習得を行っている。また、そうした勉強会にて、指導教員、がんプロ学生およびがん専門薬剤師で月に数回ディスカッションする機会を設けている。</p> <p>(リハビリテーションコース) 「がんリハビリテーション特別講演会」を2回開催(平成28年10月22日、参加25人、および平成29年1月6日予定)</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) 全国がんプロのFDのため合同フォーラムへがんプロ教員が参加した。がん薬物療法専門医更新・指導医申請予定者に、必須となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会への参加・学生発表のサポートを行った。また、Best of ASCOや癌治療学会、がん薬物療法セミナーなどに派遣した。国際的視野をもつ教員を育成するため、国際交流プログラムにおいて大学院生とともに海外合同教育セミナー(H28年度は香港の中文大学との合同教育セミナー10月28-29日)に同行し、シンポジウムでの発表ならびに専門領域のカンファレンスに参加した。</p> <p>(放射線治療医コース) スタッフ全員が指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会にて開催される、研修指導者講習会に教員医師が全員参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。</p> <p>(医学物理コース) 医学物理士更新予定者に、必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会への参加・発表のサポートを行った。 平成28年度の実績：医学物理士更新(2名)</p> <p>(婦人科コース) ①毎週の病理カンファレンス(婦人科腫瘍医と病理医、20名参加)、 ②毎週の画像カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線診断医、20名参加)、 ③毎週の放射線治療カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加)を行っている。また症例に応じ、2週に1度程度、 ④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDに取り組んでいる。</p>										<p>京都大学： (資料9-1) 「インテンシブコース実施事業」</p> <p>(資料9-2) 「シンポジウム・研修会・セミナーの開催」</p>		

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組状況、開催数と参加者数	<p>三重大学: 医師コースでは、病院全体のtumor board(月1回)、骨転移合同カンファランス(月1回)のほかに、がん関連診療科で開催される症例検討会、カンファランスやがん医療に関するセミナーや講演会に積極的に参加し、教員の指導能力向上のためのFDに取り組んでいる。</p> <p>看護コースでは、大学院FDとして、アクティブラーニングの理解と実践5月・6月・7月と3回シリーズでのワークショップを行った。教員の参加率は1回目90%、2回目79%、3回目58%と高く、教育力の強化の取り組みとして有効であった。</p> <p>大学院生が、専攻分野以外の教員の研究を知る機会とするために、2名の教員の研究活動を発表する機会を設け、それらの研究についての質疑を通して、大学院生と教員が歓談する「研究交流会」を行っており、今年度は9月15日に開催し33名が出席した。</p> <p>大学院生の研究を指導教員だけでなく、他の専門分野の教員からも教育・研究的視点での意見を得る場として、「研究計画発表会」「研究中間発表会」を4月と10月に開催した(参加者各回45～50名)。</p> <p>滋賀医科大学: 各教員等に知識を身に付けるよう、病診連携フォーラムや勉強会を開催</p> <p>【新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース】 ・若年がんを考える会 2回(8月6日/36名・12月10日開催予定) ・病診連携フォーラム 2回(6月26日/34名・11月13日/38名)</p> <p>【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀(7月23日/37名) ・腫瘍センター講演会 「がん患者妊よう性温存 現状と滋賀県の取り組み」(6月1日/136名) 「がん薬物療法における曝露対策について」(10月26日/89名)</p> <p>「がん医療におけるアドバンスケアプランニング」(1月25日開催予定) 「がん患者の遺族へのグリーフケア」(3月22日開催予定) ・滋賀県緩和ケア研修会第1回(12月3日予定) ・滋賀県緩和ケア研修会第2回(1月21日予定)</p> <p>【地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース】 ・第17回滋賀県放射線治療連絡協議会勉強会(1月7日開催予定)</p> <p>大阪医科大学: 化学療法センターにおいて、三島圏域緩和ケア研修会を5月21・22日の二日間わたって実施した(参加者45名)。平成29年2月25日、26日においても開催予定である。</p> <p>京都薬科大学: 主にがんプロコース履修学生が受講する「特論講義」において、外部招へい講師による特別講義(特別講義終了後に「セミナー」も実施)として実施している。</p> <p>【医薬品評価科学特論】 ・7/12(火)13:30～15:00「医薬品承認申請と医薬品評価」 参加者41名</p> <p>【臨床薬学研究者養成セミナー】 ・6/4(土)14:00～17:25 参加者47名</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
6	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムを発展的に推進させる</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>24年度評価において、「5大学間の交流や連携を生かさなければならない。」との講評結果を受け、翌25年度「5大学事業推進委員会」では、「5大学間の人材交流」、「多職種交流」を推進し、重点項目としている「国際的視野をもったがん研究者・がん医療人養成」を推進するため、5大学連携事業として「海外大学との合同教育セミナー」を決議し、「5大学連携ソウル大学合同教育セミナー」を実施。翌25年度における評価では、「この取り組みを高く評価したい。」との講評を得ることが出来た。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： プログラムの発展的な見直しが行えるよう、24年度、25年度、26年度、27年度に実施した外部評価に引き続き、28年度においては、28年度外部評価と併せて5年間の最終評価を行い、新規「がんプロ事業」の発展的な見直しが行えるよう事業推進委員会において評価の実施を決議した。</p> <p>三重大学： 28年度における「5大学事業推進運営委員会」において、外部評価および最終評価の実施を確認、この評価に基づいて、PDCAサイクルを活用し、新規がんプロの発展に努めることを確認</p> <p>滋賀医科大学： 5大学 事業推進運営委員会において、「28年度外部評価」と併せて「最終評価」を行うことを決議</p> <p>大阪医科大学： 5大学事業推進運営委員会において、「28年度外部評価」と併せて「5年間の最終評価」を行うことを確認</p> <p>京都薬科大学： 28年度事業推進運営委員会において、最終評価および28年度外部評価を行うことを確認</p>	(資料6) 「がんプロ事業推進運営委員会議事録」
7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備を推進させる</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>別紙資料「新たに導入したがんに関する医療チーム・事業開始前より設置されていた医療チーム一覧表」のとおり</p>	(資料7) 「24年度～28年度に導入された医療チーム」 「事業開始前から設置されていた医療チーム」

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数	<p>平成24年度は、京都大学において、原発不明/希少癌ユニット、血液腫瘍ユニット、滋賀医科大学において、化学療法チーム、緩和ケアチーム、大阪医科大学において、化学療法センターの5医療チームを新設、</p> <p>平成25年度は、京都大学において、小児がんユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニット、三重大学において、口腔ケアチーム、大阪医科大学において、緩和ケア室の5医療チームを新設、の5医療チームを新設</p> <p>平成26年度は、京都大がにおいて、神経内分泌腫瘍ユニット、三重大学において、緩和ケアチームの2医療チームを新設</p> <p>平成27年度には、京都大学において、「クリニカルシーケンスユニット」および「メラノーマユニット」を2医療チーム新設</p> <p>* ユニットは、癌種ごとに専門診療科(内科、外科、放射線治療科、腫瘍内科、放射線診断科)が、診療科の壁を越えて、カンファレンスはもちろん、同日に外来を行ったり、病棟での診療を行う新しい取組である。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 放射線治療科は、治療に関わるすべての癌腫においてカンファレンスを開催し、チーム医療を実践している。 化学療法においても、がん種ごとに関連する専門診療科、腫瘍内科、薬剤部、看護部など診療科、職種横断的なカンファレンスを開催するとともにチーム医療を実践している。 緩和に関しても専門医(身体担当、精神担当)、薬剤師、看護師による緩和ケアチームを形成し、チーム医療を実践している。</p> <p>三重大学： 緩和ケアセンター内に緩和ケアチームが整備されており、センター長、常勤の身体症状に携わる医師を配置し、精神科医、麻酔科医、鍼灸師、薬剤師、看護師、作業療法士、臨床心理士等も緩和ケアチームに加わり、多角的な緩和ケア活動が可能な体制になっている。 三重大学に入院して治療を行うがん患者に対して、歯科口腔外科医、歯科衛生士のチームによる治療前の口腔ケアの実施を行う体制を整備している。</p> <p>滋賀医科大学： 附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチームを設置して運用している。</p> <p>大阪医科大学： 大阪医科大学では既に多職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週木曜日に定例会を開催している。 また、三島圏域緩和ケア研修会を5月21・22日の二日間わたって実施した。平成29年2月25日、26日の二日間にも開催予定である。</p>	
8	多職種が共同で参加できるがんセンターボード等の整備数、	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○多職種が共同で参加できるがんセンターボード等の整備を推進させる</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>京都大学： 25年12月より、家族性腫瘍外来が開始されたことに伴い、家族性腫瘍ワーキンググループを設立し、各ユニット長がメンバーとして参加。また、26年1月から、婦人科もがん診療部合同委員会に参加することになり、がんセンターと婦人科の連携を深め婦人科腫瘍のサポート体制が構築されるなど、多職種が参加できるがんセンターボードの整備が進められた。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
8	多職種が共同で参加できるがんセンターボード等の整備数、	<p>なお、24年度より立ち上げられた・原発不明癌および希少癌に対するがんセンターボードは、症例発生から1週間以内のon demand開催で、関連する複数の診療科、放射線診断科、放射線治療科、病理科の参加により速やかに治療方針と担当診療科が決定され治療が導入されている。さらにfollow upボードも開催して関係者へのフィードバックも行っている。</p> <p>また、小児癌ユニットについても、小児癌に関連する血液内科、整形外科、脳外科などが参加し、診療科横断的な診療が実践されている。</p> <p>27年度には、「クリニカルシーケンスユニットカンファレンス」、「メラノーマユニットカンファレンス」が整備された。</p> <p>三重大学： 多職種が共同で参加できるがんセンターボードとして、三重大学がんセンター主催のtumor board、三重骨軟部腫瘍研究会主催の骨転移合同カンファレンスのほかに、合同カンファレンスとして、乳腺外科カンファレンス、婦人科カンファレンス、耳鼻科カンファレンス、脳神経外科カンファレンス、呼吸器カンファレンス、乳腺MRI検討会、食道カンファレンス、乳腺合同検討会、産婦人科症例検討会、歯科口腔外科・放射線治療科合同カンファレンス、術後病理検討会、血液腫瘍内科症例検討会を整備している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： (資料8)「がんセンターボード一覧」のとおり、 ① 前立腺がんユニットカンファレンス ～ ⑩ メラノーマユニットカンファレンスを開催</p> <p>三重大学： 大学病院内の多職種(医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー等)の参加が可能なチューマーボード、また、骨転移合同カンファレンスを開催している。</p> <p>滋賀医科大学： ・平成28年度(新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース(腫瘍センター)主催の全体ミーティング)数:1回 ・臓器別ミーティング:隔週～毎週</p> <p>・平成28年度は10月12日に「妊娠中期乳癌」を検討症例として開催され、腫瘍センター、腫瘍内科、乳腺一般外科、母子診療科、麻酔科、薬剤部等から10名(医師7名、看護師2名、薬剤師1名)が参加した。 ・臓器別がんセンターボードは各診療科において毎週もしくは隔週で開催</p> <p>大阪医科大学： 多職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週木曜日に定例会を開催している。</p>	<p>資料 8-1 京都大学 「がんセンターボード一覧」</p> <p>資料 8-2 滋賀医科大学 「がんセンターボード体制」</p>
9	医療チーム、がんセンターボードの質の向上のための取組実績	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○医療チーム、がんセンターボードの質の向上のための取り組みを推進</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>新しい医療に対応できるよう、京都大学では、24年度には、原発不明がん/希少がんユニット、血液腫瘍ユニットの設置、25年度には、小児がんユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニットの設置、26年度には、神経内分泌腫瘍ユニットの設置、27年度は、「クリニカルシーケンスユニット」および「メラノーマユニット」を設置、</p> <p>三重大学では、25年度には、口腔ケアチーム、26年度には緩和ケアチームを設置、</p> <p>滋賀医科大学では、24年度に化学療法チーム、緩和ケアチームを設置</p> <p>大阪医科大学では、24年度に化学療法センター、25年度には緩和ケア室の設置へと繋がり、医療チーム、がんセンターボード以外にも、各コースにおいて、多数のがんプロ履修生が参加する「合同カンファレンス・症例検討会・勉強会」が実施され、がんセンターボードの質の向上へと繋がられ、順調に事業が進捗している。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
9	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	<p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学:</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) 外来化学療法を安全かつ円滑に運用するため、専門医、看護師、薬剤師、SWなどによるチーム医療会議を毎月開催し、安全管理、実務管理を行っている。 また、京大がんセンターにおけるがん薬物治療を安全に実施するため、がんに関連するすべての診療科、薬剤部、看護部、医療安全部、病理部、緩和ケアチームなどによる会議を隔月で開催し、医療安全部、病理部なども含めて、医療の質の向上に貢献している。</p> <p>(放射線治療医コース) 各ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。がんプロセス生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。</p> <p>(婦人科コース) 医療チーム: 医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。 カンサーボード: 婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。</p> <p>(リハビリテーションコース) 各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療カンファレンス等(がんサポートチームのカンファレンス等)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)</p> <p>三重大学: 緩和ケアチームのカンファレンス、カンサーボードに、27年度より、毎年、定期的に、米国の腫瘍内科医を招聘し、指導・教育を受けている。</p> <p>滋賀医科大学: ・全科カンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。 ・平成28年度実施(新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース(腫瘍センター)主催の全体ミーティング)数: 1回 ・臓器別ミーティング: 隔週～毎週</p> <p>・平成28年度は10月12日に「妊娠中期乳癌」を検討症例として開催され、腫瘍センター、腫瘍内科、乳腺一般外科、母子診療科、麻酔科、薬剤部等から10名(医師7名、看護師2名、薬剤師1名)が参加した。 ・以上の他に臓器別カンサーボードは各診療科において毎週もしくは隔週で開催している。</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学では既に多職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週木曜日に定例会を開催している。</p>	<p>資料 8-1 京都大学 「カンサーボード一覧」</p> <p>資料 8-2 滋賀医科大学 「カンサーボード体制」</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等																																							
10	コース履修者の医療チーム・がんセンターボードの開催数、期間等	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○コース履修者の医療チーム・がんセンターボードの参加を推進させるための取り組み</p> <p>5年間の取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">がんセンターボードの実施数</td> <td>京都大学</td> <td>520</td> <td>512</td> <td>602</td> <td>586</td> <td>468</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>23</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>750</td> <td>616</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>158</td> <td>163</td> <td>137</td> <td>48</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>714</td> <td>711</td> <td>765</td> <td>1,395</td> <td>1,153</td> </tr> </tbody> </table> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28年度実施件数 468件 (12月までの実績であって、年間予定件数 624件)</p> <p>各コースにおいては、多くの合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) 胃がん・GISTユニット(腫瘍内科医、消化管外科、毎週1回)、 大腸がんユニット(腫瘍内科医、消化管外科、毎週1回)、 膵がんユニット(腫瘍内科医、肝胆膵外科、放射線診断科、毎週1回)、 食道がんユニット(腫瘍内科医、消化管外科、放射線治療科、頭頸部外科、毎週1回)、 原発不明がん・希少がんユニット(腫瘍内科、血液内科、病理診断科、放射線診断科など、随時)、 クリニカルシークエンスユニット(腫瘍内科医、外科医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォ、基礎研究者、週1回)、 メラノーマユニット(皮膚科、腫瘍内科、月1回)</p> <p>(婦人科コース) 医師と看護師によるカンファレンス; 毎週1回月曜日午後。緩和医療の方針についてのカンファレンス; 適時(2週間に1回程度)。がんセンターボード; 病理カンファレンス毎週2回(月、水の朝)。画像カンファレンス毎週1回(水曜日の夕方)。放射線治療カンファレンス毎週1回(木曜日の夕方)。</p> <p>(リハビリテーションコース) 各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療カンファレンス等(がんサポートチームのカンファレンス等)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)</p> <p>(放射線治療医コース・医学物理コース) 医療チーム: 放射線治療医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師定期的に会議を開き、診療の問題点、安全が確保されているか、などを討論する会議を設けている。 病院主催の放射線品質管理委員会に参加しており、医学物理士が副議長を務めている。 がんセンターボード: 放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日)</p> <p>(放射線治療医コース) 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃がん/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファレンス、膵癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移がんセンターボード等、各ユニットカンファレンス・がんセンターボードへの参画</p>	事項	大学名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	がんセンターボードの実施数	京都大学	520	512	602	586	468	三重大学	34	33	23	11	11	滋賀医科大学	2	3	3	750	616	大阪医科大学	158	163	137	48	58	計		714	711	765	1,395	1,153	資料 8-1 京都大学 「がんセンターボード 一覧」
事項	大学名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度																																				
がんセンターボードの実施数	京都大学	520	512	602	586	468																																				
	三重大学	34	33	23	11	11																																				
	滋賀医科大学	2	3	3	750	616																																				
	大阪医科大学	158	163	137	48	58																																				
計		714	711	765	1,395	1,153																																				

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等																																																																														
10	コース履修者の医療チーム・カンサーボードの開催数、期間等	<p>具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。 この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。 また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している。</p> <p>三重大学： 病院全体のtumor board(月1回)、骨転移合同カンファランス(月1回)のほかに、乳腺外科カンファランス(月2回)、婦人科カンファランス(毎週1回)、耳鼻科カンファランス(毎週1回)、脳神経外科カンファランス(毎週1回)、呼吸器カンファランス(月2回)、乳腺MRI検討会(毎週1回)、食道カンファランス(月1回)、乳腺合同検討会(月1回)、産婦人科症例検討会(毎週1回) 歯科口腔外科・放射線治療科合同カンファランス(毎週1回)、術後病理検討会(月2回)、血液腫瘍内科全体症例検討会(毎週1回)、血液内科検討会(毎週1回)を開催している。</p> <p>滋賀医科大学： ・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置し、コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加を許可している。</p> <p>・平成28年度は10月12日に「妊娠中期乳癌」を検討症例として開催され、腫瘍センター、腫瘍内科、乳腺一般外科、母子診療科、麻酔科、薬剤部等から10名(医師7名、看護師2名、薬剤師1名)が参加した。 ・以上の他に臓器別カンサーボードは各診療科において毎週もしくは隔週で開催している</p> <p>大阪医科大学： 大阪医科大学では既に多職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週木曜日に定例会を開催している。</p>	資料 8-2 滋賀医科大学 「カンサーボード体制」																																																																														
11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○院内がん患者登録、地域がん患者登録の取り組みを推進させる</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>「院内がん患者登録数」「地域がん患者登録数」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">院内がん患者登録数</td> <td>京都大学</td> <td>3669</td> <td>3516</td> <td>3511</td> <td>3168</td> <td>3,436</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>2518</td> <td>2539</td> <td>2822</td> <td>2918</td> <td>2881</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>1186</td> <td>1506</td> <td>1255</td> <td>2057</td> <td>282</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2572</td> <td>2620</td> <td>2435</td> <td>2884</td> <td>3138</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>9,945</td> <td>10,181</td> <td>10,023</td> <td>11,027</td> <td>9,737</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">地域がん患者登録数</td> <td>京都大学</td> <td>10569</td> <td>4557</td> <td>3719</td> <td>3328</td> <td>3,444</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>2518</td> <td>2539</td> <td>2822</td> <td>2918</td> <td>2881</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>1186</td> <td>1506</td> <td>1255</td> <td>2057</td> <td>282</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2847</td> <td>3164</td> <td>2984</td> <td>2456</td> <td>2610</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>17,120</td> <td>11,766</td> <td>10,780</td> <td>10,759</td> <td>9,217</td> </tr> </tbody> </table> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 平成28年度登録件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ 3,436件 【地域がん登録】 京都府医師会へ 3,444件</p>	事項	大学名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	院内がん患者登録数	京都大学	3669	3516	3511	3168	3,436	三重大学	2518	2539	2822	2918	2881	滋賀医科大学	1186	1506	1255	2057	282	大阪医科大学	2572	2620	2435	2884	3138	計		9,945	10,181	10,023	11,027	9,737	事項	大学名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	地域がん患者登録数	京都大学	10569	4557	3719	3328	3,444	三重大学	2518	2539	2822	2918	2881	滋賀医科大学	1186	1506	1255	2057	282	大阪医科大学	2847	3164	2984	2456	2610	計		17,120	11,766	10,780	10,759	9,217	
事項	大学名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度																																																																											
院内がん患者登録数	京都大学	3669	3516	3511	3168	3,436																																																																											
	三重大学	2518	2539	2822	2918	2881																																																																											
	滋賀医科大学	1186	1506	1255	2057	282																																																																											
	大阪医科大学	2572	2620	2435	2884	3138																																																																											
計		9,945	10,181	10,023	11,027	9,737																																																																											
事項	大学名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度																																																																											
地域がん患者登録数	京都大学	10569	4557	3719	3328	3,444																																																																											
	三重大学	2518	2539	2822	2918	2881																																																																											
	滋賀医科大学	1186	1506	1255	2057	282																																																																											
	大阪医科大学	2847	3164	2984	2456	2610																																																																											
計		17,120	11,766	10,780	10,759	9,217																																																																											

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等																																																																																										
11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	<p>三重大学： 三重大学がんセンター内で院内がん登録と三重県の地域がん登録業務を実施しており、28年度の院内がん登録件数は2881件で、データはすべて地域がん登録データと連携して活用されている。</p> <p>滋賀医科大学： 附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 ・平成28年4月1日～11月21日登録済「院内がん登録数」282件 「院内がん診断数」282件</p> <p>大阪医科大学： 院内がん登録件数：3138件。地域がん登録件数：2610件</p>																																																																																											
12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組を推進させる</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>資料「各種団体(地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体)との連携事業」のとおり</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における各種団体(※)との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> <td>13</td> <td>683</td> <td>11</td> <td>560</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> <td>26</td> <td>1083</td> <td>20</td> <td>685</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> <td>22</td> <td>1877</td> <td>12</td> <td>1029</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> <td>4</td> <td>316</td> <td>6</td> <td>375</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>80</td> <td>2</td> <td>256</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> <td>67</td> <td>4,039</td> <td>51</td> <td>2,905</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、地域貢献のためインテンシブコースを設置(外来がん化学療法チーム養成コース、高度放射線治療を担う人材養成コース、地域がん医療を担う薬剤師養成コース、次世代の臨床試験を担う人材養成コース)して、地域医療機関等と連携した取組みを行っている。</p> <p>(薬剤師養成コース) 平成28年11月2日に京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化することを目的として、がんプロ協賛セミナーを開催(@メルパルク京都、参加者90名)。 また毎年、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会と共催で「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を開催、(平成29年1月28日)</p> <p>(外来がん化学療法チーム養成) がん治療に係わる基幹病院の医師・看護師・薬剤師を対象に、最新かつ高度な専門的知識・技術の普及、およびチーム医療のがん専門医療職養成するために、「京大病院がんチーム医療研修」を定期的開催している。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		開催数	参加人数	各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	13	683	11	560	三重大学	16	593	17	573	13	438	26	1083	20	685	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	22	1877	12	1029	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	4	316	6	375	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	2	80	2	256	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	67	4,039	51	2,905	<p>京都大学： (資料9-1) 「インテンシブコース実施事業」</p> <p>(資料9-2) 「シンポジウム/研修会・セミナーの開催」</p>								
事項	大学名	24年度			25年度		26年度		27年度		28年度																																																																																		
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																																																		
各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	13	683	11	560																																																																																		
	三重大学	16	593	17	573	13	438	26	1083	20	685																																																																																		
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	22	1877	12	1029																																																																																		
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	4	316	6	375																																																																																		
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	2	80	2	256																																																																																		
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	67	4,039	51	2,905																																																																																		

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	<p>平成24年：1/24-25, 2/21-22, 3/10, 10/16-17, 11/6-7, 11/27-28, 12/18-19 24施設・72名参加 平成25年：1/22-23, 2/19-20, 3/16, 10/29-30, 11/12-13, 11/26-27, 12/10-11 20施設・60名参加 平成26年：1/21-22, 2/4-5, 3/15, 10/28-29 12施設・36名参加 平成27年度：10/20-21, 11/10-11, 12/8-9, 1/19-20, 2/2-3 14施設・42名参加 平成28年度：11/8-9, 11/29-30, 12/13-14, 1/17-18, 2/7-8 19施設・57名参加</p> <p>5年間で全国より計 89施設 267名の医療者の参加があり、がん薬物療法を中心に基本的スキルの修得だけではなく、京大病院の最新システムの研修を行った。さらに、各施設の現状・問題点・解決法について意見交換を行い、その後の問題点解決に向けた取り組みをフィードバックした。</p> <p>(医学物理コース) 医学物理教員が2016年度ガイドラインセミナー(2016/7), 2016年度医学物理士記述対策講習会(2016/9), 2016年度放射線医レジデントセミナー(2016/11)の講師を担当 (いずれも参加者100名超)</p> <p>(高度放射線治療を担う人材養成コース) 全国の放射線治療施設の高精度放射線治療技術導入を推進するため、2005年に第1回の高精度放射線治療ワークショップが開始され、毎年2～3回開催している。</p> <p>2016/12/17-12/18 第29回高精度放射線治療ワークショップ(4名) 2016/10/29 第42回京都放射線腫瘍研究会プログラム(120名)</p> <p>(リハビリテーションコース) コース履修生1名が京自助具館自助具専門相談員として活動。その活動の一環として、自助具フォーラム2016(2016年12月3日)にて「その人らしい豊かな生活をめざす自助具づくり～作業療法士の視点から～」というテーマで口述発表予定。</p> <p>三重大学： 骨転移セミナーを28年5月16日開催(43名参加)、 早期からの緩和ケアを考える会を5月19日に開催(44名参加)、 三重医療安心ネットワーク研究会を6月4日に開催(128名参加)、 三重がんリハビリテーション研修会を7月23日に開催(69名参加)、 医科歯科連携推進人材養成研修会を7月17日に開催(190名参加)、 緩和ケアセミナーを7月28日に開催(60名参加)、 緩和ケア研修会を8月27,28日に開催(29名参加)、 がんチーム医療研究会を9月9日に開催(83名参加)、 膝がん撲滅パープルリボンウォーク・セミナーを9月11日に開催(のべ552名参加)、 がんセンター10周年記念講演会を11月22日に開催(72名参加)した。</p> <p>看護コースは、三重県看護協会と連携した三重がん看護フォーラム(7月23日開催：103名参加)、 日本緩和医療学会と連携した三重大ELNEC-J(11月4日～11月5日開催78名参加)、 三重がん看護専門看護師会との連携による共同勉強会(毎月開催：のべ180名参加)、 三重県がんにおける質の高い看護師育成研修(10～12月：11名)を開催</p> <p>滋賀医科大学 【地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース】 ・第17回滋賀県放射線治療連絡協議会勉強会(1月7日開催予定)</p> <p>【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：3回、486名参加(4月24日/261名、10月2日/225名、平成29年1月28日開催予定) ・滋賀県がん薬物療法conference：3回 62名参加(7月6日/35名、11月2日/27名、平成29年3月1日予定)</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	<p>【新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年がんを考える会 2回 36名参加(8月6日/36名・12月10日開催予定) ・病診連携フォーラム 2回 72名参加(6月26日/34名、11月13日/38名) <p>【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回 111名参加(9月11日/111名、2月12日予定) ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀 1回 37名参加(7月23日/37名) ・腫瘍センター講演会 4回 225名 「がん患者妊よう性温存 現状と滋賀県の取り組み」(6月1日/136名) 「がん薬物療法における曝露対策について」(10月26日/89名) 「がん医療におけるアドバンスケアプランニング」(1月25日開催予定) 「がん患者の遺族へのグリーフケア」(3月22日開催予定) ・滋賀医科大学腫瘍センターがん教室 6回 47名(滋賀県NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催) 「よく使うがん用語を学ぼう」(1回目・8月26日/15名)(2回目・11月15日/8名) 「あなたにとって必要ながん情報を探すコツ」(1回目・9月27日/12名)(2回目・12月5日/7名) 「今話題のACPについて学ぼう」(1回目・10月18日/5名)(2回目・1月23日開催予定) ・滋賀県がん医療フォーラム(滋賀県との共催)(2月4日開催予定) ・滋賀県病院大会シンポジウム(滋賀県病院協会に協力・講師派遣)(2月5日開催予定) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リレー・フォー・ライフ in 滋賀医大(日本対がん協会事業に協力・開催支援)(10月8日、9日) <p>大阪医科大学: 三島圏域がん研究会(5/19・9/14開催、1/26開催予定)、 三島圏域緩和ケア研修会(5月21日、22日開催、平成29年2月25・26日実施予定)、 がんセンター講演会(研修会)(5/12・10/6・11/24・11/25)を実施。</p> <p>三島がん研究会5月19日88名、9月14日147名 三島圏域緩和ケア研修会45名、 がんセンター講演会5月12日70名、10月6日87名、11月24日15名、25日33名</p> <p>京都薬科大学: ①2016年7月5日(火)13:30~15:00 医薬品評価科学特論公開講義「臨床開発における医薬品評価」を開催した。本講座は、本学と塩野義製薬株式会社との連携によるものである。参加者は45名であった。 ②2016年11月27日(日)13:00~16:30 「卒後薬剤師セミナー -がん分子標的治療薬-」を開催した。本セミナーは、本学と一般社団法人京都府薬剤師会との連携によるものである。参加者は211名であった。</p>	
13	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○社会への情報発信の取組(一般向け講演会の開催)の推進</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>「各年度における市民向けの公開講座・セミナー等一覧表」</p>	

番号	達成目標	取組状況等										参考資料等	
13	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)												
		事項	大学名	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
				開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数
		各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122	4	395	4	346
			三重大学	2	585	3	989	2	380	5	951	1	242
			滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213	16	500	6	151
			大阪医科大学	2	320	3	430	1	80	3	346	1	70
			京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	1	41	0	0
		計		15	2,017	25	3,069	10	795	29	2,233	12	809
		<p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 京都大学では、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、毎年度、他拠点大学(京都府立医科大学)との連携で、「府民公開講座」参加229人を実施 (29年1月7日実施 「専門医によるがん検診およびがん診療の最前線」)</p> <p>(手術療法・機器開発コース) 平成28年10月30日(日) 「第14回京都乳がん市民公開講座 ～ 乳がん検診の今！ ～ 」を開催、参加48人</p> <p>(リハビリコース) 「がんリハビリテーション特別講演会」を2回開催(平成28年10月22日、参加25人、および平成29年1月6日参加44人)</p> <p>三重大学: 市民公開講座「パープルリボン・膵臓がんについて学ぶ」を28年9月11日開催242名が参加した。 市民公開講座「知ってほしい、これからの肺がん治療」を29年3月4日に開催する予定である。</p> <p>滋賀医科大学: 【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回 111名参加(9月11日/111名、2月12日予定) ・滋賀医科大学腫瘍センターがん教室 6回 47名(滋賀県NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催) 「よく使うがん用語を学ぼう」(1回目・8月26日/15名)(2回目・11月15日/8名)</p> <p>「あなたにとって必要ながん情報を探そう」(1回目・9月27日/12名)(2回目・12月5日/7名) 「今話題のACPIについて学ぼう」(1回目・10月18日/5名)(2回目・1月23日開催予定) ・滋賀県がん医療フォーラム(2月4日開催予定) ・滋賀県病院大会シンポジウム(2月5日開催予定)</p> <p>大阪医科大学: 市民公開講座「食道・胃がんの外科治療」(28.4.16)参加者 70名 がんセンター市民公開セミナー「みんなで学ぼう。がん医療・肺がん」を平成29年2月18日に実施予定 三島医療圏がん診療連携拠点病院合同 市民公開セミナーを平成29年1月21日に実施予定</p> <p>京都薬科大学: 2017年2月11日(土・祝)14:00～16:30に市民公開講座を開催予定</p>											

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
14	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」ホームページを開設し、連携する5大学(京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学)の市民講座、フォーラム、シンポジウムの開催案内を始めとして、地域医療機関への研修案内等、社会へ向けた積極的な情報発信を行っている。また、毎年度実施する「外部評価」を、HPにておいて公開している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 24年度～27年度に引き続き、「がんプロ」ホームページを開設し、連携する5大学(京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学)の市民講座、フォーラム、シンポジウムの開催案内を始めとして、地域医療機関への研修案内等、社会へ向けた積極的な情報発信を行っている。また、毎年度実施する「外部評価」を、HPにておいて公開している。</p> <p>三重大学: 三重大学大学院と三重大学がんセンターのホームページでそれぞれ本事業の情報公開を行い、大学院のホームページで入学案内を行い、がんセンターのホームページでがんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行っている。</p> <p>滋賀医科大学: 京都大学がんプロのホームページにリンクさせており、また、本学のホームページにおいて、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載している。 平成28年度更新回数15回</p> <p>大阪医科大学: 本学のホームページから本事業ホームページへとリンクさせており、積極的に情報公開を行っている。</p> <p>京都薬科大学: 京都大学で開設されているがんプロホームページを本学ホームページにリンクさせている。本学でがんプロ関連の取り組みを行った場合は、京都大学に情報を提供し、ホームページでの公開を行っている。 本学リンクページ: http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/graduate/</p>	京都大学: HP http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/
15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間での国際学会、英文誌への研究論文発表 100件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を目指し、教育研究成果の発表を重点目標として、英文による教育研究発表を推進しており、24年度における国際学会・英文誌等への発表数 23件、25年度 78件、26年度 46件、27年度 82件、28年度 89件を達成し、当初目標件数 100件を上回る 318件を達成。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28年度の英文研究発表件数は、142件(論文発表 76件、学会発表66件) うち筆頭発表数は、89件(論文発表33件、学会発表56件) (資料10 国際学会、英文誌発表)のとおり</p>	(資料10-1) 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	<p>三重大学： 英文誌への研究論文発表 腫瘍内科医コース 永春圭規(筆頭) A case of hyperammonemia associated with high dihydropyrimidine dehydrogenase activity. Case Reports in Oncological Medicine 2016;2016:7510901. 乳腺外科コース 澁澤麻衣(筆頭) The usefulness of a computer-aided diagnosis scheme for improving the performance of clinicians to diagnose non-mass lesions on breast ultrasonographic images. J Med Ultrasonics 2016;43:387-394.</p> <p>滋賀医科大学： ・平成28年度【国際学会・シンポジウムでの発表】5件 【英文誌への発表】6件</p> <p>大阪医科大学： Gastrointestinal Cancers Symposium, A multicenter phase II study of combination therapy with oral S-1 plus cisplatin in elderly patients with advanced gastric cancer、2017年1月、筆頭発表、共著発表</p> <p>京都薬科大学： 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。 平成28年度 国際学会、英文誌への研究論文発表数 10件</p>	<p>(資料10-2) 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」</p> <p>(資料10-3) 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」</p>
16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標 ○5年間での海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加60人を目標</p> <p>5年間の取組状況 国際的視野を持った医療人・研究者育成のため、国際学会・シンポジウム等への研究発表参加を推進しており、24年度における海外派遣 26件、25年度海外派遣 43件、26年度海外派遣 23件、27年度海外派遣 55件、28年度海外派遣 46件を達成した。 なお、25年度より、連携大学との人材交流、多職種交流の強化、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させるため、「5大学連携 ソウル大学合同教育セミナー」、26年度は、「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」、27年度は、「5大学連携 シンガポール大学合同教育セミナー」、28年度は、「5大学連携 Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」を実施し、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>各大学における28年度取組状況 京都大学： がんプロ学生の海外派遣 46件 (資料12)「海外派遣一覧」とおり なお、28年度は、5大学連携事業で、「Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」を実施し、研究成果の発表を推進させた。 三重大学： 5大学連携事業「Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」に、放射線腫瘍医コース履修生1名が研究成果を発表</p>	<p>京都大学： (資料12) 「海外学会・シンポジウム等参加状況」とおり</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数	<p>滋賀医科大学： ・平成28年度：5大学連携「香港合同教育セミナー」に大学院生2名が参加しシンポジウムにおいて研究発表および最先端研究施設の視察を行った。 ・2016米国癌学会（AACR）年次総会に大学院生1名が参加しポスター発表を行った。 ・がんプロ在籍中ががん専門薬剤師を取得した修了生が、平成28年度がん薬物療法認定薬剤師、がん専門薬剤師海外派遣事業に参加し、米国がん専門病院であるMemorial Sloan-Kettering Cancer Centerでの研修、国際シンポジウム（The Chemotherapy Foundation Symposium; New York City）に参加</p> <p>大阪医科大学： 5大学連携事業「Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」に、大学院生2名が参加し研究発表を行った。</p> <p>京都薬科大学： ・2016年7月7日～7月14日 「24th Biennial Congress of the European Association for Cancer Research」（英国）で、1名の大学院生が発表参加した。 ・2016年10月27日～10月30日 5大学連携「海外合同教育セミナー」（香港）に、2名の大学院生を派遣し研究発表。 ・2016年12月2日～12月8日 「2016 ASCB Annual Meeting」（米国）で、1名の大学院生が発表参加した。 ・2016年12月2日～12月8日 「第58回アメリカ血液学会年次総会」（米国）で、1名の大学院生が参加した。</p>	
17	国際交流プログラムの実施数	<p>事業期間中（5年間） 達成目標</p> <p>○5年間での国際交流プログラムの実施 5件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>1)MDアンダーソンとの交流プログラムにより、「GAP conference MDACC—Kyoto University Symposium」を実施、 2)韓国ソウル大学との交流プログラムにより、 ①「Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University」、 ②「5大学連携ソウル大合同教育セミナー」を実施、 3)国立台湾大学との交流プログラムにより、「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」、 4)シンガポールとの交流プログラムにより、「5大学連携 シンガポール大学合同教育セミナー」、 5)Chinese University Hong Kongとの交流プログラムにより、「5大学連携 Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」を実施、 6)インド Christian medical collageとの交流プログラムにより、特別講演の実施、がんプロ履修生の派遣。 7)ベルギー自由大学との交流プログラムにより、がんプロ履修生を派遣、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 28年度においては 1)MDアンダーソンとの交流事業を推進させるため、ブラジルGAPミーティングにがんプロ指導教員、がんプロ履修生を参加させた。</p> <p>2)Chinese University Hong Kongとの交流プログラムにより、「5大学連携 Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」を実施(28.10.27～10.28)(指導教員3名、履修生7名参加)を実施</p> <p>3)台湾からの留学生を対象に放射線腫瘍学・医学物理教育を行った。(放射線治療医・医学物理コース)</p> <p>4)UCサンディエゴが主導する国際共同臨床試験に参加するためのcredentialingを完了した。(放射線治療医・医学物理コース)</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
17	国際交流プログラムの実施数	<p>5)オハイオ州立大学からの研究者を受け入れ、共同研究に関する会議を行った。(2016/6/15)。(放射線治療医コース)</p> <p>6)海外からの病院研修生 (Clinical Observership for visiting physicians)を1名受け入れ実施。(婦人科コース)</p> <p>三重大学: 香港大学との海外合同教育セミナー(28年10月27-30日、香港)に2名(指導教官1名、履修者1名)が参加し、研究発表を行った。</p> <p>滋賀医科大学: ・SUMSプロジェクトとしてアジアの提携大学から継続的に大学院生1名を継続的に受け入れて入る。(平成28年度 大学院生1名と客員研究員1名) ・「5大学連携 Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」を実施(28.10.27~10.28)(指導教員1名、履修生2名参加)</p> <p>大阪医科大学: 5大学連携「Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」に、がんプロ履修生2名が参加</p> <p>京都薬科大学: 2016年10月27日~10月30日 5大学連携「海外合同教育セミナー」(香港)に、2名の大学院生(がんプロコース履修者)を派遣した。</p>	
18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間での海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催10件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>1) 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催では、25年度および26年度に、「GAP conference MDACC-Kyoto University Symposium」を実施、</p> <p>2) 25年度、26年度、27年度に、「Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University」を開催、</p> <p>3) Christian medical collageとの交流プログラムによる特別講演、</p> <p>4) 27年度に、2015年5月26日 チューリッヒ大学 教授 Roger Stupp, MD“State of the Art and Innovative Therapies in Malignant Glioma”、 2015年10月20日 カロ+D172:D177リンスカ研究所(スウェーデン)Prof.Yihai Cao “Tumor angiogenesis and antiangiogenic therapy” 201年2月29日(月)トロント大学・カナダ Dr. Scott V. Bratman 「Biomarkers for personalized treatment of head and neck cancer」</p> <p>5) 三重大学においても、米国インディアナ大学より骨転移の専門家を招いての特別講演が行われるなど、当初目標を大きく上回る効果・成果が出ている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学:</p> <p>1) OncoPrime セミナー LD7:I21IQUID BIOPSYを用いた網羅的がん遺伝子解析とその臨床応用 Guardant Health社 vice president Stan Skrzypczak</p> <p>2) Special Lecture ROLE OF TRANSLATIONAL STUDIES MULTIDISCIPLINARY CLINICAL TRIALS OF ANTI-CANCER AGENTS Associate Professor of Tumor Biology, Harvard Medical School Dr. Dan G Duda</p>	(資料9-2) 「シンポジウム・研修会・セミナーの開催」

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	<p>3) がんプロ特別講演 Advances in breast cancer reconstruction plastic surgeon at Cleveland Clinic Risal Djohan ,MD</p> <p>4)がんプロ特別講演 managing expectation in breast cancer patients:balancing complexity in cancer treatment and reconstruction plastic surgeon at Cleveland Clinic Risal Djohan ,MD</p> <p>5)The Microbiome and Human Breast Cancer Professor of Surgery Director, Section of Surgical Oncology Director, Cleveland Clinic Breast Center Cleveland Clinic STEPHEN R. GROBMYER, MD, FACS</p> <p>6)がんプロ腫瘍セミナー “Light and dark sides of aPKC; aPKC controls endo thelial growth by modulating FoxO DNA binding ability” Max-Planck-Institute for Heart and Lung Research Laboratory for Cell Polarity and Organogenesis Masanori Nakayama, PhD</p> <p>7)がんプロ特別講演 「Current topics in primary breast cancer management」 Professor of Applied Surgical Sciences(Anglia Ruskin University) Parsonal Chair</p> <p>三重大学: 29年2月8日より、米国ダートマス大学腫瘍内科部門associate professorの白井敬祐医師を講師として、招聘し、「米国でのがん医療について」の講演会を開催する予定。</p> <p>滋賀医科大学: ・国立台湾大学病院 薬剤部長Li-Jiuan (Rita) Shen先生による、薬学実習生に向けたの講演が行われた。(平成28年6月23日) ・シンシナティ小児病院から福田剛史准教授による、若手薬剤師や大学院生と研究内容のディスカッション等の研究指導を受けた。(平成28年11月15日)</p> <p>・神戸市立医療センター中央市民病院・部長による、最新のがん化学療法薬剤曝露予防の講演会を行った(平成28年10月26日、安井久晃、第1回腫瘍センター講演会)。 ・神戸大学大学院・特命教授による、最新のアドバンスケアプランニングの講演会を行う予定(平成29年1月25日、木澤義之、第2回腫瘍センター講演会)。</p>	
19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○がんプロ大学院生が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制を整備することを目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えられ、国内外の学会・シンポジウムでの履修生による研究発表を推進させるため、指導教員の推薦のもと、発表論文名、参加学会名、得られる成果等を記載させ、がんプロ養成委員会において審査のうえ、学会等への発表参加推進のため旅費支援を実施、これにより、履修生による教育研究意欲が大きく向上し、発表論文数の増加に繋がることとなり、当初目標を上回る大きな効果・成果が出ている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28年度においても、「がんプロ養成管理委員会」において、国際的視野を有した研究者への養成のため、国際学会での発表に積極的に参加させることが確認され、がんプロ履修生への海外・国内学会等での研究成果発表者を募集、この募集により、海外19件、国内33件の研究成果発表を「がんプロ」で実施。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	<p>また、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させること、研究発表を推進させることを目的として、世界でも有数のがん診療施設・がん研究者を有する「5大学連携 Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」を実施(28.10.27～10.28)</p> <p>三重大学： コース履修者の海外での研修の場合は経済的サポートを積極的に行い、現地へ留学中の研究者と活発な交流を行えるように手配する体制を整備している。</p> <p>滋賀医科大学： ・平成28年度：5大学連携「香港合同教育セミナー」に大学院生2名（新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース1名・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース1名）が参加し附属病院視察、シンポジウムにおいて研究発表を行った。 ・2016米国癌学会（AACR）年次総会に大学院生1名（新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース）が参加し研究発表を行った。</p> <p>大阪医科大学： コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修を希望し、教育研究上必要と認められた場合、旅費等の一部支給等の助成を行うことができることとしている。</p> <p>京都薬科大学： サポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば学内規程（京都薬科大学科学振興基金規程）により、留学に必要な資金に充当できる助成金を支給する。 なお、2016年10月27日～10月30日 5大学連携「海外合同教育セミナー」（香港）に、2名の大学院生（がんプロコース履修者）を派遣し研究発表を行った。</p>	
20	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	<p>事業期間中（5年間） 達成目標</p> <p>○年1回 連携5大学による「合同フォーラム」の開催を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>毎年度「5大学連携・医療フォーラム」を実施、 24年度は、北海道大学 白土先生、国立がん研究センター 大津先生、聖隷三方原病院 森田先生による特別講演および文部科学省 渡辺企画官による講演、および、連携する5大学における重点区分と特色を紹介</p> <p>25年度は、三重大学が当番校として三重県津市において開催され、特別講演のほか各大学の重点区分、履修生による成果発表を紹介。</p> <p>26年度は、京都大学 婦人科学産科学 小西郁生教授による特別講演「卵巣がん治療のゲノム個別化を展望する」、および、各大学における重点区分の取り組み状況の発表、さらに、がんプロ履修生による教育研究成果発表が行なわれ、順調に事業は進捗しており、当初目標どおり効果・成果が出ている。</p> <p>27年度は、28年1月19日 京都大学・芝蘭会館において、「5大学連携・医療フォーラム」を実施、同フォーラムでは、滋賀医科大学 森 毅 講師による特別講演、および、5大学を代表するがんプロ履修生11各による教育研究成果の発表を行なわせた。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
20	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	 <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28年度においては、28年11月15日 京都大学・芝蘭会館において、「5大学連携・医療フォーラム」を実施、同フォーラムでは、大阪医科大学 放射線医学 吉田 謙講師、京都薬科大学 臨床腫瘍学 吉貴 達寛教授による特別講演、および、5大学を代表するがんプロ履修生7各による「教育研究成果の発表」、連携する5大学代表者による「各大学の取り組みと成果について」の発表が行われた。</p> <p>三重大学: 平成28年度の5大学連携「医療フォーラム」が平成28年11月15日に京都大学で開催され、三重大学から6名(教官2名、コース大学院生1名、事務3名)参加し、教官1名が座長、コース大学院生1名が研究発表を行った。</p> <p>滋賀医科大学: ・平成28年11月15日に京都大学において開催された5大学連携医療フォーラムに参加し、履修生が「肝臓アブレーションにおける3D非剛体画像レジストレーションを用いた定量的治療評価法の開発」について発表した。</p> <p>大阪医科大学: 平成28年11月15日に連携5大学による「医療フォーラム」において、履修生により「がん診療における18F-FDG PET/CTの有用性」の研究発表を行った。</p> <p>京都薬科大学: 2016年11月15日 平成28年度「5大学連携 医療フォーラム」に参加教授(がんプロコーディネーター)が特別講演をし、がんプロコース履修者1名が、教育研究成果発表を行なった。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間での連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数30件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>27年度までに、「5大学連携 事業推進運営委員会」(年2回)を、8回開催、「5大学連携 医療フォーラム」(年1回)を4回開催、また、25年度より、5大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学連携 海外大学合同教育セミナー」を(年1回)を3回実施、さらに、インテンシブ事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議(年1回)、チーム医療研修(年6回)を開催、さらに、各コースにおいて拠点内大学との研修会が実施され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28年度に、「5大学連携 事業推進運営委員会」を2回開催、「5大学連携 医療フォーラム」を1回開催、また、大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学連携 海外大学合同教育セミナー」を実施</p> <p>さらに、インテンシブ事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議(年1回)、チーム医療研修(年6回)、高精度放射線治療ワークショップ(年1回)を開催、さらに、各コースにおいて拠点内大学との研修会が実施され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>(薬剤師コース) 連携大学間での情報共有を目的に、第5回がん専門薬学研究者・がん専門薬剤師養成4大学連携合同コース会議を開催する(平成29年1月28日開催予定)。</p> <p>婦人科コース: 温知会サマークリニカルフォーラム(関係病院の若手医師による症例報告会)を開催(平成28年7月18日、150名)。</p> <p>(リハビリテーションコース) 大阪医科大学関連のがんリハビリテーションを専門とする医師を、修士課程講義非常勤講師として招請</p> <p>三重大学: ・5大学連携事業「Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」に、放射線腫瘍医コース履修生1名が研究成果を発表 ・7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン第5回国際シンポジウム(29年3月11-12日、大阪)に履修生1名が研究発表</p> <p>滋賀医科大学: 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・滋賀県の薬局薬剤師を対象とした臨床薬剤業務研修を実施して、緩和ケア、病棟実習、化学療法室の見学等を行い、24名が研修を修了した。 ・化学療法室にて、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、立命館大学、摂南大学、大阪薬科大学から計35名が研修。合計指導時間 420時間。 ・緩和ケアについては、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、立命館大学、摂南大学、大阪薬科大学から計35名が研修。合計指導時間 33時間。 ・がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議(研究発表会)が京都大学で開催され、本学より教職員3名(内1名は元がんプロ学生)、大学院生2名が参加予定である。(平成29年1月28日開催予定)</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	<p>【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度滋賀医大腫瘍センター化学療法部門にて、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学、近畿大学、大阪薬科大学から計40名が研修。 ・平成28年度滋賀医大腫瘍センター緩和ケア部門にて、緩和ケアについては、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学、近畿大学、大阪薬科大学から計40名が研修。 <p>大阪医科大学： 5大学連携「Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」に、がんプロ履修生2名が参加</p> <p>京都薬科大学： ・5大学連携事業「Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」に、履修生2名が研究成果を発表 ・7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン第5回国際シンポジウム(29年3月11-12日、大阪)に履修生2名が研究発表</p>	
22	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○連携5大学がんプロ大学院生の e-learning 受講登録100%を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>京都大学版e-learningに加え、全国版(筑波大学版) e-learning に参加、京都大学版 e-learning については、当初よりホームページにおいて受講者募集案内を行っており、各大学の受講登録率は90%を超えるものとなっている。 全国版 e-learningの受講登録については、25年度に参加し、26年度より、ホームページにおいて受講者募集案内を実施、今後、目標に向けて、さらに受講率アップへ向けた取り組みを強化したい。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 25年度より、従来の京都大学版e-learningに加え、全国版(筑波大学版) e-learning 講義の受講を可能とするため連携校5大学が参加した。 なお、京都大学版 e-learning については、京都大学がんプロホームページにおいて受講募集案内を行っており、京都大学履修生のうち79%が受講登録を行っており、他大学では、滋賀医科大学 75%、三重大学 50%、大阪医科大学44%、京都薬科大学 100%となっている。</p> <p>全国版 e-learningの受講についても、京都大学がんプロホームページにおいて受講募集案内を行うこととしたが、各大学の受講登録率は、京都大学 72%、滋賀医科大学 50%、三重大学11%、大阪医科大学 33%、京都薬科大学 100%となっており、目標に向けて、さらに受講率アップへ向けた取り組みを強化したい。</p> <p>三重大学： 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningの受講登録を積極的に勧めている。</p> <p>滋賀医科大学： 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningに受講登録させ、受講を積極的に勧めている。</p> <p>大阪医科大学： 連携5大学のe-learningに登録させ、受講を積極的に勧めている(学生登録率100%)。 また、全国版 e-learning講義についても受講を積極的に勧めている。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
22	連携5大学コース履修者の e-learning 受講登録率	京都薬科大学: 京都大学版 e-learning 講義学生受講登録率 100% 全国版 e-learning 講義学生受講登録率 100%	
23	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○新たな e-learning 講義科目の提供を推進させることを目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>京都大学版 e-learning に加えて、25年度から全国 e-learning に参加し、25年度には、5大学より11本の講義を、26年度は8本、27度は6本の講義を収録し提供を行った。 また、全国のエラーニング授業の受講により、当初目標どおり、分野横断的、先進的教育が推進されるものと期待されているところであり、順調に事業が進捗している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 拠点の取組みとして、28年度においても、全国 e-learning 講義 4本を、新たに撮影・収録する予定としており(合計収録数 29本)、全国のエラーニング授業の提供、受講により、当初目標どおり、分野横断的、先進的教育が推進されるものと期待されているところであり、順調に事業を進捗させている。</p>	
24	医療チームカンサーボードの質の向上のための取組実績	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組推進を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>医療チーム、カンサーボードの質の向上、新しい医療に対応できるよう、24年度には、原発不明がん/希少がんユニット、血液腫瘍ユニットの設置、25年度には、小児がんユニットユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニットの設置、26年度には、神経内分泌腫瘍ユニット、27年度には、「クリニカルシーケンスユニットカンファレンス」、「メラノーマユニットカンファレンス」の設置へと繋がり、医療チーム、カンサーボード以外にも、各コースにおいて、多数のがんプロ履修生が参加する「合同カンファレンス・症例検討会・勉強会」が実施され、カンサーボードの質の向上へと繋がられ、順調に事業が進捗している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組として、診療科横断的なカンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的な合同カンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている。</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) 入院患者のがん薬物治療に関する症例検討会を週1回開催、診療科・職種横断的な外来科学療法に関する検討会を月1回、診療科・職種横断的な京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。</p> <p>(リハビリコース) 各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療カンファレンス等(がんサポートチームのカンファレンス等)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)</p>	(資料8-1) 京都大学 「カンサーボード一覧」のとおり

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等																																																																																										
24	医療チームキャンサーボードの質の向上のための取組実績	<p>(婦人科コース) 毎週水曜日に研修医・修練医・医員・スタッフによる臨床カンファレンスおよび画像カンファレンスを行い、診療の質の向上に取り組んでいる。</p> <p>(手術療法・機器開発コース) 専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定するとともに、国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のキャンサーボードへの参加を推進している。</p> <p>(放射線治療医コース) 各ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。 がんプロコース生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。</p> <p>三重大学： 毎月1回開催される、がんセンターの各部門のリーダーと三重県健康福祉部の担当で構成されるリーダー会議で、緩和ケアチーム、口腔ケアチームの活動状況やtumor board、骨転移合同カンファレンスの運営状況が報告され、質の向上に向けた協議を行っている。 また、緩和ケアチームの定例会が毎月1回開催され、活動内容についての問題点を把握し、解決に向けての協議を行っている。</p> <p>滋賀医科大学： ・平成28年度は10月12日に「妊娠中期乳癌」を検討症例として開催され、腫瘍センター、腫瘍内科、乳腺一般外科、母子診療科、麻酔科、薬剤部等から10名(医師7名、看護師2名、薬剤師1名)が参加 ・臓器別キャンサーボードは、各診療科において毎週もしくは隔週で開催している。 ・全科キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。</p> <p>大阪医科大学： 緩和ケア委員会、緩和ケア研究会、化学療法センター症例検討会等々の多職種での取組みを行っている。</p>	(資料8-2) 滋賀医科大学 「キャンサーボード体制」																																																																																										
25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間でのがん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績150件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度における各種団体(※)との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> <td>13</td> <td>683</td> <td>11</td> <td>560</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> <td>26</td> <td>1083</td> <td>20</td> <td>685</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> <td>22</td> <td>1877</td> <td>12</td> <td>1029</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> <td>4</td> <td>316</td> <td>6</td> <td>375</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>80</td> <td>2</td> <td>256</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> <td>67</td> <td>4,039</td> <td>51</td> <td>2,905</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		開催数	参加人数	各年度における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	13	683	11	560	三重大学	16	593	17	573	13	438	26	1083	20	685	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	22	1877	12	1029	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	4	316	6	375	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	2	80	2	256	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	67	4,039	51	2,905									
事項	大学名	24年度			25年度		26年度		27年度		28年度																																																																																		
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																																																		
各年度における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	13	683	11	560																																																																																		
	三重大学	16	593	17	573	13	438	26	1083	20	685																																																																																		
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	22	1877	12	1029																																																																																		
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	4	316	6	375																																																																																		
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	2	80	2	256																																																																																		
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	67	4,039	51	2,905																																																																																		

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	<p>24年度より、三重大学においては、がんチーム医療研究会(年2回)、滋賀医科大学では、地域医療パス研修会、地域医療機関との合同カンファレンス、地域医師への緩和ケア研修会、がん早期診断研修、薬物療法研修、京都大学においても、高精度放射線ワークショップ(年3回)、チーム医療研修会(年6回)、大阪医科大学では、三島圏域がん研究会(年2回)が毎年度継続的に開催され、地域医療機関と連携した教育が、24年度51件、25年度53件、26年度34件、27年度67件開催され、順調に事業が進捗している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: がんチーム医療研修(5回)、 がんチーム医療研修フォローアップミーティング(1回)、 高精度放射線治療ワークショップ(1回、第29回) 第5回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース(1回)を実施した。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 京都放射線腫瘍研究会プログラム(平成28年10月)(医師・技師・医学物理士 約120名参加)を実施。</p> <p>(薬剤師養成コース) 平成28年11月2日に京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化することを目的として、「2025年に向けた薬剤師業務研究会」を開催(@メルパルク京都、参加者90名)。</p> <p>(婦人科コース) 当教室では毎年1月末～2月に「産婦人科手術・化学療法研究会」を主催している。そこでは、地域の婦人科がん治療施設からの一般演題を募集し、さらに特別講演も行って、婦人科がん治療に関するディスカッションを行っている。参加者は約50名である。 また、毎年11月に「関西婦人科腫瘍・病理懇話会」を主催しており、地域の婦人科がん治療施設から婦人科腫瘍で病理診断が困難であったり珍しかった症例の病理標本を検討し、ディスカッションを行っている。参加者は約50名である。</p> <p>三重大学: 緩和ケア研修会を三重県内の医療機関、医師会と連携し、28年8月27、28日(29名参加)に開催し、29年1月8、9日に開催を予定している。 同様にして、緩和ケアセミナーを、28年7月28日(60名参加)、10月27日(77名参加)に開催し、早期からの緩和ケアを考える会を5月19日(44名参加)に開催した。</p> <p>三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、がんチーム医療研究会を9月9日(83名参加)に開催した。 歯科医師会と連携した医科歯科連携推進人材養成研修会を7月17日(190名参加)に開催した。 理学療法士会と連携した三重がんリハビリテーション研修会を7月23日に開催(69名参加)した。</p> <p>滋賀医科大学: 【地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース】 ・第17回滋賀県放射線治療連絡協議会勉強会(1月7日開催予定) 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:3回、486名参加(4月24日/261名、10月2日/225名、平成29年1月28日開催予定) ・滋賀県がん薬物療法conference:3回 62名参加(7月6日/35名、11月2日/27名、平成29年3月1日予定)</p> <p>【新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース】 ・若年がんを考える会 2回 36名参加(8月6日/36名・12月10日開催予定) ・病診連携フォーラム 2回 72名参加(6月26日/34名、11月13日/38名) 【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 111名参加(9月11日/111名、2月12日予定)</p>	<p>京都大学: (資料9-1) 「インテンシブコース実施事業」</p> <p>(資料9-2) 「シンポジウム・研修会・セミナーの開催」</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	<p>・腫瘍センター講演会 4回 225名 「がん患者妊よう性温存 現状と滋賀県の取り組み」(6月1日/136名) 「がん薬物療法における曝露対策について」(10月26日/89名) 「がん医療におけるアドバンスケアプランニング」(1月25日開催予定) 「がん患者の遺族へのグリーフケア」(3月22日開催予定) ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀 1回 37名参加(7月23日/37名) ・滋賀県がん医療フォーラム(滋賀県との共催)(2月4日開催予定) ・滋賀県病院大会シンポジウム(滋賀県病院協会に協力・講師派遣)(2月5日開催予定)</p> <p>・滋賀医科大学腫瘍センターがん教室 6回 47名(滋賀県NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催) 「よく使うがん用語を学ぼう」(1回目・8月26日/15名)(2回目・11月15日/8名) 「あなたにとって必要ながん情報を探すコツ」(1回目・9月27日/12名)(2回目・12月5日/7名) 「今話題のACPについて学ぼう」(1回目・10月18日/5名)(2回目・1月23日開催予定)</p> <p>大阪医科大学: 三島圏域がん研究会(5/19・9/14・1/26予定)、三島圏域緩和ケア研修会(2月25・26日実施予定)、がんセンター講演会(研修会)(5/19・9/14)実施(1/26)を実施予定。 三島がん研究会5月19日88名、9月14日147名、1月26日予定、がんセンター講演会5月12日70名、10月6日87名、11月24日15名、11月25日33名</p>	
26	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間での多職種連携教育(がんチーム医療研究会(10回・450名)を目標 ○多職種連携教育の取組推進を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>毎年度、京都大学では、高精度放射線ワークショップ(年3回・6名)、チーム医療研修会(年6回・72名)を開催、三重大学では、チーム医療研修会(年2回・200名)、滋賀医科大学においては、緩和ケア研修会(年1回・30名)、大阪医科大学では、緩和ケア事例検討会(年1回)及びOMC緩和ケアセミナー(年1回)が開催され、順調に事業が進捗している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 京都大学では、がんチーム医療研修(5回)(薬剤師・看護師・医師46名参加)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・30名参加)、高精度放射線治療ワークショップ(第29回)(医師・技師・医学物理士4名参加)、第42京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士120名参加)を実施。</p> <p>また、5大学間の人材交流、多職種交流を図るため、「5大学連携 Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」を実施し、教育研究成果の発表が行われた。</p> <p>(次世代の臨床試験を担う人材育成コース) 医師(外科、内科)、看護師、薬剤師、CRC、作業療法士などが集う多職種チーム会議を月1回開催し、特にコメディカルが主体となっていく臨床試験の計画・遂行を支援。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 高精度放射線治療ワークショップ 第29回 12月17-18日、(医師・技師・医学物理士6名参加)、 京都放射線腫瘍研究会プログラム(平成28年10月)(医師・技師・医学物理士 約120名参加) 年に数回、病棟看護師、外来看護師向けの放射線治療に関する勉強会を開催。平成28年度は、診療放射線技師向け勉強会1回、診療棟看護師向け勉強会1回、外来看護師向け勉強会1回を開催。各参加者は、10名～20名程度</p>	<p>京都大学: (資料9-1) 「インテンシブコース実施事業」</p> <p>(資料9-2) 「シンポジウム・研修会・セミナーの開催」</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
26	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	<p>三重大学： 医師、薬剤師、看護師が参加する緩和ケア研修会（1件29名）、緩和ケアセミナー2件137名）、早期からの緩和ケアを考える会（1件44名）、がんチーム医療研究会（1件83名）。医師、歯科医師、歯科衛生士が参加する医科歯科連携研修会（1件190名）。医師、理学療法士、看護師が参加するがんリハビリテーション研修会（1件69名）。</p> <p>滋賀医科大学： 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：3回、486名参加（第12回・4月24日/261名、第13回・10月2日/225名、第14回平成29年1月28日開催予定）</p> <p>【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 ・平成28年度滋賀医大腫瘍センター化学療法部門にて、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学、近畿大学、大阪薬科大学から計40名が研修。 ・平成28年度滋賀医大腫瘍センター緩和ケア部門にて、緩和ケアについては、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学、近畿大学、大阪薬科大学から計40名が研修。</p> <p>大阪医科大学： 大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週木曜日に定例会を開催している。</p>	
27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	<p>事業期間中（5年間） 達成目標</p> <p>○5年間でのがん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会 50名を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>毎年度、三重大学において、緩和ケア修了者に対する「フォローアップ研修会」（年1回以上）を開催し、がん診療連携拠点病院での緩和ケア教育が実施されている。また、京都大学においても、京都府健康福祉部とも連携した「緩和ケア研修会」、ELNEG研修会（エンドオブライフケア研修）」を開催するなど、緩和ケア教育の充実に努め、順調に事業を進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 「がんチーム医療研修フォローアップ研修会」（1回・30名参加）を開催予定 「レベルアップ研修」8月30日～9月1日 20名参加</p> <p>京都府健康福祉部との連携 ・「第1回緩和ケア（PEACE）研修会」2016/4/9-10 41名参加 ・「第2回緩和ケア（PEACE）研修会」2016/9/3-4 34名参加 ・「第3回緩和ケア（PEACE）研修会」2016/11/19-20 47名参加 ・「第4回緩和ケア（PEACE）研修会（予定）」2016/2/27-28 50名参加予定 ・「ELNEC-J研修会」（エンドオブライフケアについて）2016/9/10-11 54名参加</p> <p>（緩和医療学講座） 緩和ケア研修会を修了し事前に登録をした京都府下の勤務医／開業医を対象とした『双方向遠隔講義による専門的緩和ケア研修推進事業』として、身体・精神コースにわけて各コース月1回インターネットによる講義を開催している。（受講申込者：身体コース34名、精神コース37名）</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	<p>三重大学： 緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップのための緩和ケアセミナーを、28年7月28日(60名参加)、10月27日(77名参加)に開催し、早期からの緩和ケアを考える会を5月19日(44名参加)に開催した。</p> <p>滋賀医科大学： 【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 ・腫瘍センター講演会 4回 225名 「がん患者妊よう性温存 現状と滋賀県の取り組み」(6月1日/136名) 「がん薬物療法における曝露対策について」(10月26日/89名) 「がん医療におけるアドバンスケアプランニング」(1月25日開催予定) 「がん患者の遺族へのグリーフケア」(3月22日開催予定) ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀 1回 37名参加(7月23日/37名)</p>	
28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>京都大学では、「がんチーム医療研修」(年6回)、高精度放射線治療ワークショップ(年2回)、「放射線腫瘍研究会プログラム」(年1回)を実施、また、三重大学においては、三重県内のがん診療連携拠点病院の医療チームが参加する「がんチーム医療ワークショップ」(年1回)を実施、滋賀医科大学においては、滋賀放射線治療連絡協会と連携した「滋賀放射線治療勉強会」を実施するなど、各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修が推進され、順調に事業が進捗している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、がんチーム医療研修(5回・薬剤師・看護婦・医師57名参加)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・薬剤師・看護婦・医師30名参加予定)、高精度放射線治療ワークショップ(第29回 2016.12.16-17)(医師・技師・医学物理士4名参加)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(第42回 2016.10.29)(医師・技師・医学物理士120名参加)</p> <p>三重大学： 現在、兵庫県立粒子線医療センターと連携して、コース履修者の研修を行っている。</p> <p>滋賀医科大学： 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・九州・山口ブロックがん専門薬剤師フォーラムで、がん専門薬剤師に求められるプロフェッショナリズムとリーダーシップに関して講義を行った。(平成28年11月5日) ・近畿大学薬学部生涯教育研究会で、がん薬物療法における薬物トランスポーターの役割に関して講義を行った。(平成28年11月12日)</p> <p>【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 ・帝京大学がんセンターでのがんプロ大学院講義を1回実施し多職種による先進医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・帝京大学内科学講座でのがん関係学部講義を2回実施し、がん医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・東京大学大学院(TR看護学)での大学院講義を1回実施し、がんTR研究推進の方策に関して啓蒙した。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等																																																																																											
29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間での地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組230件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">各年度中における各種団体(*)との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> <td>13</td> <td>683</td> <td>11</td> <td>560</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> <td>26</td> <td>1083</td> <td>20</td> <td>685</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> <td>22</td> <td>1877</td> <td>12</td> <td>1029</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> <td>4</td> <td>316</td> <td>6</td> <td>375</td> </tr> <tr> <td></td> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>80</td> <td>2</td> <td>256</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> <td>67</td> <td>4,039</td> <td>51</td> <td>2,905</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p> <p>毎年度、京都大学では、高精度放射線ワークショップ(年3回)、チーム医療研修会(年6回)、がん専門薬剤師養成研修(年2回)などを開催、三重大学では、チーム医療研修会(年2回)、がん患者の医科歯科連携講習(年3回)などを開催、滋賀医科大学では、地域連携パス研修会、地域医療機関との合同カンファレンス(年5回)、地域医師への緩和ケア研修会(年2回)などを開催、大阪医科大学では、三島圏緩和ケア研修会(年1回)を開催、地域医療貢献の取り組みを推進させ、順調に事業を進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、がん専門薬剤師養成研修を年2回実施、(2016.11.2、2017.1.28)、がんチーム医療研修を5回実施、(11.8-11.9、11.29-11.30、12.13-12.14、1.17-1.18、2.7-2.8)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会を1回実施予定、高精度放射線治療ワークショップを1回実施、(第29回 2016.12.16-12.17)、京都放射線腫瘍研究会プログラムを1回実施(第42回 2016.10.29)</p> <p>京都府健康福祉部との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1回緩和ケア(PEACE)研修会」2016/4/9-10 41名参加 ・「第2回緩和ケア(PEACE)研修会」2016/9/3-4 34名参加 ・「第3回緩和ケア(PEACE)研修会」2016/11/19-20 47名参加 ・「第4回緩和ケア(PEACE)研修会(予定)」2016/2/27-28 50名参加予定 ・「ELNEC-J研修会」(エンドオブライフケアについて)2016/9/10-11 54名参加 <p>(緩和医療学講座) 緩和ケア研修会を修了し事前に登録をした京都府下の勤務医/開業医を対象とした『双方向遠隔講義による専門的緩和ケア研修推進事業』として、身体・精神コースにわけて各コース月1回インターネットによる講義を開催している。(受講申込者：身体コース34名、精神コース37名)</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 京都放射線腫瘍研究会プログラム(平成28年10月)(医師・技師・医学物理士 約120名参加)を実施。</p> <p>(婦人科コース) 温知会サマールニカルフォーラム(関係病院の若手医師による症例報告会)を開催(平成28年7月18日、150名)。</p> </p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		開催数	参加人数	各年度中における各種団体(*)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	13	683	11	560	三重大学	16	593	17	573	13	438	26	1083	20	685	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	22	1877	12	1029	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	4	316	6	375		京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	2	80	2	256	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	67	4,039	51	2,905	京都大学： (資料9-1) 「インテンシブコース実施事業」								
事項	大学名	24年度			25年度		26年度		27年度		28年度																																																																																			
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																																																			
各年度中における各種団体(*)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	13	683	11	560																																																																																			
	三重大学	16	593	17	573	13	438	26	1083	20	685																																																																																			
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	22	1877	12	1029																																																																																			
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	4	316	6	375																																																																																			
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	2	80	2	256																																																																																			
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	67	4,039	51	2,905																																																																																			

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	<p>三重大学： 三重県内の医療機関、医師会と連携し、緩和ケア研修会を28年8月27、28日(29名参加)に開催し、さらに、29年1月8、9日に開催を予定している。 同様に、緩和ケアセミナーを、28年7月28日(60名参加)、10月27日(77名参加)に開催し、早期からの緩和ケアを考える会を5月19日(44名参加)に開催した。 三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、がんチーム医療研究会を9月9日(83名参加)に開催した。</p> <p>歯科医師会と連携した医科歯科連携推進人材養成研修会を7月17日(190名参加)に開催した。 理学療法士会と連携した三重がんリハビリテーション研修会を7月23日に開催(69名参加)した。 県内各医療機関にて放射線治療を行っている医師・技師・看護師を対象に、平成28年2月21日 第1回三重がん放射線治療研究会を開催予定である。 三重県産婦人科医会の協力のもと、コース履修生が中心となり、がん検診受診率の調査を行った。</p> <p>また、地域医療機関と連携し、がん薬物療法における薬薬連携研修会～化学療法レジメン情報を患者指導に活かすために～を平成28年8月に開催(120名参加)、平成29年2月に2回目の開催を予定している。(薬剤師養成コース)</p> <p>滋賀医科大学： 【地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース】 ・第17回滋賀県放射線治療連絡協議会勉強会(1月7日開催予定)</p> <p>【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:3回、486名参加(4月24日/261名、10月2日/225名、平成29年1月28日開催予定) ・滋賀県がん薬物療法conference:3回 62名参加(7月6日/35名、11月2日/27名、平成29年3月1日予定)</p> <p>【新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース】 ・若年がんを考える会 2回 36名参加(8月6日/36名・12月10日開催予定) ・病診連携フォーラム 2回 72名参加(6月26日/34名、11月13日/38名)</p> <p>【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回 111名参加(9月11日/111名、2月12日予定) ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀 1回 37名参加(7月23日/37名)</p> <p>・腫瘍センター講演会 4回 225名 「がん患者妊よう性温存 現状と滋賀県の取り組み」(6月1日/136名) 「がん薬物療法における曝露対策について」(10月26日/89名) 「がん医療におけるアドバンスケアプランニング」(1月25日開催予定) 「がん患者の遺族へのグリーフケア」(3月22日開催予定)</p> <p>・滋賀医科大学腫瘍センターがん教室 6回 47名(滋賀県NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催) 「よく使うがん用語を学ぼう」(1回目・8月26日/15名)(2回目・11月15日/8名) 「あなたにとって必要ながん情報を探すコツ」(1回目・9月27日/12名)(2回目・12月5日/7名)</p> <p>「今話題のACPについて学ぼう」(1回目・10月18日/5名)(2回目・1月23日開催予定)</p> <p>・滋賀県がん医療フォーラム(滋賀県との共催)(2月4日開催予定) ・滋賀県病院大会シンポジウム(滋賀県病院協会に協力・講師派遣)(2月5日開催予定)</p> <p>【その他】 ・リレー・フォー・ライフ in 滋賀医大(日本対がん協会事業に協力・開催支援)(10月8日、9日)</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等																																																																																										
29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	<p>大阪医科大学： 三島圏域がん研究会(5/19・9/14開催、1/26開催予定)、 三島圏域緩和ケア研修会(5月21日、22日開催、平成29年2月25・26日実施予定)、 がんセンター講演会(研修会)(5/12・10/6・11/24・11/25)を実施。 三島がん研究会5月19日88名、9月14日147名 三島圏域緩和ケア研修会45名、がんセンター講演会5月12日70名、10月6日87名、11月24日15名、25日33名</p>																																																																																											
30	市民公開講座等一般向け講演会の開催数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標 ○5年間での市民公開講座等一般向け講演会の開催15件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等</td> <td>京都大学</td> <td>5</td> <td>739</td> <td>5</td> <td>714</td> <td>2</td> <td>122</td> <td>4</td> <td>395</td> <td>4</td> <td>346</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>2</td> <td>585</td> <td>3</td> <td>989</td> <td>2</td> <td>380</td> <td>5</td> <td>951</td> <td>1</td> <td>242</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>6</td> <td>373</td> <td>14</td> <td>936</td> <td>5</td> <td>213</td> <td>16</td> <td>500</td> <td>6</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2</td> <td>320</td> <td>3</td> <td>430</td> <td>1</td> <td>80</td> <td>3</td> <td>346</td> <td>1</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>41</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>15</td> <td>2,017</td> <td>25</td> <td>3,069</td> <td>10</td> <td>795</td> <td>29</td> <td>2,233</td> <td>12</td> <td>809</td> </tr> </tbody> </table> <p>京都大学では、京都府立大学との他拠点大学との連携による「府民公開講座」を毎年度実施、また、乳がんにかかる「市民公開講座」を年2回程度開催、また、三重大学では、がん患者の医科歯科連携協議を進め、三重県庁で、県知事も交えた医科歯科連携の協定調印式後に、がん患者の医科歯科連携の三重県民への啓発のための市民公開講座を開催するなど、目標を上回る成果があり順調に事業が進捗している。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、毎年度、他拠点大学(京都府立医科大学)との連携で、「府民公開講座」参加229人を実施 (29年1月7日実施「専門医によるがん検診およびがん診療の最前線」)</p> <p>(手術療法・機器開発コース) 平成28年10月30日(日) 「第14回京都乳がん市民公開講座 ～ 乳がん検診の今！ ～ 」参加48人を開催</p> <p>(婦人科コース) 女性の健康週間市民公開講座(平成29年3月5日開催予定)</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 市民公開講座「ちょっと待った！ そのがん、切らないと治らないの？」(1回、平成28年11月)を実施。</p> <p>(リハビリコース) 「がんリハビリテーション特別講演会」を2回開催(平成28年10月22日、参加25人、および平成29年1月6日参加44人)</p> <p>三重大学： ・市民公開講座「パープルリボン・睨臓がんについて学ぶ」、28年9月11日開催、242名参加。 ・「知ってほしい、これからの肺がん治療」、29年3月4日開催予定。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		開催数	参加人数	各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122	4	395	4	346	三重大学	2	585	3	989	2	380	5	951	1	242	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213	16	500	6	151	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80	3	346	1	70	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	1	41	0	0	計		15	2,017	25	3,069	10	795	29	2,233	12	809	(資料9-2) 「シンポジウム・研修会・セミナーの開催」								
事項	大学名	24年度			25年度		26年度		27年度		28年度																																																																																		
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																																																		
各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122	4	395	4	346																																																																																		
	三重大学	2	585	3	989	2	380	5	951	1	242																																																																																		
	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213	16	500	6	151																																																																																		
	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80	3	346	1	70																																																																																		
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	1	41	0	0																																																																																		
計		15	2,017	25	3,069	10	795	29	2,233	12	809																																																																																		

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
30	市民公開講座等一般向け講演会の開催数	<p>滋賀医科大学: 【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回 111名参加(9月11日/111名、2月12日予定) ・滋賀医科大学腫瘍センターがん教室 6回 47名(滋賀県NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催)</p> <p>「よく使うがん用語を学ぼう」(1回目・8月26日/15名)(2回目・11月15日/8名) 「あなたにとって必要ながん情報を探そう」(1回目・9月27日/12名)(2回目・12月5日/7名) 「今話題のACPについて学ぼう」(1回目・10月18日/5名)(2回目・1月23日開催予定) ・滋賀県がん医療フォーラム 1回(2月4日開催予定) ・滋賀県病院大会シンポジウム(2月5日開催予定)</p> <p>大阪医科大学: ・がんセンター市民公開セミナー「みんなで学ぼう。がん医療・肺がん」を平成29年2月18日に実施予定 定員150名 ・市民公開講座「食道・胃がんの外科治療」(28.4.16)参加者 70名 ・三島医療圏がん診療連携拠点病院合同 市民公開セミナーを平成29年1月21日に実施予定</p> <p>京都薬科大学: 2017年2月11日(土・祝)14:00～16:30 市民公開講座 開催予定</p>	
31	インテンス事業を活用した地域医療貢献の推進状況	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○インテンス事業を活用した地域医療貢献の推進を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>京都大学においては、「地域がん医療を担う薬剤師研修会」(年2回)、「がんチーム医療研修」(年6回)、「高精度放射線治療ワークショップ」(年2回)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(年1回)を実施、三重大学においては、「がんチーム医療研究会」(年2回)、「治療早期からの集学的緩和ケアを考える会」(年1回)、滋賀医科大学においては、「薬剤師セミナー」(年3回)、「滋賀県がん薬物療法conference」(年3回)を、継続して地域医療への貢献を毎年度行うことにより、順調に事業を進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28年度においても引き続きインテンス事業を活用し、がん専門薬剤師養成研修を年2回実施、平成28年11月2日、平成28年1月28日がんチーム医療研修を5回実施、(11.08-11.09, 11.29-11.30, 12.13-12.14, 1.17-1.18, 2.07-2.08)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会を1回実施予定 高精度放射線治療ワークショップ(第29回12月16-17日、(医師・技師・医学物理士4名参加) 京都放射線腫瘍研究会プログラム(平成28年10月)(医師・技師・医学物理士 約120名参加)を実施、順調に地域医療の貢献を進捗させた。</p> <p>三重大学: インテンスコースとして、がんチーム医療研究会(28年9月9日、83名参加)、早期からの緩和ケアを考える会(28年5月19日、44名参加)、三重肺癌研究会(28年6月18日23名参加、11月12日、25名参加)をそれぞれ開催した。 地域の病院でがん診療に従事する多職種に広く参加を呼び掛けて開催している。</p>	<p>京都大学: (資料9-1) 「インテンスコース実施事業」</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
31	インテシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	<p>滋賀医科大学： 【インテシブコース：地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース】 ・第17回滋賀県放射線治療連絡協議会勉強会 1回（1月7日開催予定）</p> <p>【インテシブコース：地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：3回、486名参加（4月24日/261名、10月2日/225名、平成29年1月28日開催予定）</p> <p>・滋賀県がん薬物療法conference：3回 62名参加（7月6日/35名、11月2日/27名、平成29年3月1日予定）</p>	
32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況	<p>事業期間中（5年間） 達成目標</p> <p>○本事業概要等の発行、ホームページの充実を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>拠点としての「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の概要を作成し、がんプロの目的、必要性、各大学の役割分担などの紹介に努めている。また、ホームページにおいて、特別講演、フォーラム、シンポジウムなどの開催情報を掲載することにより、広く市民、地域への医療関係者、学生への参加案内を行っており、さらに、ホームページでは、毎年度実施している外部評価結果についても掲載し、広く社会に実施事業の理解をいただけるよう発信・充実を努め、当初目標どおり効果・成果が出ている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 引き続き、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン ホームページ」を開設し、トピックスコーナーでは、5大学のシンポジウム、フォーラム等の開催を案内、また、外部評価結果を掲載するなど、広く社会への情報提供に努めている。</p> <p>三重大学： 三重大学大学院で作成したパンフレットとホームページで本事業の案内を行い、パンフレットはインテシブコースの講演会で積極的に配布している。また、三重大学がんセンターのホームページでも、本事業の案内を行い、がんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行い、県内の医療機関の多職種に参加を積極的に呼び掛けている。</p> <p>滋賀医科大学： 附属病院腫瘍センターのホームページでがんプロなど本事業についての情報を組み込んでおり、定期的に情報をアップデートしている。 ・平成28年度更新回数15回</p> <p>大阪医科大学： 本事業全体の概要等については、主管校の京都大学に情報を集約し発信している。（http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/）</p> <p>京都薬科大学： 大学ホームページでの紹介を行っている。平成27年度に「Topics&News」を追加し、開催案内を掲載するなど情報提供に努めている。 本学ホームページ掲載箇所 http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/project/cancer.html</p>	http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○県内でのがん対策の企画、立案への貢献を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>三重大学では、がん検診制度管理検討委員会、がん患者医療連携会議などに参加、滋賀医科大学では、滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に参加、大阪医科大学では、大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会に参加、また、京都大学では、京都府がん医療戦略推進会議の各部会、各WGIに参加し、各大学ともに、それぞれの府・県内におけるがん対策の企画立案に大きく貢献しており、順調に事業を進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 京都府がん医療戦略推進会議の各部会(院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会)および、各種ワーキング(前立腺がん地域連携パスワーキング等)に当院から委員を派遣し、活動に協力している。 また、府内で実施している以下の事業に ・生命のがん教育推進プロジェクト…小中学校、高校でがん教育 ・かかりつけ医(がん対応力)向上研修…医師を対象とした研修 28.12.10、29.1.21 京都府医師会館 講師派遣する等して、府のがん対策の企画立案に積極的に貢献している。</p> <p>各コースにおいては (抗悪性腫瘍薬コース) 地域がん拠点病院を中心に高齢者に対する外来化学療法に関する情報交換会を開催</p> <p>(薬剤師養成コース) 長期にわたるホルモン治療薬の服薬アドヒアランス低下や自己判断での治療中断を防ぐことを目的として、乳腺外科医師と薬剤師の協働による術後入院・退院患者を対象としたホルモン治療教室を2015年7月より開始している。医師-薬剤師外来-かかりつけ薬局間の連携の強化を図り、保険薬局には患者情報について、トレーニングレポートで薬剤部へ報告してもらい、これにより双方向の情報共有を目指している。またその内容は薬剤師が電子カルテに取り込み、メールで主治医にフィードバックを行っている。</p> <p>(婦人科コース) ①京都府医師会の子宮がん検診委員となっている。 ②近畿産婦人科学会の腫瘍研究部会の学術委員長および委員を選出している。</p> <p>三重大学： 三重県のがん対策推進プランに盛り込まれている、がん医療における医科歯科連携を推進するために、医科歯科連携人材養成研修会を開催した(28年7月17日、190名参加)。隣がん撲滅を目指すウオーケイイベントとセミナーを9月11日に開催し、それぞれ310名、242名の地域住民の方の参加があった。</p> <p>県教育委員会が主催するがんの出前授業にがんセンターの医師が参加し、小学校は28年10月7日(生徒114名)に1回、中学校は28年9月16日(生徒11名)、10月13日(生徒214名)、10月29日(生徒497名)、11月10日(生徒131名)、12月14日(生徒215名)、12月19日(生徒106名)の計6回 授業を行い、小学生、中学生との活発な質疑応答があり好評であった。</p> <p>滋賀医科大学： 滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」や「がん対策加速化プラン」の推進に取り組んだ。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	大阪医科大学： 大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会等において、各種研修会等の企画・立案等を行い貢献している。	
34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>三重大学では、三重県内のがん診療連携拠点病院を中核とした周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域連携ネットワーク網の拡大を進め、ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築を推進、滋賀医科大学では、東近江医療圏メーリングリスト、ならびに診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修情報が発信され、京都大学では、インターネットアクセスを利用した関連病院からの京大放射線治療プロトコルを閲覧可能としているなど、ITを用いた効率的な連携を推進させ、順調に事業を進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： (抗悪性腫瘍薬コース) 電子カルテ情報を共有できるP-リトリーバシステムをがん薬物療法専門医のいる地域医療機関である三菱京都病院、京都民医連中央病院に導入し、新しい緩和ケアの指標作成を進めている。</p> <p>(放射線コース) 引き続き、インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院が京大放射線治療プロトコルを閲覧可能としている。</p> <p>(手術療法コース) 関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的にこれらのデータを集約し、web上での利用を推進している。</p> <p>三重大学： 三重大学のがんセンターが事務局となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域医療連携ネットワークを構築し、地域完結型医療を推進している。現在、医療情報の開示病院は、地域がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院を中心にして計17施設で、閲覧施設は計247施設になっており、連携する登録患者数は計12,614名となっている。</p> <p>滋賀医科大学： ・東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。 ・がん関係の研修・講演会をTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院へ配信している。</p>	
35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>三重大学では、三重県内6カ所の病院が参加した他職種緩和ケアカンファレンス(テレビカンファレンス)を年・12回行っている。(1th Asia Pasific Oncology Nursing Society (Bangkok) にて学会発表)</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	<p>また、滋賀医科大学においても、東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築し、京都大学においても、テレビカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的に開催しており、多職種カンファレンスによる府県内の医療の質向上を進め、順調に事業を進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： テレビカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的に開催している。（手術療法コース）</p> <p>三重大学： 三重大学を中継拠点として、三重県内7か所の病院が参加して、毎月1回、多職種による緩和ケアカンファレンスを行っている。解決困難な事例について、互いの専門性を活かしたタイムリーな検討を行い、施設の垣根を超えた緩和医療の質の向上に貢献している。</p> <p>滋賀医科大学： ・東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築している。 ・がん関係のCPCをTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院へ配信している。 ・滋賀県の運営する遠隔病理診断システムの運用を附属病院で支援している。</p>	
36	がん医療に関する企業等との共催・連携推進の取組み	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○がん医療に関する企業等との共催・連携推進を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>がん医療に関する企業等との共催・連携によるセミナー・講演会の開催を推進し、広く医療関係者への技術、知識の普及、一般市民へ正しい知識の普及が行われるよう努めており、京都大学、滋賀医科大学、三重大学の各大学とともに毎年8件程度の共催・連携によるセミナー・講演会を実施、順調に事業を進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 1) OncoPrime セミナー LD7:12IQUID BIOPSYを用いた網羅的がん遺伝子解析とその臨床応用 共催：三井情報株式会社</p> <p>2) Meet the Expert Deep Learningの基礎と臨床応用の可能性～がんの治療応答性の予測について～ 共催：中外製薬株式会社</p> <p>3) 「第32回 京都がん研究会」 基礎研究と臨床研究から癌を考える 免疫療法のフロントライン～メラノーマ治療の新しい展開～ キナーゼ阻害型リン酸化プロテオミクスを用いたシグナルネットワーク解析と分子標的創薬 共催：中外製薬株式会社</p> <p>4) 第1回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都 共催：日本化薬株式会社</p> <p>5) 第42回京都放射線腫瘍研究会プログラム 共催：第一三共株式会社</p> <p>6) 第14回京都乳がん市民公開講座 ～乳がん検診の今！～ 共催：アストロゼネカ株式会社</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
36	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	<p>(抗悪性腫瘍薬コース) 京大が代表とした医師主導治験の成果で薬事承認した新しい治療(放射線療法、化学放射線療法後の遺残再発食道癌に対する救済光線力学療法)に関する技術認定講習会を開催した(平成28年5月11日、7月16日、9月3日、11月3日)。</p> <p>食道癌のリスク評価に関する研究会「アルデヒド呼気試験研究会」を日本写真印刷株式会社および株式会社FISとを立ち上げ、研究会を平成28年7月2日に開催した。</p> <p>(放射線治療医コース) 放射線増感作用を持つ新規分子標的薬の開発を目的とした共同研究を製薬会社2社と行っており、がんプロコース生が実験を担当している。</p> <p>(婦人科コース) 関西婦人科腫瘍病理懇話会(平成28年11月26日)、大鵬薬品共催</p> <p>三重大学: 三重大学を中継拠点として、三重県内7か所の病院が参加して、毎月1回、多職種による緩和ケアカンファレンスを行っており、解決困難な事例について、互いの専門性を活かしたタイムリーな検討を行い、施設の垣根を超えた緩和医療の質の向上に貢献している。</p> <p>滋賀医科大学: 【地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:3回、486名参加(4月24日/261名:沢井製薬(株)、10月2日/225名:大鵬薬品工業(株)、平成29年1月28日開催予定:あすか製薬(株))</p> <p>【新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース】 ・病診連携フォーラム 2回 72名参加(6月26日/34名:持田製薬(株)、11月13日/38名:中外製薬(株)) ・若年がんを考える会 2回 36名参加(8月6日/36名:中外製薬(株)、12月10日開催予定:エーザイ(株))</p> <p>【新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース】 ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀 1回 37名参加(7月23日/37名:小野薬品工業(株)、プリストル・マイヤーズ スクイブ(株))</p>	
37	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間でのプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成 50件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成 50件の目標に対して、24年度 32件、25年度 33件、26年度 38件、27年度 52件、28年度 50件、5年間で205件のがんプロ履修生によるプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与が達成され、がんプロ履修生の研究者養成に向けた取り組みを順調に推進させ、当初目標を上回る効果・成果を出すことが出来た。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28度は、50件のがんプロ履修生によるプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与が達成され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。 (24年度32件、25年度33件、26年度38件、27年度52件、28年度50件)</p>	京都大学: (資料14) 「プロトコル作成への関与一覧」

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
37	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	滋賀医科大学: ・平成28年度:新規レジメン約50レジメン登録 ・履修生1名(地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース)が「治療切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌に対するレゴラフェニブの有効性・安全性評価のための探索的臨床薬理学研究」に関与した。	
38	国際学会、英文誌への研究論文発表数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間での国際学会、英文誌への研究論文発表100件を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を目指し、教育研究成果の発表を重点目標として、英文による教育研究発表を推進しており、24年度における国際学会・英文誌等への発表数 23件、25年度 78件、26年度 46件、27年度 82件、28年度 89件を達成し、当初目標件数 100件を上回る 318件を達成。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28年度の英文研究発表件数は、142件(論文発表 76件、学会発表66件) うち筆頭発表数は、89件(論文発表33件、学会発表56件) (資料10 国際学会、英文誌発表)のとおり</p> <p>三重大学: 1名が英文誌へ研究論文発表: The usefulness of a computer-aided diagnosis scheme for improving the performance of clinicians to diagnose non-mass lesions on breast ultrasonographic images. J Med Ultrason (2001). 2016, 43(3):387-94。(乳腺外科専門医養成コース) 腫瘍内科医コース履修生の英文誌への発表1件。</p> <p>滋賀医科大学: ・平成28年度【国際学会・シンポジウムでの発表】5件 【英文誌への発表】6件</p> <p>大阪医科大学: Gastrointestinal Cancers Symposium, A multicenter phase II study of combination therapy with oral S-1 plus cisplatin in elderly patients with advanced gastric cancer、2017年1月、筆頭発表、共著発表予定</p> <p>京都薬科大学: 平成28年度 国際学会、英文誌への研究論文発表数 10件</p>	<p>(資料10-1) 京都大学 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」</p> <p>(資料10-2) 滋賀医科大学 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」</p> <p>(資料10-3) 京都薬科大学 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
39	学会への研究論文の発表推進への取組み	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○学会への研究論文の発表推進を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えられ、国内外の学会・シンポジウムでの履修生による研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の基、発表論文名、参加学会名、得られる成果等を記載させ、がんプロ養成委員会において審査のうえ、学会等への発表参加を推し進めている。これにより、履修生による教育研究意欲が大きく向上し、発表論分数は増加しており、事業を順調に進捗させ、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： 引き続き、「28年度 がんプロ養成管理委員会」においても、国際的視野を有した研究者養成のため、国際学会での研究成果発表に積極的に参加させるとともに、国内においても研究成果を発表させるため国内学会への積極的な参加を推進するための旅費を予算化し発表推進への体制を構築させている。</p> <p>三重大学： 学会への研究論文の発表については、各コースのコーディネーターが責任を持って、指導・教育に当たり、学会発表を積極的に奨励支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学： ・年1回学会での研究成果発表を行い、研究成果をまとめ、研究論文の発表を推進している。 【国際学会・シンポジウム発表実績】 5回 【国内学会・シンポジウム発表実績】 6回</p> <p>大阪医科大学： 養成上、コース履修者を海外の先進的医療・研究機関等への研修に参加させる必要が生じた場合、旅費等の一部助成を行うことができることとしている。</p> <p>京都薬科大学： 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。 論文4報・学会発表14件</p>	<p>(資料 11-1) 京都大学 「国内学会、雑誌等への発表一覧」</p> <p>(資料11-2) 滋賀医科大学 「国内学会、雑誌等への発表一覧」</p>
40	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間での海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加60人を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を重点目標として目指し、海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等へのがんプロ履修生の参加 60人を目標として、24年度 26人、25年度 43人、26年度 23件、27年度 55件、28年度 46件 合計193件を達成し、5年間での目標60人を大きく上回る効果・成果を達成した。</p>	<p>京都大学： (資料12) 「海外学会・シンポジウム等参加状況」</p>

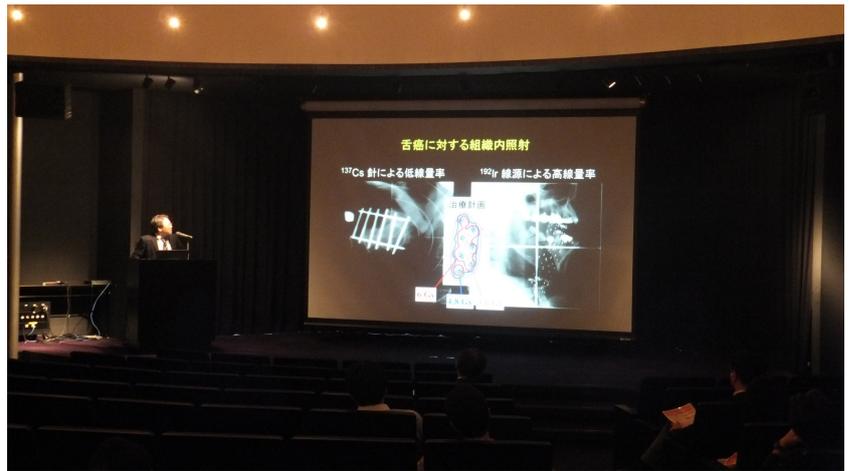
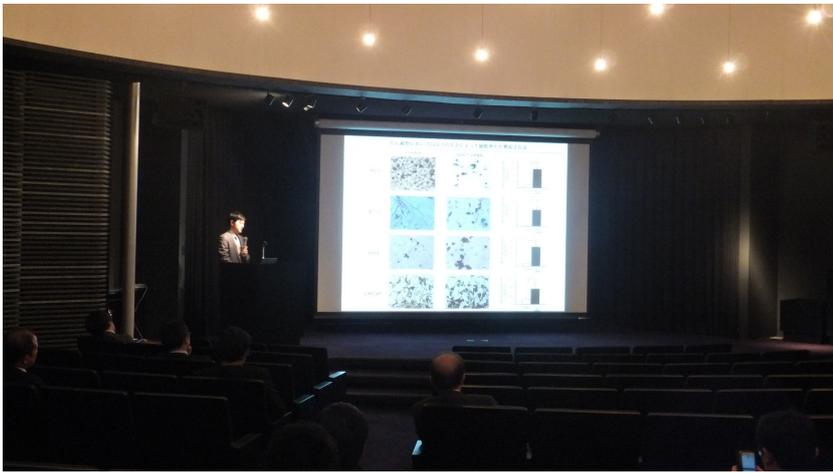
番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
40	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数	<p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 28年度 46件 (24年度 26件、25年度 34件、26年度 23件、27年度 55件) (資料11-1のとおり)</p> <p>三重大学: 「5大学連携 Chinese University Hong Kong合同教育セミナー」に、大学院生1名、指導教員1名が研究発表を行った。</p> <p>滋賀医科大学: ・平成28年度:5大学連携「香港合同教育セミナー」に大学院生2名(新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース1名・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース1名)が参加しシンポジウムにおいて研究発表を行った。 ・2016米国癌学会(AACR)年次総会に大学院生1名(新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース)が参加しポスター発表を行った。</p> <p>大阪医科大学: 「2017 Gastrointestinal Cancers Symposium(ASCO-GI)」に化学療法専門医養成コースの院生2名が参加予定(米国)平成29年1月19日～1月21日 Chinese University Hong Kongへは、放射線療法専門医養成コースの院生と化学療法専門医養成コースの院生の2名参加</p> <p>京都薬科大学: ・2016年7月7日～7月14日「24th Biennial Congress of the European Association for Cancer Research」(英国)で、1名の大学院生(がんプロコース履修者)が発表参加した。 ・2016年10月15日「第78回日本血液学会学術集会」(横浜)で、1名の大学院生(がんプロコース履修者)が発表参加した。</p> <p>・2016年10月27日～10月30日 5大学連携「海外合同教育セミナー」(香港)に、2名の大学院生(がんプロコース履修者)を派遣した。 ・2016年12月2日～12月8日「2016 ASCB Annual Meeting」(米国)で、1名の大学院生(がんプロコース履修者)が発表参加した。 ・2016年12月2日～12月8日「第58回アメリカ血液学会年次総会」(米国)で、1名の大学院生(がんプロコース履修者)が参加した。</p>	
41	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制の整備を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生が国内外学会に参加し、先進的研究機関において研修に参加させることは養成上必要不可欠であり、上記による国際学会等での発表を促進させるため「研究発表旅費助成」を行うとともに、連携大学間交流、多職種交流、先進的がん研究機関との交流を推進させるため、「事業推進運営委員会」決議に基づき、国際交流事業「5大学連携 海外合同教育セミナー」を、25年度より実施。 外部評価委員による意見により「サポート体制」を構築させ、事業を順調に進捗させ、当初目標を上回る効果・成果を得ることが出来た。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学: 引き続き、28年度においても、「がんプロ養成管理委員会」において、研究成果を発表させるため国内外学会への積極的な参加を推進するとともに、横断的・専門的教育の実施知識を得るための旅費を予算化し発表推進の体制を継続させた。</p>	<p>京都大学: (資料12) 「海外学会・シンポジウム等参加状況」</p> <p>(資料13) 「国内学会、シンポジウム等参加状況」</p>

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
41	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況	<p>また、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として、Chinese University Hong Kongとの合同教育セミナーを実施。京都大学10名、三重大学2名、滋賀医科大学3名、大阪医科大学2名、京都薬科大学2名の19名が研究成果発表を行った。</p> <p>三重大学： コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等、学会等での研究発表に対して、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学： がんプロコースに在籍する大学院生が、養成のため教育研究上必要と認められ学会等に参加させる場合、旅費等の負担がかからないようにしている。</p> <p>大阪医科大学： 養成上、コース履修者を海外の先進的医療・研究機関等への研修に参加させる必要が生じた場合、旅費等の一部助成を行うことができることとしている。</p> <p>京都薬科大学： 国内外学会での研究成果発表については、各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促し、原則として指導教授が同行して行っている。</p>	
42	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○がん研究基盤の発展構築を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>24年度、基盤構築に向け「京都大学腫瘍薬物治療学講座分野」「三重大学放射線腫瘍学講座」「滋賀医科大学総合臨床腫瘍学講座」を設置し、25年度においては、大阪医科大学がんセンター設置、京都大学附属病院がん薬物治療科設置、26年度においては、京都大学「臨床システム腫瘍学寄附講座」設置、京都大学附属病院緩和医療科設置</p> <p>また、毎年度、新たな医療チームの導入が検討され、研究基盤・医療基盤の発展構築へ向けた取組みを推進させ、事業を順調に進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： (抗悪性腫瘍薬コース) 京都大学が三井情報と臨床実装したクリニカルシークエンス(OncoPrime)を岡山大学、北海道大学、千葉大学に導入し、わが国のゲノム医療を先導している。また、クリニカルシークエンスに関する研究会を立ち上げた。AMEDの臨床ゲノム統合データベース事業のがん領域に採択され、クリニカルシークエンスのゲノム情報と臨床情報を統合し、データシェアリングする取り組みを開始した。</p> <p>(手術療法・機器開発コース) (固形がんの発生や進展、転移に関わる分子生物学的研究を推進した。 がんの早期発見につながるバイオマーカーの開発を種々のがんで行った。 治療効果の予測、モニタリングマーカーの研究を行った。 がんの病態をモニタリングマーカーに関する研究を展開した。 新たな手術機器、診療機器の開発研究を行った。 新しい画像診断手法の開発研究を行った。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
42	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	<p>(薬剤師コース) がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進め、測定法の確立に向け取り組んでいる。また、各診療科と連携して抗がん剤の血中濃度測定を実施し、効果や有害事象発現との関連も検討している。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。 各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。 年に数回、3グループが一堂に会する会議も開催する。</p> <p>(婦人科コース) ①卵巣がんにおいて、VEGFが抗腫瘍免疫に与える影響を明らかにした。 ②卵巣明細胞癌において、SWI/SNF複合体構成分子の欠失と、臨床病理学的因子の関連を明らかにした。 ③婦人科がんにおいて、新たな免疫チェックポイント分子VISTA発現とその意義について検討している。 ④子宮体部漿液性癌において、STAT1が化学療法抵抗性に寄与するメカニズムについて検討している。 ⑤卵巣がんにおいて、SNAILが抗腫瘍免疫抑制をもたらす機序について検討している。 ⑥卵巣明細胞癌の遺伝子変異のパターンについて、エクソームシーケンシングによって検討している。</p> <p>(次世代の臨床試験を担う人材育成コース) 医師(外科、内科)、看護師、薬剤師、CRC、作業療法士などが集う多職種チーム会議を月1回開催し、特にコメディカルが主体となって行う臨床試験の計画・遂行を支援。 英文雑誌に掲載されたランダム化比較試験(責任者:作業療法士、リハビリ領域)は、日本臨床腫瘍学会の優秀演題にも選ばれた。別の臨床試験(責任者:作業療法士、リハビリ領域)は2016米国臨床腫瘍学会にてPoster Discussionに選ばれた。 また当院CRCが担当した臨床研究(服薬指導関連)も2016San Antonio Breast Cancer Symposiumに採択された。その他にも進行中のランダム化比較試験(責任者:認定看護師、がん看護領域)は、本年度中に登録が終了し結果を(海外)学会にて発表予定である。他にも計画中の試験が1つ(責任者:認定看護師、がん看護領域)ある。</p> <p>三重大学: がんに対するラジオ波治療、凍結療法後に出現する治療標的以外の腫瘍縮小効果のメカニズムを解明するために、臨床・基礎が連携した研究基盤の構築を進めている。 臨床検体を用いた研究とマウスを用いたラジオ波焼灼治療後の免疫学的変化についての解析が進行中である。</p> <p>滋賀医科大学: ・次世代シーケンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロセス在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。</p> <p>大阪医科大学: 三島圏域のがん診療連携拠点病院(5病院)が中心となって運営している三島圏域がん研究会に参加し、がん研究基盤の発展構築へ向けて取り組んでいる。 in vivo 2D/3D 発光・蛍光イメージング IVIS Lumina XR-BFMを設置してがんプロコース履修生にも開放し、がん性疼痛モデル動物を用いてのがんの増殖・転移などの可視化による研究を行うなど、がん研究基盤の発展構築に向けて取り組んでいる。</p> <p>京都薬科大学: 関連する企業との共同研究「新規ペプチド型抗がん剤の設計・合成」を実施</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
43	<p>新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況</p>	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○新たながん医療分野の開拓推進を目標</p> <p>5年間の取組状況</p> <p>京都大学においては、がんバイオバンクを運用開始、遺伝子多型解析やバイオマーカー探索・開発、ゲノムワイドな遺伝子発現データ、三重大学においては、がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験、遺伝子診断研究、滋賀医科大学においては、新たな創薬に向けたがんペプチドワクチン療法の臨床試験研究、大阪医科大学においては、がんに対する標準治療の確立、京都薬科大学においては、創薬・育薬を中心とした新たな治療法開発など、新たながん医療分野の開拓推進に取り組み、事業を順調に進捗させている。</p> <p>各大学における28年度取組状況</p> <p>京都大学： (抗悪性腫瘍薬コース) 京都大学が三井情報と臨床実装したクリニカルシーケンス(OncoPrime)を岡山大学、北海道大学、千葉大学に導入し、わが国のゲノム医療を先導している。今後、東京医科歯科大、佐賀大、慶應大、北里大、信州大に導入し、わが国におけるがんクリニカルシーケンスを臨床実装し、保険診療を目指している。</p> <p>(手術療法・機器開発コース) 新規のがん早期発見マーカー、病態モニタリングマーカー、バイオマーカーが見出されており、血液を用いる新しい診断法の分野ができつつある。がんの進展に関する分子機構の一端が明らかにされ、新たな治療標的の同定、治療法の開拓につながる研究が行われた。機器開発に関して新しい分野の開拓につながるように様々な連携と共同研究を行った。</p> <p>(薬剤師コース) がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進め、測定法の確立に向け取り組んでいる。また、各診療科と連携して抗がん剤の血中濃度測定を実施し、効果や有害事象発現との関連も検討している。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 放射線治療科では2011年9月より世界に先駆けてVero4DRTを用いた動体追尾照射を開始している。肺癌・肝癌・膵癌に対する動体追尾照射の安全性および有効性を評価することを目的とし、AMED革新的がん医療実用化研究事業より平成26-28年度の研究資金提供を受けて多施設共同試験を実施している。</p> <p>また、革新的がん医療実用化研究事業より平成27-29年度の研究資金提供を受けて、Vero4DRTを用いた革新的新規照射法であるDynamic WaveArc照射法を前立腺癌に対して本邦で初めて実施した。</p> <p>(放射線治療医コース) 製薬企業との共同研究として、放射線増感効果をもつ分子標的薬の検索、機能解析を行う。低酸素などの腫瘍内の微小環境が放射線治療効果に及ぼす影響・機能解明のための研究を推進する。</p> <p>(婦人科コース) ①卵巣漿液性癌において、分子サブタイプと相関する病理組織分類を樹立し、それぞれの化学療法感受性を示して、個別化医療実現への道を示した。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	参考資料等
43	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	<p>(医学物理コース) ソフトウェア開発会社との共同研究として、放射線治療装置と患者の干渉を事前にチェックするソフトウェアを開発した。また、情報研究科との共同研究として、画像上から腫瘍位置を抽出するソフトウェアを開発した。</p> <p>三重大学： がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験を行っている。 肝臓癌をはじめとして、肺癌、腎臓癌に対するラジオ波治療、凍結療法を行っており、全国的にトップクラスの件数を集めている。 乳癌を中心にした遺伝子診断を進め、カウンセリングを行っている。また、妊娠中に発生する悪性腫瘍につき全国調査を行い、新規臨床研究の基盤を構築中である。 処方せんにがん化学療法のレジメンを印字することにより、保険薬局薬剤師が抗がん剤治療の内容を把握できるようにすることにより、薬薬連携、病診薬連携の強化を図っている。 抗がん剤調製ロボットの医療現場での普及を図るべく改修を継続的に行っている。</p> <p>滋賀医科大学： ・附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験やがん樹状細胞療法の先進医療を実施し、履修者のOJT教育に生かしている。 ・腫瘍内科を中心に国内外の先端がん免疫療法の医療・研究機関と共同研究体制を構築している。 ・新たに非小細胞肺癌に対するがんペプチドワクチン療法の医師主導試験を開始し、プレスリリースを行った。</p> <p>大阪医科大学： 三島圏域のがん診療連携拠点病院(5病院)が中心となって運営している三島圏域がん研究会に参加し、がん医療分野の開拓推進へ向けて取り組んでいる。 in vivo 2D/3D 発光・蛍光イメージング IVIS Lumina XR-BFMを設置してがんプロコース履修生にも開放し、がん性疼痛モデル動物を用いてのがんの増殖・転移などの可視化による研究を行うなど、がん研究医療分野の発展構築に向けて取り組んでいる。</p> <p>京都薬科大学： ①一般病院の薬剤師・医師と広く交流し、現場の問題点を解決し、創薬・育薬を中心とした新たな治療法開発に取り組んでいる。 ②新規の多発性骨髄腫患者に投与しているレナリドマイドの血中濃度を測定し(本学「臨床薬学分野」で実施)、市中病院の薬剤師・医師とレナリドマイドの治療効果および副作用発現率と血中濃度の相関について臨床研究を開始した。</p>	



募集・受入目標・入学人数

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	修業 年限	養成する専門分野	募集人数					受入目標人数					入学人数							
					H24	H25	H26	H27	H28	H24	H25	H26	H27	H28	H24	H25	H26	H27	H28			
					計																	
①がん教育改革・がん専門医療人重点コース	計				20	4	4	4	4	4	15	3	3	3	3	3	14	4	4	1	3	2
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	放射線腫瘍医養成コース	4年	放射線治療医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	6	1	1	0	2	2
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	乳腺外科専門医養成コース	4年	外科系乳腺専門医	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	6	2	2	1	1	0
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	がん専門薬剤師養成コース	4年	がん専門薬剤師	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	2	1	1	0	0	0
②地域がん医療・がん専門医療人重点コース	計				62	10	13	13	13	13	59	9	12	12	13	13	37	9	4	8	8	8
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	6	1	0	2	1	2
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	婦人科がん治療専門医養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	10	2	2	2	2	2	7	1	1	1	2	2	3	1	0	1	1	0
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	地域の放射線治療を支える専門医養成コース	4年	放射線治療医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	化学療法専門医養成コース	4年	がん薬物療法	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	5	0	1	1	2	1
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	放射線療法専門医養成コース	4年	放射線治療	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	1	0	0	0	0	1
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	がん手術療法専門医養成コース	4年	がん治療	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	5	2	1	1	0	1
	三重大学医学系研究科看護学専攻	チーム医療を促進するがん看護を専門とする看護師養成コース	2年	がん看護	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	13	3	2	3	3	2
滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	4年	薬剤師	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	3	1	0	0	1	1	
③がん研究者養成重点コース	計				128	20	27	27	28	26	104	16	20	23	24	21	184	44	31	45	37	27
	京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	4年	がん薬物療法学	20	3	4	4	5	4	15	2	3	3	4	3	59	12	12	19	9	7
	京都大学医学研究科医学専攻	先端放射線治療開発を担う研究者養成コース	4年	放射線治療医	23	3	5	5	5	5	22	3	4	5	5	5	18	3	6	4	2	3
	京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	18	3	4	4	4	3	15	2	3	4	4	2	64	13	5	16	19	11
	京都大学医学研究科医学専攻	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	10	2	2	2	2	2	8	1	1	2	2	2	7	2	1	1	1	2
	京都大学医学研究科医学専攻	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師(研究者)養成コース	4年	薬剤師	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	8	2	1	2	2	1
	京都大学薬学研究科薬学専攻																					
	京都大学医学研究科医学専攻	先端医学物理研究者養成コース	4年	医学物理	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	5	1	2	0	2	0
	京都大学工学研究科原子核工学専攻		3~5年																			
	京都大学医学研究科人間健康科学専攻	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	2年 3年	がんリハビリテーションを専門とする理学療法士・作業療法士、医師	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	9	3	2	2	1	1
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	4年	がん研究医・がん研究者	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	2	2	0	0	0	0
滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医・外科専門医	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	6	3	1	1	0	1	
京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻	がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース	4年	臨床腫瘍薬学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	6	3	1	0	1	1	
合 計				210	34	44	44	45	43	178	28	35	38	40	37	235	57	39	54	48	37	

資料 2

24 ～ 28 年度 入学実績（京大拠点・全国平均対比）

京大拠点				
	募集人員	入学実績数	達成率	備考
① がん教育改革・がん専門医療人養成	20	14	75%	
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	62	37	59%	
③ がん研究者養成	128	184	153%	
合計	210	235	119%	

全国平均				
	募集人員	入学実績数	達成率	備考
① がん教育改革・がん専門医療人養成	1,476	1,258	85%	
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	693	397	57%	
③ がん研究者養成	800	664	83%	
合計	2,969	2,319	78%	

※ 全国平均は、27年度における平均

28年度 入学実績

京大拠点				
	募集人員	受入目標人数	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	4	3	2	50%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	13	13	8	62%
③ がん研究者養成	26	21	27	104%
合計	43	37	37	86%

「資格取得者数一覧」(24年度～28年度)

コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	修業 年限	養成する専門分野	学会等認定資格名	④受験・合格・資格取得者数														
					H24			H25			H26			H27			H28		
					受験者 数	合格者 数	資格取 得者数	受験者 数	合格者 数	資格取 得者数	受験者 数	合格者 数	資格取 得者数	受験者 数	合格者 数	資格取 得者数	受験者 数	合格者 数	資格取 得者数
計					36	36	29	45	44	47	41	38	42	47	44	39	24	19	23
三重大学医学系研究科生命医学専攻	放射線腫瘍医養成コース	4年	放射線治療医	放射線治療専門医 (日本医学放射線学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0
三重大学医学系研究科生命医学専攻	乳癌外科専門医養成コース	4年	外科系乳癌専門医	乳癌専門医 (日本乳癌学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
三重大学医学系研究科生命医学専攻	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	日本血液学会認定血液専門医 (日本血液学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	消化器病学会専門医 (日本消化器病学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	日本消化器内視鏡学会専門医 (日本消化器内視鏡学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	総合内科専門医 (日本内科学会)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1	1	1
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	地域の放射線治療を支える専門医養成コース	4年	放射線治療医	放射線科専門医 (日本医学放射線学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地域の放射線治療を支える専門医養成コース	4年	放射線治療医	放射線治療専門医 (日本放射線腫瘍学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
大阪医科大学医学系研究科医学専攻	化学療法専門医養成コース	4年	がん薬物療法	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0
大阪医科大学医学系研究科医学専攻	放射線療法専門医養成コース	4年	放射線治療医	放射線科専門医 (日本医学放射線学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
大阪医科大学医学系研究科医学専攻	がん手術療法専門医養成コース	4年	がん治療	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0
三重大学医学系研究科看護学専攻	チーム医療を促進するがん看護専門看護師養成コース	2年	がん看護	がん看護専門看護師 (日本看護系大学協議会)	5	5	5	4	3	3	5	4	4	4	3	3	1	1	1
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	4年	薬剤師	がん専門薬剤師 (医療薬学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都大学医学系研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	2	2	1	4	4	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	外科専門医 (日本外科学会)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	消化器病学会専門医 (日本消化器病学会)	2	2	2	2	2	2	5	5	5	3	3	3	2	2	1
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	日本血液学会認定血液専門医 (日本血液学会)	2	2	1	0	0	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	日本消化器内視鏡学会専門医 (日本消化器内視鏡学会)	0	0	0	1	1	1	5	5	5	4	4	4	1	1	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	日本消化器内視鏡学会 指導医 (日本消化器内視鏡学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	肝臓学会専門医 (肝臓学会)	0	0	0	1	1	0	1	1	1	2	2	1	0	0	2
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	総合内科専門医 (日本内科学会)	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)	0	0	0	1	1	0	3	3	1	0	0	3	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	感染症専門医 (日本感染症学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	小児科専門医 (日本小児科学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	頭頸部がん専門医 (日本頭頸部外科学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	食道科認定医 (日本食道学会)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	呼吸器外科専門医 (日本呼吸器外科学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	泌尿器腹腔鏡技術認定医 (日本泌尿器内視鏡学会)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	日本輸血・細胞治療学会認定医 (日本輸血・細胞治療学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	日本造血細胞移植認定医 (日本造血細胞移植学会)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0

コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	修業 年限	養成する専門分野	④受験・合格・資格取得者数															
				学会等認定資格名	H24			H25			H26			H27			H28		
					受験者 数	合格者 数	資格取 得者数												
	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床 開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法学	日本血液学会認定血液専門医(日本血液学 会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3
京大大学医学研究科 医学専攻	先端的放射線治療開発を担 う研究者養成コース	4年	放射線治療医	放射線治療専門医(日本放射線腫瘍学会)	4	4	4	2	2	2	0	0	0	5	5	5	3	3	3
	先端的放射線治療開発を担 う研究者養成コース	4年	放射線治療医	がん治療認定医(日本がん治療認定医機 構)	1	1	0	2	2	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	先端的放射線治療開発を担 う研究者養成コース	4年	放射線治療医	放射線科認定医(日本医学放射線学会)	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	先端的放射線治療開発を担 う研究者養成コース	4年	放射線治療医	日本放射線腫瘍学会認定医(日本放射線腫 瘍学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	先端的放射線治療開発を担 う研究者養成コース	4年	放射線治療医	放射線科専門医(日本医学放射線学会)	0	0	0	5	5	5	1	1	1	3	3	3	0	0	0
	先端的放射線治療開発を担 う研究者養成コース	4年	放射線治療医	日本医学放射線学会研修指導医(日本医学 放射線学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
京大大学医学研究科 医学専攻	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	外科専門医(日本外科学会)	4	4	4	1	1	1	1	1	1	2	2	2	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	乳癌専門医(日本乳癌学会)	1	1	1	3	3	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	乳癌認定医(日本乳癌学会)	2	2	3	0	0	1	0	0	0	4	2	2	0	2	2
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	消化器病学会専門医(日本消化器病学会)	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	検診マンモグラフィ認定医 (日本乳がん検診精度管理中央機構)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	肝臓専門医(日本肝臓学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	2	0	0	2
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	消化器内視鏡専門医(日本消化器内視鏡学 会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	消化器外科専門医(日本消化器外科学会)	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	2	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	消化器がん外科治療認定医(日本消化器外 科学会)	0	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	食道科認定医(日本食道学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	がん治療認定医(日本がん治療認定医機 構)	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	脳神経外科学会専門医(日本脳神経外科学 会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	移植認定医(日本移植学会)	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	放射線科専門医(日本医学放射線学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	再生医療認定医(日本再生医療学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	呼吸器外科専門医(日本呼吸器外科学会)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	次世代の手術療法・機器開 発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	胃腸科認定医(日本消化管学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
京大大学医学研究科 医学専攻	新しい婦人科がん治療の開 発を担う研究者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	がん治療認定医(日本がん治療認定医機 構)	3	3	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1
	新しい婦人科がん治療の開 発を担う研究者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	婦人科腫瘍専門医(日本婦人科腫瘍学会)	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	1
京大大学医学研究科 医学専攻	先端医学物理研究者養成コース	4年	医学物理	医学物理士(医学物理士認定機構)	1	1	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0
滋賀医科大学医学系 研究科医学専攻	新しい外科医療開発・応用を 担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医・外科 専門医	外科専門医(日本外科学会)	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新しい外科医療開発・応用を 担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医・外科 専門医	消化器病学会専門医(日本消化器病学会)	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新しい外科医療開発・応用を 担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医・外科 専門医	がん治療認定医(日本がん治療認定医機 構)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新しい外科医療開発・応用を 担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医・外科 専門医	乳癌認定医(日本乳癌学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新しい外科医療開発・応用を 担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医・外科 専門医	乳癌専門医(日本乳癌学会)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1

28年度 がんプロ履修生調査(要望・改善点)

※回答中、「特になし」については掲載を省略

NO.	項目	要望、改善点【回答】	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	5大学連携 医療フォーラムについて、初めての参加となったが、非常に興味深い発表が多かった。胃癌のHer2簡易チェックキットの開発など、臨床面で素晴らしい開発だと思う。分野が違ってもヒントを得る良い機会となり、是非次回も参加したいと思う。	手術療法・機器開発
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	Eラーニングについて、聴講する前に講義のあらすじが分かれば、効果的な受講ができる。現状では大まかにしか分類されておらず、受講したものの自分が知識を深めたい内容とは少し異なっていたという事がある。 【京大版Eラーニング、全国版Eラーニングともに、いただいた意見を参考に改善していきます。】	手術療法・機器開発
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国際学会での研究発表の機会をいただいたことに非常に満足しています。	手術療法・機器開発
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	医療フォーラムやeラーニングは非常に勉強になり、よかった。研究発表旅費助成や海外合同教育セミナーは本年度分では存在を知らず、残念に思った。注意して情報を集めたいと思うが、今後もプログラムの継続してほしい。	手術療法・機器開発
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	来年度 ヨーロッパ放射線腫瘍学会へ演題登録中です。	放射線治療開発
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	5大学連携医療フォーラムなどの会に参加する機会がもう少し増えればいいと思っています。	手術療法・機器開発
7	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	Eラーニング講義について、本年度の登録であれば来年度以降は視聴できないのでしょうか、履修科目に登録しているもの以外も視聴できるため、少しずつ長期間かけて聴講できればとても有難いです。 【来年度以降も継続して聴講していただけるよう考えております。】	がんリハビリテーション法 開発
8	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表のための旅費助成は非常に有難いです。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
9	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ事業の一環として、海外合同教育セミナーに参加させていただきました。本研修ではがんに関する医学、薬学の様々な研究発表を聞き、それに対して有意義な話し合いの場が設けられ、これからの私の研究生活に対して大変刺激を受けるものでした。また私が現在進めている、抗がん剤の副作用である末梢神経障害の治療法の探索研究について他分野から意見を頂ける機会は滅多にないことであり、有益な助言をいただくことができたことも大変今後の励みとなりました。このような研修の機会を与えていただいたことを、本海外研修プログラムに関わる諸先生および事務局の皆様へ深く感謝申し上げます。	がん専門薬剤師
10	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成は大変有り難い制度と考えています。	手術療法・機器開発
11	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	5大学連携 医療フォーラムについて、外勤日と重なっていたため参加できませんでした。もっと回数を増やしていただきたいです。Eラーニング講義について、コマ数が多く、全部の内容を把握するのは非常に困難です。もう少しコンパクトにしていただけるとありがたいです。 【京大版Eラーニング、全国版Eラーニングともに、いただいた意見を参考に改善していきます。】	抗悪性腫瘍薬臨床開発
12	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	海外合同教育セミナー、医療フォーラムについてはあまり存じ上げておりません。短期国内海外留学や見学のことなのでしょうか？ 【重点目標として、海外において活躍できるがん研究者の養成を掲げており、海外合同教育セミナーでは、海外の最先端がん病院において研究発表、討議を行わせています。また、研究発表を行うことが最も重要な養成につながるの考えより、医療フォーラムを実施し、履修生に発表させています。】	手術療法・機器開発

13	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	4月の内科学会では、光栄なことに優秀演題として表彰いただき、現時点で、筆頭3本、共著3本の論文を発表しました。がんプロによるご指導ご支援の賜物です。今後共何卒よろしくお願いたします。 「がん」という課題は、多臓器・他分野に渡るものです。研究発表旅費助成については、癌と関する学会のみならず、広く適用いただけたら幸いです。これにより、分野横断的に「がん」の基礎、臨床、社会医学的な理解を深めることが出来ると考えられます。 【限られた予算の中で実施しており、がんに関する学会、がんに関する発表のみ申請を受け付けています。】	抗悪性腫瘍薬臨床開発
14	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	海外合同教育セミナーで海外での発表ができ、また国内国外での研究内容を聞くことができ、がん研究についての理解が深まったと同時に大きなモチベーションを得ることができました。非常に満足しております。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
15	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	「5大学連携 医療フォーラムについて」 --- がんプロ履修生の発表機会があり魅力的。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
16	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成制度について 非常に有り難い制度と感じております。今後も継続していただけますと大変有り難いです。	手術療法・機器開発
17	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	様々な研究活動をさせていただいており、充実しております。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
18	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成は、海外学会での研究発表を行う上で、また、五大学連携医療フォーラムも、日頃知ることのできない他大学や他分野の取り組みをすることができ、大変有意義だと思います。	手術療法・機器開発
19	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	医療フォーラムなどの発表に関しては良かったと思う。しかし旅費申請の時期が分かりにくく、年度初めや年度終わりの学会発表に際し申請を検討できなかったです。 【年度初めや年度終わりの学会発表についても、申請できるよう検討を加えて生きたいと考えています。】	抗悪性腫瘍薬臨床開発
20	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	大変貴重な海外研修を体験できた。発表内容は既に論文化して、査読中です。現在、次のテーマもいくつか検討中。また、実臨床の臨床成績改善のためのプロトコルも作成中。	放射線治療開発
21	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成がもう少し増えると学会参加の負担が減るため、助かります。	婦人科がん治療開発
22	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	余裕なく活用できませんでした。	手術療法・機器開発
23	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ研究発表旅費により、積極的に多くの学会に参加でき、知識習得や発表機会を得ることが出来たため非常に満足である。今後も拡大して頂くことで、研究や発表に対する意欲が増すと考えている。 海外合同教育セミナーについて、海外発表経験が少ない、院生にとって数少ない海外発表のチャンスであると考え。また、他分野の高度な研究内容も拝聴できる機会であるため、このセミナーは非常に有意義である。今後も参加できるチャンスがあるのなら参加したいと思う。	先端医学物理研究者
24	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	本年度5月にがんプロの研究発表旅費により海外学会において研究発表と聴講をさせていただき研究を進展させることができた。書類の作成も丁寧に確認・指導していただけて感謝しております。5大学医療フォーラムは参加させていただき、専門性が高すぎてなかなか難しかったですが、他分野での研究の進め方や思考過程を垣間見ることができてよかったです。引き続きがんプロ事業の発展を祈念いたします。	手術療法・機器開発
25	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	5大学連携 医療フォーラムは参加させて頂き、大変勉強になりました。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
26	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成について、助成の対象回数を増やしてほしい。 【限られた予算のなかで行っており、ご理解ください。】	婦人科がん治療開発
27	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	E-ラーニングについて、抗癌剤が次々承認されるのでなかなか最新のアップデートは難しいと思われませんが、大きくガイドラインが書き換わったりしたときには適宜アップデートがなされると、よりよいと思います。 【京大版E-ラーニング、全国版E-ラーニングともに、いただいた意見を参考に改善していきます。】	抗悪性腫瘍薬臨床開発

28	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成については、国際学会での発表を行うための意欲向上につながるため、引き続き継続していただければと思います。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
29	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成、海外合同教育セミナーなどを通しての海外のhigh volume centerでの発表、討議ができたことに大変満足しています。この事業がなければ、長期の留学などをしない限り決して経験することのできない機会だったと思います。	放射線治療開発
30	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	有意義なカンファレンスに参加でき、私のがん研究にとっても参考になりました。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
31	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足点: 研究発表旅費助成により学会への研究発表参加がしやすくなっている	手術療法・機器開発
32	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	2年間休学しており今年10月に復学したばかりですので、特に意見させていただくことはございません。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
33	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	分子生物学会のための研究発表をさせていただき、大変感謝している。5大学連携の勉強会でも発表させていただいたりして、とても勉強になっている。是非このような事業を継続していただきたい。	がん専門薬剤師
34	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成については、助成による研究意欲向上の意義は非常に大きく、今後是非継続して頂きたい事業である。	手術療法・機器開発
35	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	小生の実験が進まず、学会発表など出来ず申し訳なく感じております。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
36	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ事業におきましては、研究発表の応援をいただきたくさん勉強させていただいております。 医療フォーラムにも参加させていただき、他の院生の発表も自分の刺激となっております。 これからもよろしく申し上げます。	手術療法・機器開発
37	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	特に不満はありません。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
38	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成のおかげで海外学会発表のハードルが下がり、積極的に参加できるようになった。大変感謝している。 海外合同教育セミナーは参加者同士の距離が近く議論もしやすいため、非常に充実したセミナーだった。今後も機会があれば参加したい。	放射線治療開発
39	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成について、国際学会での研究発表をさせていただき大変満足している。	先端医学物理研究者
40	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	平素より大変お世話になります。 特記事項ありません。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
41	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	E-ラーニングの講義を最新のものに更新していただければ幸いです。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
42	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	今後とも若手がん研究者へのご支援、ご指導の程、何卒宜しくお願い致します。	手術療法・機器開発
43	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	「5大学連携 医療フォーラムについて」リハビリテーション専攻なので医師の発表はわからないことが多かったけれども、発表の仕方はもちろんのこと、今もなおがん治療が進んでいることに感動したし、もっともそれに対応できるような技術を身につけていけないといけないと思った。	がんリハビリテーション法開発
44	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	海外で研究発表する機会を頂け、自分の大学院中の研究について海外の第一線で研究している研究者と議論を交わすことができた。 大学院在籍中に放射線科専門医、放射線治療専門医を取得できたが、勉強にあたりE-ラーニングの講義がとても役に立った。 5大学連携 医療フォーラムにて、研究内容を発表の機会を頂きよい経験となった。また、同年代の大学院生の研究内容を知ることができ、励みになった。	放射線治療開発
45	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表の機会をいただき、大変感謝しております。また、医療フォーラムも興味深い発表があり今後の研究に役立たせられると感じました。	放射線治療開発

46	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	学会シーズンには複数に参加、発表する可能性があるので、研究発表者に関しては旅費の申請を複数回認めていただきたいです。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
47	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究活動を色々な面で支えて頂けるので大変ありがたいです。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
48	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ主催の講演会が大学構内で頻繁に開催され、高名な先生方のご講演をすぐにきける環境に大変満足しています。ありがとうございます。	手術療法・機器開発
50	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	特に、研究発表旅費助成のおかげで海外での学会発表、そして当科の研究発展に大いに役立っております。	婦人科がん治療開発
51	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	学会・研究会への研究発表の機会をいただけるのは大変ありがたいです。今後ともよろしく願いいたします。	放射線治療開発
52	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	日本癌学会学術総会において研究発表することが出来、大変助かりました。	抗悪性腫瘍薬臨床開発

がんの特化した講座の設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任					兼任					設置年月		
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師		助教	その他
京都大学	京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学分野	化学療法	1)化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する 2)化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[計画] 教授1(専任)、准教授1(専任)、助教1(専任)	3	3	1	1	1	0							H24.09	
				[実施] 教授1(専任)、助教1(専任)、助教2(兼任)	4	2	1		1	2				2				
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1		1	0							H24.04	
				[実施] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1		1	0								
滋賀医科大学	滋賀医科大学臨床腫瘍学講座	化学療法 その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、講師(専任)2名、助教(専任)1名	4	4	1		2	1	0						H24.10	
				[実施] 教授(専任)1名、講師(専任・兼任)各2名、助教(兼任)1名	5	3	1		2	2			1	1				

資料 6

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 28年度 第1回 事業推進運営委員会 議事録 (案)

日 時 : 平成28年6月14日(火) 15時15分～
場 所 : 京都大学 芝蘭会館2F 会議室

議事に先立ち、戸井事業推進責任者より、開会の挨拶および前回議事録(案)の確認依頼が行われた。

議 題

- 1) 平成28年度 5大学連携「医療フォーラム」の開催について
(第2回 事業推進運営委員会の開催について)

資料1に基づき、開催日を、11月15日(火)とし、特別講演を、大阪医科大、京都薬科大より選出いただき、履修生による教育研究成果発表は、三重大、滋賀医科大、大阪医科大、京都薬科大より1名、京大から3名を選出することが確認された。

なお、医療フォーラム開始前に「第二回 事業推進運営委員会」を開催することが、併せて確認された。

- 2) 平成28年度 5大学連携「海外合同教育セミナー」の実施について

資料2に基づき、10月27日(木)～10月30日(日)の日程で、「Chinese University Hong Kong」との間で、「国際交流」、「5大学連携」、「多職種連携」を、推進させるため、「海外合同教育セミナー」を行うことが確認された。

また、各大学より参加履修生の推薦を受け、履修生には英語による「研究発表」、「ディスカッション」を行わせ、国際的視野を持った「がん研究者・がん医療人養成」を、さらに推進させることが確認された。

- 3) 「最終成果」・「外部評価(28年度)」報告書の作成について

資料3に基づき、28年度 外部評価報告は、最終年度であることから、最終成果報告書としても位置づけ、5年間の成果発表およびその評価を受けるべきであり、また、評価の継続性の観点から、評価項目数を減らすことなく43項目として、外部有識者3名により評価を受けることが確認された。

なお、年度内に、冊子として発行するため、12月はじめには、各大学に、28年度の実績調査を行う予定とすることが併せて確認された。

- 4) 第二期がんプロ事業終了後のがんプロ履修生の養成について

第三期については、全国がんプロ協議会においても議題の提出がなされ、文部科学省

から「第三期に向けて前向きな検討を行っているところ」との発言が行われたことが報告された。

なお、第三期がある場合、どのような「がんプロ養成」が求められるか、わからないところであるが、来年1月には、申請書の提出依頼が行われることが想定される。

第三期がなかった場合においては、自大学経費で事業を継続させる必要のあることが確認された。

5) その他

次回開催日を「11月15日(火)」とすることが確認された。

報 告

1) 平成28年度 全国がんプロ協議会

別添資料「平成28年度 全国がんプロ協議会」に基づき、「28年度全国がんプロ協議会年間行事予定」、「全国Eラーニング クラウド運営状況について」、「28年6月11日 がんプロ成果報告市民公開シンポジウム」、「29年1月 がんプロ教育合同フォーラム(担当:京都大学)」、「28年がんプロ事業の成果調査(案)」、「27年度がんプロ養成実績集計表」、「全国がんプロ 緩和医療部会」、「第三期がんプロ継続について」が報告された。

なお、29年1月に開催される「がんプロ教育合同フォーラム」は、京都大学が担当することになり、連携大学からも参加する方向で協力願いたいとの連絡が行われた。

2) 27年度 外部評価報告書について

連携大学のご協力により、「27年度外部評価報告書」が、別添冊子のとおり発行され、関係各方面にも配布されたことが報告された。

3) その他

- ・ Eラーニング講義収録について、全国へ提供する講義収録の協力依頼が行われた。
- ・ 予算の早期執行と備品購入の注意について、今年度は、最終年度で2月以降は、成果をまとめる時期として、物品の購入については、「必要性」や「それをういた年度内での成果の確認が求められる」ので留意して執行するよう連絡された。
- ・ セミナー、講演会等の「がんプロHP」への掲載について、協力依頼が行われた。



24年度～28年度に導入された医療チーム

大学名	名称	分類	活動内容	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
京都大学	原発不明がん／希少がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	診療科横断的かつ迅速な治療方針の決定と治療の実践	○	○	○	○	○
京都大学	血液腫瘍ユニット	「化学療法」	血液腫瘍に関するチーム医療	○	○	○	○	○
京都大学	小児がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児腫瘍に関する横断的ながん診療		○	○	○	○
京都大学	家族性腫瘍外来ユニット	「その他」	遺伝相談も含めたチーム医療		○	○	○	○
京都大学	婦人科腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	婦人科腫瘍に関する診療科横断的チーム医療		○	○	○	○
京都大学	神経内分泌腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	非がん領域の診療科も含めたチーム医療			○	○	○
京都大学	クリニカルシーケンスユニット	「化学療法」 「その他」	遺伝子解析に基づくゲノム医療に関するチーム医療				○	○
京都大学	メラノーマユニット	「化学療法」 「その他」	免疫チェックポイント阻害剤に関するチーム医療				○	○
三重大学	口腔ケアチーム	「その他」	がん治療前の口腔ケア		○	○	○	○
三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	麻酔科医、鍼灸師も加わった多職種による緩和医療			○	○	○
滋賀医科大学	化学療法チーム	「化学療法」	医師6名、看護師・薬剤師がチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	○	○	○	○	○
滋賀医科大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	○	○	○	○	○
大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	○	○	○	○	○
大阪医科大学	緩和ケア室	「放射線療法」	がん患者の痛みや心のケアに関するチーム医療		○	○	○	○

事業開始前から設置されていた医療チーム

大学名	名称	分類	活動内容	備考
京都大学	放射線治療医療チーム	「放射線療法」 「緩和ケア」	臓器横断的な放射線治療の教育と実践	
京都大学	薬物治療チーム	「化学療法」 「緩和ケア」	がん薬物療法専門医の育成、がん薬物療法のレジメン管理	
京都大学	癌緩和ケアチーム	「緩和ケア」	診療科横断的かつ職種横断的診療と教育	
京都大学	脳腫瘍／ 小児脳腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	脳外科・放射線治療科・小児科合同による集学的がん診療	
京都大学	頭頸部がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・放射線治療科合同のカンファレンス	
京都大学	食道癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科・放射線治療科・頭頸部外科からなる集学的診療体制	
京都大学	胃がん/ GISTユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	肺癌/ 縦隔腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	呼吸器内科・呼吸器外科・腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	乳癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	乳腺外科、腫瘍内科、放射線治療科、放射線診断科、遺伝子診療部等からなる集学的診療体制を構築	
京都大学	膵癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	大腸癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	前立腺癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	泌尿器科・放射線治療科による集学的がん診療	
三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	がん患者のトータルな緩和医療	
三重大学	栄養サポートチーム	「その他」	がん患者の栄養管理	
三重大学	褥瘡チーム	「その他」	がん患者の褥瘡管理	
三重大学	乳癌治療検討会	「放射線療法」 「化学療法」	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	
三重大学	乳腺疾患術後検討会	「その他」	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	
三重大学	乳房MRI検討会	「その他」	1回/週、乳房MRIの画像診断を放射線科、乳腺外科で検討	
三重大学	乳腺疾患検討会	「その他」	1回/月、放射線科、病理、乳腺外科で術後症例の画像・病理について勉強	
三重大学	膵がん教室	「化学療法」	医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士による膵がん教室を月2回実施	
三重大学	内科小児科合同移植カンファレンス	「化学療法」	血液内科医、小児科医、輸血部医、薬剤師、看護師による、治療、移植等ミーティング1回/月実施	
大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	

がんセンターの体制

京都大学

がん種	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種 (◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合	
1	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん	放射線科 泌尿器科	◎泌尿器科医、放射線治療医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍 脊髄腫瘍	脳神経外科 放射線治療科 小児科	◎脳神経外科医 放射線治療医 小児科医 看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 腫瘍内科 放射線診断科 放射線治療科	◎乳腺外科医 腫瘍内科医 放射線診断医 放射線治療医	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	全例実施
4	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 放射線治療科 消化器内科 耳鼻咽喉科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、消化器内科医、消化管外科医、放射線治療医、耳鼻科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
5	肺がんユニットカンファレンス	肺がん(一部 良性疾患)	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科	◎呼吸器内科助教、呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
6	膵がんユニットカンファレンス	膵がん	放射線治療科 放射線診断科 肝胆膵・移植外科 消化器内科 がん薬物治療科 緩和医療科 遺伝診療科	◎腫瘍外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、放射線診断医、消化器内科医、精神科医、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	頭頸部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科 放射線治療科	◎耳鼻咽喉科副部長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医	新規患者の検討をする。	全例実施
8	胃がん・GIST	胃がん GIST	消化管外科 消化器内科 血液・腫瘍内科 放射線治療科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
9	大腸がん	大腸がん	消化管外科 肝胆膵外科 消化器内科 血液・腫瘍内科 放射線治療科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、消化管外科医、肝胆膵外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
10	小児がんユニットカンファレンス	各種小児がん、骨・軟部腫瘍	小児科 整形外科 小児外科 放射線治療科 病理診断科 呼吸器外科 泌尿器科 耳鼻科 眼科 精神科	◎小児科医、整形外科医、小児外科医、放射線治療医、病理診断科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、耳鼻科医、眼科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
11	原発不明がんユニットカンファレンス	原発不明癌 希少癌	血液・腫瘍内科 小児科 肝胆膵移植外科 呼吸器内科 消化管外科 がん薬物治療科 乳腺外科 消化器内科 腫瘍内科 整形外科 婦人科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、血液内科医、小児科医、肝胆膵移植外科医、呼吸器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、消化器内科医、整形外科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満

12	骨転移ユニットカンファレンス	転移性骨腫瘍	乳腺外科 泌尿器科 放射線治療科 整形外科	◎乳腺外科医、整形外科医、放射線治療医、泌尿器科医	新規対象患者の診断、治療方針の決定、治療中患者の方針の検討および経過報告をする。	50%以上75%未満
13	がんサポートチームユニットカンファレンス	全種	精神科 血液・腫瘍内科 がん薬物治療科	◎緩和ケア医、精神科医、腫瘍内科医、がん薬物治療科医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
14	NETユニットカンファレンス	内分泌細胞癌	肝胆膵移植外科 呼吸器内科 呼吸器外科医 消化管外科 がん薬物治療科 消化器内科 腫瘍内科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科 糖尿病内分泌代謝内科	◎肝胆膵移植外科医、がん薬物治療科医、腫瘍内科医、呼吸器内科医、呼吸器外科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、内分泌代謝内科医	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
15	クリニカルシーケンスユニットカンファレンス	原発不明癌 希少癌 標準治療に抵抗性となった固形癌	肝胆膵移植外科 呼吸器内科 消化管外科 がん薬物治療科 乳腺外科 消化器内科 整形外科 婦人科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科 遺伝子診療部	◎がん薬物治療科医、病理医、臨床遺伝専門医、肝胆膵移植外科医、消化器内科医、呼吸器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、放射線診断医	クリニカルシーケンス(OncoPrime)を受けた患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
16	メラノーマユニットカンファレンス	悪性黒色腫	皮膚科 がん薬物治療科	◎皮膚科医、がん薬物治療科医、薬剤師	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施

平成28年度 滋賀医科大学 キャンサーボードの体制

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種 (◎:リーダー)	内 容	新規治療開始患者のうち 検討症例の割合
1	腫瘍薬物療法カンファレンス	全固形腫瘍	腫瘍内科 消化器内科 消化器 外科 乳腺外科	◎腫瘍センター副センター長、 腫瘍内科医、消化器内科医、乳 腺外科医、呼吸器内科医、消化 器外科医、薬剤師、看護師	新規の入院患者対診、外来 初診患者の治療方針の検 討および経過報告をする。	全例実施
2	肺癌放射線治療カンファレンス	肺癌	放射線科 呼吸器外科 呼吸器内科	◎放射線科科長、放射線科医、 呼吸器外科医、呼吸器内科医	新規入院患者の治療方針 の決定および経過報告をす る。	全例実施
3	骨髄移植カンファレンス	白血病 リンパ腫	血液内科 小児科	◎血液内科医、血液内科ロー ーター、小児科医	移植予定者について前処置 業の検討および移植後患者 についての経過報告をす る。	全例実施
4	血液疾患カンファレンス	血液全疾患	血液内科 薬剤部 検査部 輸血部	◎血液内科医、病棟看護師、薬 剤師、血液検査技師、薬剤部検 査技師	全ての入院症例の経過報告 と問題点を検討する。	全例実施
5	婦人科癌カンファレンス	婦人科がん	母子・女性診療科 放射線科 薬剤部	◎母子・女性診療科科長、母 子・女性診療科医、放射線治療 医	新規入院患者、外来初診患 者の治療方針、術式の検討 および経過報告をする。	全例実施
6	乳癌カンファレンス	乳癌	乳腺一般外科	◎乳腺外科科長、乳腺外科医、 学生	新規入院患者の治療方針 の決定および経過報告をす る。	全例実施
7	胃癌カンファレンス	食道癌	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部 光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科 医、内視鏡医、放射線診断医、 病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針 の決定および術後経過報 告、病理診断報告、術前画 像診断の評価などを行う。	全例実施
8	肝胆膵がんカンファレンス	肝胆膵がん	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部 光学診療部	◎肝胆膵外科医、肝胆膵内科 医、消化器内科医、消化器外科 医、内視鏡医、放射線診断医、 病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針 の決定および術後経過報 告、理診断報告、術前画像 診断の評価などを行う。	75%以上-100%未満実施
9	大腸癌カンファレンス	大腸癌	消化器内科 消化器外科 放射線科 病理部 光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科 医、内視鏡医、放射線診断医、 病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針 の決定および術後経過報 告、病理診断報告、術前画 像診断の評価などを行う。	全例実施
10	小児血液悪性腫瘍カンファレンス	小児がん	小児科	◎小児科医、小児科研修医、小 児科腫瘍グリーンスタッフ、学生	入院患者の経過報告と治療 方針の決定をする。	全例実施
11	乳腺カンファレンス	乳癌	乳腺一般外科 放射線科 病理部	◎乳腺一般外科科長、乳腺外 科医、放射線科医、病理医、研 修医、放射線治療医、近隣病院 の乳腺科医、放射線科医、放射 線技師	乳癌患者の診断、治療方針 を検討する	50%以上-75%未満実施
12	呼吸器外来新患カンファレンス	肺癌	呼吸器内科 呼吸器外科	◎呼吸器内科長、◎呼吸器外 科長、呼吸器内科医、呼吸器外 科医	肺癌外来新患患者の治療 方針を決定。また、紹介手 術患者の結果報告。	75%以上-100%未満実施
13	脳腫瘍治療カンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科	◎脳神経外科医、学生	脳腫瘍にて入院の患者の治 療方針、治療経過ならびに 外来患者の治療方針につい て評価報告する	全例実施
14	泌尿器癌カンファレンス	泌尿器癌	泌尿器科	◎泌尿器科科医、学生	泌尿器癌入院患者の治療 方針につき討議する。主な 外来抗腫瘍療法患者について 評価する。	全例実施
15	耳鼻科放射線科合同カンファレンス	頭頸部癌	耳鼻科 放射線科	◎耳鼻咽喉科科長、耳鼻咽喉科 医、放射線治療医、診療放射線 技師、看護師	放射線治療を受ける頭頸部 癌の治療方針や治療経過 について検討、評価する。	全例実施
16	放射線治療カンファレンス	全がん腫	放射線科	◎放射線治療医、診療放射線 技師、看護師	放射線治療新規患者の照 射範囲・線量の確認や治療 中患者の治療方針について 検討する。	全例実施
17	緩和ケアカンファレンス	全悪性腫	腫瘍内科 腫瘍センター 精神科 薬剤部 看護部	◎腫瘍内科科長・腫瘍センター 長、腫瘍内科医、精神科医、が ん診療全科医、看護師、薬剤 師、理学療法士、MSW	新規の介入患者対診、外来 初診患者の治療方針の検 討および経過報告をする。	全例実施
18	緩和ケアカンファレンス	頭頸部癌	歯科口腔外科 緩和ケアチーム ソーシャルワーカー	歯科口腔外科医、精神科医認 定看護師、薬剤師、ソーシャル ワーカー	高齢患者の治療後の療養 施設決定のための検討、評 価を行う	全例実施
19	皮膚悪性腫瘍カンファレンス	皮膚癌、 皮膚原発悪 性リンパ腫	皮膚科	◎皮膚科医	入院患者および外来手術患 者の治療方針を決定する。	全例実施

平成28年度 インテンシブコース実施事業

京都大学

外来がん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)

()の数字は参加人数

16/11/08	がんチーム医療研修会(9)
16/11/09	
16/11/29	がんチーム医療研修会(12)
16/11/30	
16/12/13	がんチーム医療研修会(12)
16/12/14	
17/01/17	がんチーム医療研修会(12)
17/01/18	
17/02/07	がんチーム医療研修会(12)
17/02/08	
	がんチーム医療研修 フォローアップミーティング

高精度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)

16/12/16	第29回 高精度放射線治療ワークショップ(4)
16/12/17	
16/10/29	第42回京都放射線腫瘍研究会プログラム(120)学内61 学外59

地域がん医療を担う薬剤師養成コース(インテンシブ)

16/11/02	第1回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都(90)学内21 学外69
17/01/28	第5回 地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース

シンポジウム・セミナー等の開催

京都大学

開催年月日	シンポジウム・セミナー等の名称	参加者数(人)
2016/4/9-10	「第1回緩和ケア(PEACE)研修会」	41
2016/7/13	OncoPrime セミナー LD7:121IQUID BIOPSYを用いた網羅的がん遺伝子解析とその臨床応用	41
2016/7/28	Special Lecture ROLE OF TRANSLATIONAL STUDIES MULTIDISCIPLINARY CLINICAL TRIALS OF ANTI-CANCER AGENTS	35
2016/8/22	Meet the Expert Deep Learningの基礎と臨床応用の可能性～がんの治療応答性の予測について～	40
2016/9/3-4	「第2回緩和ケア(PEACE)研修会」	34
2016/9/9	がんプロ特別講演 Advances in breast cancer reconstruction	49
2016/9/10	がんプロ特別講演 managing expectation in breast cancer patients:balancing complexity in cancer treatment and reconstruction	50
2016/9/10	コアカリキュラム看護師教育プログラム(ELNEC-J研修)	54
2016/9/16	「第32回 京都がん研究会」 基礎研究と臨床研究から癌を考える 免疫療法のフロントライン～メラノーマ治療の新しい展開～ キナーゼ取捨型リン酸化プロテオミクスを用いたシグナルネットワーク解析と分子標的創薬	45
2016/10/4	The Microbiome and Human Breast Cancer	24
2016/10/14	がんプロ特別講演 「虎の門病院での乳癌の臨床と研究の実際」	18
2016/10/18	がんプロ特別講演 「がん免疫療法の現状とバイオマーカー開発」	27
2016/10/22	がんリハビリテーション特別講演 多職種で支えるエンドオブライフケア	25
2016/10/26	がんプロ腫瘍セミナー “Light and dark sides of aPKC; aPKC controls endo thelial growth by modulating FoxO DNA binding ability”	25
2016/10/27	がんプロ特別講演 「Current topics in primary breast cancer management」	27
2016/10/28-29	がんプロ5大学連携 合同教育セミナー 「Exchange International Symposium in Chinese University of Hong Kong」	39
2016/10/30	第14回京都乳がん市民公開講座 ～乳がん検診の今！～	48
2016/11/15	がんプロ5大学連携「医療フォーラム」 「高線量率小線源治療について」 「C7orf24を標的とする副作用ゼロの抗がん剤を作る」 「履修生による教育研究発表」	112
2016/11/19-20	「第3回緩和ケア(PEACE)研修会」	47
2016/11/29	近畿3拠点合同フォーラム 「がんプロによる医療人材養成の現状と将来」	30
2017/1/6	がんリハビリテーション特別講演 「病いの語りに向かい合う ～ナラティブ・メディスン入門～」	44
2017/1/7	京都府立医科大学・京都大学連携「府民公開講座」 「がん専門医によるがん検診およびがん診療の最前線」	229
2017/2/3	がんプロ腫瘍セミナー “腫瘍微小環境を標的としたがん治療戦略”	
2017/2/27-28	「第4回緩和ケア(PEACE)研修会」	

国際学会、英文誌への発表一覧

		京都大学	
NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	論文発表 Radiotherapy and Oncology, The accuracy of extracted target motion trajectories in four-dimensional cone-beam computed tomography for lung cancer patients, 2016/10/31 (筆頭発表)	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
2	論文発表 J Radiat Res. Regional recurrence in breast cancer patients with one to three positive axillary lymph nodes treated with breast-conserving surgery and whole breast irradiation. 2016 Jul 15. (筆頭発表)	放射線治療開発	平田 希美子
3	論文発表 Cancer Research, 2016 Aug 1;76(15):4383-93, MSH2 Dysregulation Is Triggered by Proinflammatory Cytokine Stimulation and Is Associated with Liver Cancer Development. (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
4	論文発表 Eur J Gastroenterol Hepatol, 2016 Dec;28(12):1462-1467, Sonazoid-enhanced ultrasonography guidance improves the quality of pathological diagnosis in the biopsy of focal hepatic lesions, (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
5	論文発表 「British Journal of Surgery」, 「Impact of hospital volume on risk-adjusted mortality following oesophagectomy」, 「2016年」 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	錦織 達人
6	論文発表 「Annals of Surgical Oncology」, 「Impact of Sarcopenic Obesity on Surgical Site Infection after Laparoscopic Total Gastrectomy」, 「2016年」 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	錦織 達人
7	論文発表 「Journal of Surgical Oncology」, 「Sarcopenia as a predictor of pulmonary complications after esophagectomy for thoracic esophageal cancer」 「2016年」 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	錦織 達人
8	論文発表 BMC Cancer, 2016;volume 16: page 859-868, 「Comparison of the pharmacokinetics between L-BPA and L-FBPA using the same administration dose and protocol: a validation study for the theranostic approach using [18F]-L-FBPA positron emission tomography in boron neutron capture therapy. (筆頭発表)	放射線治療開発	渡邊 翼
9	論文発表 Eur J Gastroenterol Hepatol 「Sonazoid-enhanced ultrasonography guidance improves the quality of pathological diagnosis in the biopsy of focal hepatic lesions.」 2016年12月28日 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南
10	論文発表 Photoacoustic mammography capable of simultaneously acquiring photoacoustic and ultrasound images. Journal of Biomedical Optics. November 2016. (共著発表)	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
11	論文発表 Serum immunoglobulin G Fc region N-glycosylation profiling by matrix-assisted laser desorption/ionization mass spectrometry can distinguish breast cancer patients from cancer-free controls. Biochemical and Biophysical Research Communications. January 2016. (共著発表)	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
12	論文発表 「Clinical Cancer Research」, 「Expression of Vascular Endothelial Growth Factor in Ovarian Cancer Inhibits Tumor Immunity through Accumulation of Myeloid-Derived Suppressor Cells」, 「2016年6月」 (筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
13	論文発表 「Radiotherapy and Oncology」, 「Comparative evaluation of respiratory-gated and ungated FDG-PET for target volume definition in radiotherapy treatment planning for pancreatic cancer」, 「2016年8月」 (筆頭発表)	放射線治療開発	岸 高宏
14	論文発表 「Radiation Oncology」, 「Initial characterization, dosimetric benchmark and performance validation of Dynamic Wave Arc」, 「2016年4月」 (共著発表)	放射線治療開発	岸 高宏
15	論文発表 Gut, 2016 Aug;65(8):1322-32 Pathogenicity of IgG in patients with IgG4-related disease. Shiohara M, Chiba T, et al. (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	美馬 淳志
16	論文発表 World Neurosurgery. "Clinicopathological, Radiological, and Genetic Analyses of Cerebellar Gangliogliomas with Long-Term Survival." 2016 October (共著発表)	手術療法・機器開発	福井 伸行
17	論文発表 Journal of Neurosurgery. "High PD-L1 expression associated with CD8+ T cell infiltration and poor prognosis in human medulloblastoma" 2016 November accepted (共著発表)	手術療法・機器開発	福井 伸行
18	論文発表 Takeda H, Takai A, Inuzuka T, Marusawa H. Genetic basis of hepatitis virus-associated hepatocellular carcinoma: linkage between infection, inflammation, and tumorigenesis. J Gastroenterol. 2016 in press. (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦

19	論文発表 Eso Y, Takai A, Takeda H, et al. Sonazoid-enhanced ultrasonography guidance improves the quality of pathological diagnosis in the biopsy of focal hepatic lesions. Eur J Gastroenterol Hepatol. 2016; 28(12):1462-1467. (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
20	論文発表 Ki Kim S, Ueda Y, Hatano E, Kakiuchi N, Takeda H, et al. TERT promoter mutations and chromosome 8p loss are characteristic of nonalcoholic fatty liver disease-related hepatocellular carcinoma. Int J Cancer. 2016;139:2512-8. (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
21	論文発表 Leukemia and lymphoma]「Efficacy of antithymocyte globulin for allogeneic hematopoietic cell transplantation – a systematic review and meta-analysis」平成28年11月30日時点 in press」(共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	城 友泰
22	論文発表 Oncotarget Pattern of RECK CpG methylation as a potential marker for predicting breast cancer prognosis and drug-sensitivity April 06, 2016 (共著発表)	手術療法・機器開発	川田 有希子
23	論文発表 Int J Hematol. Diagnostic challenge of Diamond-Blackfan anemia in mothers and children by whole-exome sequencing. 2016 11. Co-author (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	上野 浩生
24	論文発表 J Pediatr Hematol Oncol. Efficacy of Ifosfamide-Cisplatin-Etoposide (ICE) Chemotherapy for a CNS Germinoma in a Child With Down Syndrome. 2016 11. Co-author. (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	上野 浩生
25	論文発表 J Allergy Clin Immunol. Haploinsufficiency of TNFAIP3 (A20) by germline mutation is involved in autoimmune lymphoproliferative syndrome. 2016 11. Co-author (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	上野 浩生
26	論文発表 Internal Medicine]「Paraneoplastic Limbic Encephalitis in a Human Epidermal Growth Factor Receptor-2-positive Gastric Cancer Patient Treated with Trastuzumab-combined Chemotherapy: A Case Report and Literature Review.」H28.9.15」(共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
27	論文発表 Medical Dosimetry, Dosimetric comparison of lung SBRT treatment plans using averaged CT and end-exhalation CT images: evaluation of the impact of different dose calculation algorithms and prescription methods, 2016/10(筆頭発表)	放射線治療開発	光吉 隆真
28	論文発表 「Radiation Oncology」]「Non-coplanar volumetric-modulated arc therapy (VMAT) for craniopharyngiomas reduces radiation doses to the bilateral hippocampus: a planning study comparing dynamic conformal arc therapy, coplanar VMAT, and non-coplanar VMAT」] Jun 23, 2016」(筆頭発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
29	論文発表 「Int J Clin Oncol」]「Feasibility evaluation of hypofractionated radiotherapy with concurrent temozolomide in elderly patients with glioblastoma」] Jul 6, 2016」(筆頭発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
30	論文発表 「Acta Oncologica」, 「Nomogram for predicting recurrence in stage II colorectal cancer」, 「2016 Dec」, (筆頭発表)	手術療法・機器開発	星野 伸晃
31	論文発表 「International Journal of Colorectal Disease」, 「The role of periodic serum CA19-9 test in surveillance after colorectal cancer surgery」, 「2016 Aug」, (共著発表)	手術療法・機器開発	星野 伸晃
32	論文発表 「International Journal of Colorectal Disease」, 「Influence of hospital type on survival in stage IV colorectal cancer」, 「2016 Aug」, (筆頭発表)	手術療法・機器開発	星野 伸晃
33	論文発表 「International Journal of Colorectal Disease」, 「Impact of age on the prognostic value of number of lymph nodes retrieved in patients with stage II colorectal cancer」, 「2016 Jul」, (筆頭発表)	手術療法・機器開発	星野 伸晃
34	論文発表 「Right hemicolectomy for mesenteric phlebosclerosis potentially caused by long-term use of herbal medicine: A case report and literature review」, 「International Journal of Surgery Case Reports」, 「2016 May」, (筆頭発表)	手術療法・機器開発	星野 伸晃
35	論文発表 「International Journal of Colorectal Disease」]「Differences in surgical site infection between laparoscopic colon and rectal surgeries: sub-analysis of a multicenter randomized controlled trial (Japan-Multinational Trial Organization PREV 07-01)」]「2016年8月accepted」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	後藤 沙織
36	論文発表 Int J Clin Oncol 2016 Nov 10 Association between UGT1A1*28*28 genotype and lung cancer in the Japanese population Yoshitaka Nishikawa, Manabu Muto, et al (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	井口 恵里子
37	論文発表 Gut. 2016 Aug;65(8):1322-32 Pathogenicity of IgG in patients with IgG4-related disease. Shiohara M, Chiba T, et al. (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	井口 恵里子
38	論文発表 J Toxicol Sci. 2016;41(6):813-816. A new designer drug 5F-ADB activates midbrain dopaminergic neurons but not serotonergic neurons. (共著発表)	がん専門薬剤師養成	西谷 直也

39	論文発表 「International Journal of Clinical Oncology」 「Ten-year outcomes of intensity-modulated radiation therapy combined with neoadjuvant hormonal therapy for intermediate- and high-risk patients with T1c-T2N0M0 prostate cancer.」 「2016年8月」(共著発表)	放射線治療開発	中村 清直
40	論文発表 「International Journal of Clinical Oncology」 「Clinical effect of multileaf collimator width on the incidence of late rectal bleeding after high-dose intensity-modulated radiotherapy for localized prostate carcinoma.」 「2016年2月」(共著発表)	放射線治療開発	中村 清直
41	論文発表 「International Journal of Clinical Oncology」 「Long-term outcomes of intensity-modulated radiation therapy combined with neoadjuvant androgen deprivation therapy under an early salvage policy for patients with T3-T4N0M0 prostate cancer.」 「2016年2月」(共著発表)	放射線治療開発	中村 清直
42	論文発表 「International Journal of Hematology」 「Plasmablastic lymphoma of the gallbladder」 「104(1) 1-3 2016年7月」(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西 義延
43	論文発表 「Annals of Hematology」 「Allogeneic bone marrow transplantation for therapy-related acute lymphocytic leukemia after autologous hematopoietic stem cell transplantation for multiple myeloma」 「95(10) 1739-1740 2016年10月」(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西 義延
44	論文発表 Successful laparoscopic treatment of a giant solitary fibrous tumor of the mesorectum: A case report and literature review. Kawamura J, Tani M, Kida Y, Sumida K, Ogawa R, Kawasoe J, Yazawa T, Yamada M, Yamamoto M, Harada H, Yamamoto H, Zaima M. Asian J Endosc Surg. 2016 Sep 5 (共著発表)	手術療法・機器開発	尾川 諒太郎
45	論文発表 The Role of Chemokines in Promoting Colorectal Cancer Invasion/Metastasis. Itatani Y, Kawada K, Inamoto S, Yamamoto T, Ogawa R, Taketo MM, Sakai Y. Int J Mol Sci. 2016 Apr 28;17(5). (共著発表)	手術療法・機器開発	尾川 諒太郎
46	論文発表 BMJ case reports. Liver transplantation for acute liver failure accompanied by severe acute pancreatitis. BMJ Case Reports 2016;published online 6 September 2016. (筆頭発表)	手術療法・機器開発	桐野 泉
47	論文発表 International Journal of Hematology "18F-FDG PET/CT and MRI findings in a case of granulocytic sarcoma of the breast" February 2016 Volume 103, pp117-118 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	大塚 泰幸
48	論文発表 「Annals of surgical oncology」, 「Impact of Skeletal Muscle Mass, Muscle Quality, and Visceral Adiposity on Outcomes Following Resection of Intrahepatic Cholangiocarcinoma」, 「2016/11」(共著発表)、	手術療法・機器開発	白井 久也
49	論文発表 「Transplantation」, 「Proposal of Muscle-MELD Score, Including Muscularity, for Prediction of Mortality After Living Donor Liver Transplantation」, 「2016/11」(共著発表)、	手術療法・機器開発	白井 久也
50	論文発表 「Nutrition」, 「Effects of pretransplant sarcopenia and sequential changes in sarcopenic parameters after living donor liver transplantation.」, 「2016/07」(共著発表)	手術療法・機器開発	白井 久也
51	論文発表 Breast Cancer Res Treat (2016) 160:61-67 Evaluation of the effect of compression therapy using surgical gloves on nanoparticle albumin-bound paclitaxel-induced peripheral neuropathy: a phase II multicenter study by the Kamigata Breast Cancer Study Group 2016年10月 (共著発表)	手術療法・機器開発	山口 絢音
52	論文発表 Ann Surg. Usefulness of Mac-2 Binding Protein Glycosylation Isomer for Prediction of Posthepatectomy Liver Failure in Patients With Hepatocellular Carcinoma.2016 Jun 28 (共著発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史
53	論文発表 J Community Support Oncol. Omission of dexamethasone from antiemetic treatment for highly emetogenic chemotherapy in breast cancer patients with hepatitis B infection or diabetes mellitus.2016 May;14(5):210-4 Nakayama Y, Ito Y, Tanabe M, Takahashi S.(筆頭発表)	手術療法・機器開発	中山 美恵
54	論文発表 The Journal of Obstetrics and Gynaecology Reserch Tubo-ovarian abscess with endometrial cyst probably infected by Campylobacter fetus: Two cases 2016 Aug (筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
55	論文発表 J Int Med Res.Clinical efficacy of neoadjuvant chemotherapy with irinotecan (CPT-11) and nedaplatin followed by radical hysterectomy for locally advanced cervical cancer.2016 Apr;44 (共著発表)	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
56	論文発表 BMJ open, Polymyxin B-immobilised haemoperfusion and mortality in critically ill patients with sepsis/septic shock: a protocol for a systematic review and meta-analysis, 2016/10/4, equally contributed author(筆頭発表)	手術療法・機器開発	我如古 理規
57	論文発表 Acta Oncologica, Nomogram for predicting recurrence in stage II colorectal cancer, 2016/9/1, co-author (共著発表)	手術療法・機器開発	我如古 理規
58	論文発表 surgical case reports; Laparoscopy endoscopy cooperative surgery for gastric plexiform fibromyxoma: a case report: 2016; (筆頭発表)	手術療法・機器開発	井上 善景

59	論文発表 「Clinical Journal of Gastroenterology」 「Histological features of mixed neuroendocrine carcinoma and hepatocellular carcinoma in the liver: a case report and literature review.」 「2016年6月」 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
60	論文発表 「European Journal of Surgical Oncology」 「Does response rate of chemotherapy with molecular target agents correlate with the conversion rate and survival in patients with unresectable colorectal liver metastases?: A systematic review」 「2016年9月」 (共著発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
61	論文発表 Pediatric Transplantation 「Impact of pretransplant minimal residual disease on the post-transplant outcome of pediatric acute lymphoblastic leukemia.」 2016年8月 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上 真充
62	論文発表 Journal of Clinical Virology 「Vaccine-strain herpes zoster found in the trigeminal nerve area in a healthy child: A case report.」 2016年11月 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上 真充
63	論文発表 Cancer medicine, CCL2 as a potential therapeutic target for clear cell renal cell carcinoma. 2016年9月 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
64	論文発表 Journal: Surgery Today Title: Feasibility of a new approach for creating a preperitoneal space in transabdominal preperitoneal repair inguinal hernia repair: using a sandwich approach 2016.11 (共著発表)	手術療法・機器開発	本間 周作
65	論文発表 J Gynecol Oncol. Practice patterns of adjuvant therapy for intermediate/high recurrence risk cervical cancer patients in Japan 2016 May (共著発表)	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
66	論文発表 Hirabayashi S, Kondo T, Oka T, Akamatsu Y, Hishizawa M, Shibata T, Kitano T, Takaori-Kondo A. Successful treatment of severe acute gastrointestinal graft-versus-host disease complicated by cytomegalovirus gastroenteritis with intra-arterial steroid infusion. Ann Hematol. 2016; 95(8):1373-5 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	平林 茂樹
67	論文発表 International Journal of Cancer and Clinical Research. Impact of Eribulin Monotherapy on Psot-Progression Survival in Patients with HER2-Negative Advanced or Metastatic Breast Cancer, Volume 3 Issue 5, 2016 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	古武 剛
68	論文発表 International Cancer Conference Journal Transanal approach for intersphincteric resection of rectal cancer in a patient with a huge prostatic hypertrophy: a video article 2017/1 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	喜安 佳之
69	論文発表 Biochimica et Biophysica Acta (BBA) The Sal-like 4 - integrin $\alpha 6 \beta 1$ network promotes cell migration for metastasis via activation of focal adhesion dynamics in basal-like breast cancer cells 2016 Oct (共著発表)	手術療法・機器開発	田中 直
70	論文発表 Gastroenterology, Hepatology and Endoscopy, A Foreign Body in the Appendix, 2016年7月 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
71	論文発表 Int J Clin Oncol. Association between UGT1A1*28*28 genotype and lung cancer in the Japanese population. 2016 Nov 10. [Epub ahead of print] (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝
72	論文発表 Gastroenterology. Multiple White Plaques in the Body of the Stomach in a Patient Undergoing Hemodialysis. 2016 Jul;151(1):e18-9. doi: 10.1053/j.gastro.2016.03.049. No abstract available. (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝
73	論文発表 Surg Endosc. Factors affecting dilation force in balloon dilation of severe esophageal strictures: an experiment using an artificial stricture model. 2016 Oct;30(10):4315-20. doi: 10.1007/s00464-016-4749-5. (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝
74	論文発表 Thyroid. Assessment of Nutritional Status of Iodine Through Urinary Iodine Screening Among Local Children and Adolescents After the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. 2016 Oct 31. [Epub ahead of print] (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝
75	論文発表 Arab J Gastroenterol. Follicular lymphoma of the caecum resected endoscopically. 2016 Sep;17(3):143-144. doi: 10.1016/j.ajg.2016.08.003. (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝
76	論文発表 Intern Med. Paraneoplastic Limbic Encephalitis in a Human Epidermal Growth Factor Receptor-2-positive Gastric Cancer Patient Treated with Trastuzumab-combined Chemotherapy: A Case Report and Literature Review. 2016;55(18):2605-9. doi: 10.2169/internalmedicine.55.6917. (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝
77	学会等発表 DDW2016, Brg1 Plays an Important Role in Acinar Cell-Derived PanIN Formation Through Regulation of SOX9 Expression. 2016/5/23. (筆頭発表)、	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田 喬之
78	学会等発表 「American Association for Cancer Research Annual Meeting 2016」, 「Clonal evolution in noncancerous esophageal mucosa in normal and cancer-bearing individuals」, 「2016/4/17」 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	横山 顕礼

79	学会等発表 「The 75th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association」, 「Differential role of mutations in clonal evolution in esophageal mucosal in high-risk individuals for cancer」, 「2016/10/6」(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	横山 顕礼
80	学会等発表 ESTRO35, Target displacement evaluation for fluoroscopic and four-dimensional cone-beam computed tomography, 2016/4/29 (筆頭発表)	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
81	学会等発表 ASTRO58, Accuracy of Target Motion Trajectory in Four-dimensional Cone-Beam Computed Tomography for Lung Cancer Patients, 2016/9/25 (筆頭発表)	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
82	学会等発表 学会名: APDW2016(Asian Pacific Digestive Week 2016) タイトル: Histone lysine methyltransferase Eset promotes tumorigenesis in the murine small intestine 年月: 2016/11/3 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 善秀
83	学会等発表 DDW2016 (Digestive Disease Week 2016), Profiling of Acquired Immune Response Against Hepatitis B Virus Infection Determined By Direct Digital Counting System, 2016/5/24, (筆頭発表).	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
84	学会等発表 DDW2016 (Digestive Disease Week 2016), Reactivated Virus From Occult Hepatitis B Virus Infection Is Characterized By Amino Acid Changes in the Major Hydrophilic Region of the S Gene, 2016/5/24, (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
85	学会等発表 APDW2016 (Asian Pacific Digestive Week 2016), EpCAM-positive hepatic stem/progenitor cells give origin to hepatocellular carcinomas, 2016/11/5, (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
86	学会等発表 「American College of Surgeons Clinical Congress 2016」, 「Sarcopenia as a predictor of prognosis after curative resection for advanced gastric cancer」, 「28年10月17日」, (筆頭発表)	手術療法・機器開発	錦織 達人
87	学会等発表 「Digestive Disease Week 2016」, 「Impact of laparoscopic proximal gastrectomy for early upper gastric cancer on body weight loss and quality of life」, 「28年5月24日」, (筆頭発表)	手術療法・機器開発	錦織 達人
88	学会等発表 17th International Congress on Neutron Capture Therapy, 「L-Phenylalanine preloading reduces the 10B(n, α)7Li dose to the normal brain by inhibiting the uptake of L-BPA, Oct 2nd-7th, 2016 (筆頭発表)	放射線治療開発	渡邊 翼
89	学会等発表 APDW2016 (Asian Pacific Digestive Disease), EGFR inhibitors exert different effects on epithelial-like and mesenchymal-like esophageal squamous carcinoma cells., 2016/11/4, (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡 正博
90	学会等発表 「International Gynecological Cancer Society 2016」 「VEGF in Ovarian cancer suppresses T cell activity by eliciting Myeloid-derived suppressor cells (MDSC) into tumor microenvironment」, 「2016年10月29日」 (筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
91	学会等発表 「ESMO World Congress on Gastrointestinal Cancer 2016」, 「Pretreatment low skeletal muscle mass predicts clinical outcomes after chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic cancer」, 「2016年6月」(筆頭発表)、	放射線治療開発	岸 高宏
92	学会等発表 「ESTRO35」, 「Impact of Low Skeletal Muscle Mass on Survival after SBRT for Non-small Cell Lung Cancer」, 「2016年5月」(共著発表)、	放射線治療開発	岸 高宏
93	学会等発表 「GAP2016」, 「Predicting pathological response using the tumor volume reduction rate after induction chemoradiotherapy in locally advanced non-small-cell lung cancer」, 「2016年4月」(共著発表)、	放射線治療開発	岸 高宏
94	学会等発表 「ESMO World Congress on Gastrointestinal Cancer 2016」, 「Clinical evaluation of intensity-modulated radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer」, 「2016年6月」(共著発表)	放射線治療開発	岸 高宏
95	学会等発表 2016年10月16 th biennial meeting of the international gynecologic cancer society EMT-related gene Snail promotes MDSC infiltration in ovarian cancer via CXCR2 (筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
96	学会等発表 Digestive Disease Week (DDW) 2016, Takeda H, Ueda Y, Marusawa H, et al. Low Abundant Pre-Existing Drug Resistant Variants in Genotype 1b HCV Patients Treated With Daclatasvir and Asunaprevir Dual Therapy. 2016.5. (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
97	学会等発表 The 24th United European Gastroenterology Week. Ueda Y, Takeda H, Otsuru S, et al. Emergence of multidrug-resistant hepatitis C virus during interferon-free therapy with asunaprevir and daclatasvir after simeprevir-based triple therapy for recurrent hepatitis C after liver transplantation. 2016.10.(共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
98	学会等発表 「2016 ASCO Annual Meeting」 「The effects of frozen gloves and socks on paclitaxel-induced peripheral neuropathy among patients with breast cancer: A self-controlled clinical trial. J Clin Oncol 34, 2016 (suppl; abstr 10022)」 「2016.06」(筆頭発表)	がんリハビリテーション法開発	華井 明子

99	学会等発表 58th American Society of Hematology Annual Meeting. Landscape of Driver Mutations and Their Clinical Impacts in Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia. 2016.12 Leading speaker. (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	上野 浩生
100	学会等発表 21st congress of European Hematology Association. Clinical and biological landscape of driver mutations in pediatric acute lymphoblastic leukemia. 2016.6 Leading speaker. (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	上野 浩生
101	学会等発表 「ESMO 2016 Congress」 「Chemotherapy in cancer patients undergoing hemodialysis: a multicenter study」 「H28.10.10」(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
102	学会等発表 GAP、Predicting pathological effects using the tumor volume reduction rate after induction chemoradiotherapy in locally advanced non-small-cell lung cancer. 2016/04、(筆頭発表)	放射線治療開発	光吉 隆真
103	学会等発表 RSNA、The first report to evaluate clinical outcome of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy for early stage lung cancer and oligometastatic lung tumors using a gimbal-mounted linear accelerator. 2016/11、(筆頭発表)	放射線治療開発	光吉 隆真
104	学会等発表 「ASTRO 58th annual meeting」 「Reduction of hippocampal doses for craniopharyngiomas using volumetric-modulated wave arc therapy」 「September 26, 2016」(筆頭発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
105	学会発表:「ESTRO 35 congress」 「non-coplanar volumetric-modulated arc therapy for craniopharyngiomas reduces doses to hippocampus」 「April 30, 2016」(筆頭発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
106	学会等発表 Digestive disease week 2016 ALDH2 inactivation exacerbates acetaldehyde-derived DNA damage in the esophagus of mice that consume alcohol 5月22日 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	廣橋 研志郎
107	学会等発表 p53-Dependent Senescence Suppresses the Proliferation of Esophageal Epithelial Cells With Acetaldehyde-Derived DNA Damage 5月24日 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	廣橋 研志郎
108	学会等発表 「Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong」 The reduction of acetaldehyde due to ALDH2 activation may be a novel therapeutic strategy for preventing esophageal cancer 10月29日 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	廣橋 研志郎
109	学会等発表 「International College of Surgeons」 「Impact of venous invasion on the efficacy of adjuvant chemotherapy in elderly patients with stage III colorectal cancer」 「2016 Oct.」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	星野 伸晃
110	学会等発表 “PATIENT-DERIVED CANCER MODELS: PRESENT AND FUTURE APPLICATIONS FROM BASIC SCIENCE TO THE CLINIC” “Title: Summary of 60 cases of patient-derived colorectal cancer xenografts; Tips for and problems in obtaining successful tumors for translational researches” “2016年2月” (筆頭発表)	手術療法・機器開発	前川 久継
111	学会等発表 2nd Annual Midwest Tumor Microenvironment Meeting, Minnesota, USA. “GLI1-GLI2 Interaction Is Required for the Regulation of Collagen Gene Expression in Pancreatic Cancer-Derived Stellate Cells.” 2016 May 19 (first author, poster presentation)(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	井口 恵里子
112	学会等発表 「Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong (香港海外合同教育セミナー)」 「Establishment of Non-Islet Cell Tumor Hypoglycemia Model」 「28年10月29日」(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂 光洋
113	学会等発表 The 75th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association、The carcinogenic sequence in colitis-associated cancer. 2016/10/7、(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
114	学会等発表 「ASTRO 2016 Annual Meeting」 「A Pilot Study of Hypofractionated Intensity-modulated Radiation Therapy over Three Weeks for Localized Prostate Cancer」 「2016年9月26日」(筆頭発表)	放射線治療開発	中村 清直
115	学会等発表 「ASTRO 2016 Annual Meeting」 「Reduction of hippocampal doses for craniopharyngiomas using volumetric-modulated wave arc therapy」 「2016年9月26日」(共著発表)	放射線治療開発	中村 清直
116	学会等発表 The 40th World Congress of the International College of Surgeons The Safety and Efficacy of Laparoscopic Partial Resection for Child-Pugh B Hepatocellular Carcinoma (HCC)(筆頭発表)	手術療法・機器開発	藤 浩明
117	学会等発表 ESTRO35. “Correlation and directional stability of principal component of respiratory motion in the lung” 2016/4/29-5/3、(筆頭発表)	放射線治療開発	花澤 豪樹
118	学会等発表 ASTRO2016. “Analysis of dosimetric parameters with or without flattening filter in gating and non-gating stereotactic radiotherapy for lung tumors: planning study” 2016/9/25-29、(筆頭発表)	放射線治療開発	花澤 豪樹

119	学会等発表 「European Society for Surgical Research」, 「Correlation between cardiopulmonary function and sarcopenia in patients undergoing living donor liver transplantation」, 「2016/05/27」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	白井 久也
120	学会等発表 「The European Society for Clinical Nutrition and Metabolism」, 「Correlation between cardiopulmonary function and sarcopenia in patients undergoing living donor liver transplantation」, 「2016/09/16」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	白井 久也
121	学会等発表 AACR Annual Meeting (Poster) Direct immune cell contact to basal-like triple negative breast cancer cells evokes downregulation of EGFR and upregulation of PD-L1 2016/4 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	山口 絢音
122	学会等発表 ・51st Congress of the European Society for Surgical Research: Analysis of risk factors for posthepatectomy complications in right lobe living donors for liver transplantation:2016/5/27 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史
123	学会等発表 ・第7回日独肝臓外科研究会JGSSLS: Analysis of risk factors for posthepatectomy complications in right lobe living donors for liver transplantation:2016/4/9 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史
124	学会等発表 IAP-JPS-AOPA, "A Case of long survived patient with salvage surgery after chemoradiotherapy for the locally advanced unresectable pancreatic cancer"(筆頭発表), 2016/8/5, 同学会にて(共著発表2題)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野 健三
125	学会等発表 ENETS(European Society of Neuroendocrine Tumor), "A case of pancreatic insulinoma laparoscopically resected through precise spatial diagnosis by SACI test"(筆頭発表), 2016/3/10-11, 同学会にて(共著発表2題)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野 健三
126	学会等発表 「Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong 香港合同教育セミナー」 The investigation for overcoming platinum resistance of ovarian clear cell carcinoma with chromosome 17q amplification 2016/10/28 (筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
127	学会等発表 Transplantation Science Symposium Asian Regional Meeting 2016 Spontaneous clearance of hepatitis C virus after liver transplantation: a report of four cases H28.4.8 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	玉木 一路
128	学会等発表 ・「AAPM2016 58th Annual meeting & exhibition」, 「A simple method to assess accuracy of Dynamic Wave Arc irradiation using an electronic portal imaging device and log files」, 「H28年7月31-8月4日」(筆頭発表)	先端医学物理研究者養成	平島 英明
129	学会等発表 「ASTRO's 58th Annual Meeting」, 「Reduction of Hippocampal Doses for Craniopharyngiomas Using Volumetric Modulated Wave Arc Therapy」, 「H28年9月25-28日」(共著発表)	先端医学物理研究者養成	平島 英明
130	学会等発表 「The 41st Naito Conference」, 「Promotion of malignancy after mechanical disruption of 3D structure in cultured organoids from colorectal cancer」, 「2016年7月7日」(筆頭発表)、	手術療法・機器開発	萩原 健
131	学会等発表 「Digestive Disease Institute Week 2016 3rd Annual International Congress of Fluorescent Guided Imaging Surgery」 「Real-time navigated liver surgery by projection mapping using ICG fluorescence」 「平成28年2月4日」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
132	学会等発表 「7th International Forum of Liver Surgery」 「The impact of the completion of the postoperative adjuvant chemotherapy in patients with liver metastases from colorectal cancer」 「平成28年4月9日」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
133	学会等発表 「Digestive Disease Week 2016」 「Real-time navigated liver surgery by projection mapping using ICG fluorescence」 「平成28年5月22日」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
134	学会等発表 「40th World Congress of the International College of Surgeons」 「Real-time navigated liver surgery using a new device based on indocyanine green fluorescence with projection mapping」 「平成28年10月25日」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
135	学会等発表 San Antonio Breast Cancer Symposium 2016 Title: Duration of fasting before taking lapatinib is associated with skin toxicity in neoadjuvant treatment of HER2 positive breast cancer: A cohort study from JBCRG-16/Neo-LaTH, 2016. 12. 6 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	津田 萌
136	学会等発表 24th International congress of the European Association of Endoscopic Surgery, THE USEFULNESS OF AN ULTRASONICALLY ACTIVATED DEVICE FOR DISSECTION OF LIVER PARENCHYMA IN A SINGLE-INCISION LAPAROSCOPIC LEFT LATERAL SECTIONECTOMY, 2016/6/17.(筆頭発表)	手術療法・機器開発	奥村 慎太郎
137	学会等発表 The 75th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Comprehensive genetic analysis of myxofibrosarcoma, 2016/10/7, (筆頭発表)	手術療法・機器開発	竹内 康英
138	学会等発表 シンポジウム名: Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong 発表タイトル名: Differential effects of taxanes and platinum derivatives on Schwann cells could participate in the pathogenesis of chemotherapy-induced peripheral neuropathy 発表年月日: 28年10月29日 (筆頭発表)	がん専門薬剤師養成	萩原 孝史

139	学会等発表 American Association for Cancer Reserch (AACR) VEGFA/NRP1 signal contributes to cell adhesion and motility in breast cancer cells 2016 Apr 16-20 (共著発表)	手術療法・機器開発	田中 直
140	学会等発表 European SOciety for Medical Oncology (ESMO) Phase I / II pharmacokinetics/pharmacodynamics study of irinotecan and S-1 for recurrent/metastatic breast cancer in patients with select UTGA1 genotypes (The JBORG-M01 study) 2016 Oct 10 (共著発表)	手術療法・機器開発	田中 直
141	学会等発表 Asian Breast Cancer Conferenve (ABCC) The increase in circulating endothelial progenitor cells as a predictor of pCR in breast cancer patients (筆頭発表)	手術療法・機器開発	田中 直
142	学会等発表 DDW2016, title: Diagnosis of acute gastrointestinal graft-versus-host disease: are total colonoscopy and endoscopic biopsy necessary 2016年5月 21 - 24日 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三谷 洋介

国際学会、英文誌への発表一覧

		滋賀医科大学	
NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	英文雑誌 Cell division cycle associated 1 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for oral cancer. Int J Oncol 2016 H28.7	新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	Phung Manh Thang
2	英文雑誌 Three-dimensional quantitative assessment of ablation margins based on registration of pre- and post-procedural MRI and distance map International Journal of Computer-Assisted Radiology and Surgery H28.6	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	谷 総一郎
3	英文雑誌 Which patients require or can skip biopsy for breast clustered microcysts? Predictive findings of breast cancer and mucocele-like tumor Breast Cancer H28.6	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	田中 彰恵
4	英文雑誌 Use of dynamic computed tomography attenuation value for diagnosis of acute gangrenous cholecystitis American Journal of Emergency Medicine H28.8	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	前平 博充
5	英文雑誌 Lymphoepithelial cyst with sebaceous glands of the pancreas: a case report Surgical case reports H28.9	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	前平 博充
6	英文雑誌 A retrospective analysis of patient-specific factors on voriconazole clearance Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences H28.4	地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	土手 賢史
7	国際学会・シンポジウム Characterization of UROC1 protein as a novel prognostic biomarker and a therapeutic target for oral cancer. (Poster session) American Association for Cancer Research Annual Meeting, 2016 H28.4	新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	Phung Manh Thang
8	国際学会・シンポジウム Characterization of UROC3 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for oral cancer. (Poster session) The 13th International Congress of Human Genetics, 2016 (第13回国際人類遺伝学会)H28.4	新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	Phung Manh Thang
9	国際学会・シンポジウム Characterization of URST1 as a novel therapeutic target for breast cancer Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong H28.10	新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	青田(中村) 正子
10	国際学会・シンポジウム Three-dimensional quantitative assessment of ablation margins based on registration of pre- and post-procedural MRI and distance map The 7th International Conference on Information Processing in Computer-Assisted Interventions H28.6	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	谷 総一郎
11	国際学会・シンポジウム Antihistaminic drug for the primary prevention of oxaliplatin-induced hypersensitivity reaction Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong H28.10	地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	土手 賢史

国際学会、英文誌への発表一覧

		京都薬科大学	
NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	論文: LC/QTOF-MSIによるフィルグラステムバイオ後続品の定性・成分分析, 医療薬学, 42, 613-619 (2016) 筆頭	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	松村 健吾
2	論文: Depletion of γ -glutamylcyclotransferase inhibits breast cancer cell growth via cellular senescence induction mediated by CDK inhibitor upregulation., BMC Cancer, 16, 748 (2016) 筆頭	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	松村 健吾
3	論文: The interaction between oral melphalan and gastric antisecretory drugs: impact on clinical efficacy and toxicity, Mol Clin Oncol., 4, 293-297 (2016). 共著	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	角 陽子
4	論文: Depletion of γ -glutamylcyclotransferase inhibits breast cancer cell growth via cellular senescence induction mediated by CDK inhibitor upregulation., BMC Cancer, 16, 748 (2016) 共著	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	谷口 恵香
5	国際学会・シンポジウム Depletion of γ -glutamylcyclotransferase inhibits cancer cell growth via cellular senescence caused by CDK inhibitor induction 24th Biennial Congress of the European Association for Cancer Research (英国), 2016.7. 筆頭	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	松村 健吾
6	国際学会・シンポジウム Monitoring of lenalidomide levels for prediction of its toxicity and efficacy in myeloma patients, 筆頭 第78回日本血液学会学術集会(2016年10月15日, 横浜)	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	角 陽子
7	国際学会・シンポジウム Characterization of gamma-glutamylcyclotransferase (GGCT) function as a novel cancer therapeutic target The Exchange International Meeting with Chinese University of Hong Kong and East Kinki Five Universities of Japanese Oncology Professional Course (香港), 2016.10. 筆頭	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	谷口 恵香
8	国際学会・シンポジウム Depletion of γ -glutamylcyclotransferase inhibits cancer cell growth through cellular senescence induction 2016 ASCB Annual Meeting (米国), 2016.12. 筆頭	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	松村 健吾
9	国際学会・シンポジウム Depletion of γ -glutamylcyclotransferase inhibits cancer cell growth through cellular senescence induction. 2016 ASCB Annual Meeting (米国), 2016.12. 共著	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	谷口 恵香
10	国際学会・シンポジウム A novel BRD4 inhibitor CG13250 suppresses MM cell proliferation in an orthotopic myeloma mouse model(Abstract #4722). The 57th American Society of Hematology (ASH) Annual Meeting and Exposition, December 5, 2016 in San Diego, CA. 共著	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	角 陽子

国内学会、雑誌等への研究発表一覧

京都大学

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	論文発表 「医療薬学」、「LC/QTOF-MSIによるフィルグラステムバイオ後続品の定性・成分分析」、「2016年9月」(共著発表)	がん専門薬剤師養成	大谷 祐基
2	論文発表 Annual Review 消化器 2016 肝発癌の分子機構。(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
3	論文発表 臨床外科:切除可能大腸癌肝転移患者に対する周術期化学療法の実態分析::京都大学外科関連施設癌研究会アンケート調査から:2016/12 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史
4	論文発表 日本小児血液・がん学会雑誌「HiMECLレジメンにおけるメルファラン投与タイミング別に見た有害事象の比較検討」2016年7月(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上 真充
5	論文発表 泌尿器科紀要、前立腺肥大症に対するAnteroposterior dissection HoLEPの治療成績、2016年9月(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
6	論文発表 「手術」、「内腸骨血管合併切除をとも合う腹腔鏡下側方リンパ節郭清術」、「2016年4月」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	岡田 倫明
7	論文発表 「消化器外科」、「硬膜外併用脊椎麻酔下にて腹会陰式直腸切断術を施行可能であった直腸癌の3例」、「2016年9月」(共著発表)	手術療法・機器開発	岡田 倫明
8	論文発表 「消化器外科」、「重症膵炎後、後腹膜膿瘍をきたし治療に難渋した輸入客症候群の1例」、「2016年9月」(共著発表)	手術療法・機器開発	岡田 倫明
9	論文発表 雑誌名:日本内視鏡外科学会雑誌 タイトル:感染メッシュ除去後の再発鼠径ヘルニアに対して腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を施行した1例 2016年11月(筆頭著者)	手術療法・機器開発	本間 周作
10	論文発表 平林 茂樹、村川 泰裕 Cap Analysis of Gene Expression (総説) 腎臓内科・泌尿器科 第5巻第1号 2017年1月 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	平林 茂樹
11	論文発表 日本腹部救急医学会 重症急性膵炎によるAbdominal Compartment Syndromeに対してOpen abdominal Management後に両側腹直筋前鞘翻転法とComponent Separation Methodを併用した1例 2016/9 刊行(筆頭発表)	手術療法・機器開発	喜安 佳之
12	学会等発表 第75回日本癌学会、Brg1 plays a critical role in pancreatic intraepithelial neoplasia formation through regulation of Sox9 expression, 2016/10/6(筆頭発表)、	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田 喬之
13	学会等発表 第75回日本癌学会、Arid1a suppresses formation of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasia and Pancreatic Ductal Adenocarcinoma, 2016/10/6(共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田 喬之
14	学会等発表 第75回日本癌学会、Nardilysin suppresses KrasG12D-driven pancreatic tumorigenesis in mice, 2016/10/7(共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田 喬之
15	学会等発表 第111回医学物理学会、Effect of breathing patterns on three-dimensional target position in X-ray fluoroscopic and four-dimensional cone-beam computed tomography imaging, 2016/4/14(筆頭発表)	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
16	学会等発表 第28回放射線夏の学校、胸部領域の四次元コーンビームCTによる標的の三次元動体解析, 2016/8/2(筆頭発表)	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓

17	学会等発表 第112回医学物理学会, Measurement of effective atomic number of human tissue-equivalent materials by energy-resolved computed tomography, 2016/9/8 (筆頭発表)	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
18	学会等発表 第75回日本癌学会学術総会, EpCAM陽性肝幹/前駆細胞は肝細胞癌の起源となる, 2016/10/6, (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
19	学会等発表 「第116回日本外科学会定期学術集会」, 「進行胃癌患者における術前の骨格筋量と腹腔内脂肪量の低値は 予後不良因子である」, 「28年4月15日」 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	錦織 達人
20	学会等発表 「第71 回日本消化器外科学会総会」, 「U領域胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除が術後体重減少と術後QOL に与える影響」, 「28年7月14日」 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	錦織 達人
21	学会等発表 「日本消化器病学会近畿支部第104回例会・シンポジウム」 神経内分泌腫瘍の診断と治療 「当院における膵神経内分泌腫瘍の診断」 「2016年2月6日」 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	山内 雄輝
22	学会等発表 「国際癌増感研究協会・第22回癌増感研究会」 「低酸素がん細胞が放射線治療後の再発に及ぼす影響」 「平成28年7月2日」 (筆頭発表)	放射線治療開発	堤 ゆり江
23	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会・第29回学術大会」 「低酸素がん細胞が放射線治療後の再発に及ぼす影響」 「平成28年11月26日」 (筆頭発表)	放射線治療開発	堤 ゆり江
24	学会等発表 「国際癌増感研究協会・第19回癌治療増感シンポジウム」 「低酸素がん細胞が放射線治療後の再発に及ぼす影響(仮)」 「平成29年2月3日 予定」 (筆頭発表)	放射線治療開発	堤 ゆり江
25	学会等発表 「第26回日本医療薬学会年会」, 「Assessment of structural alterations of Rituximab in vivo and correlation with ADCC and CDC activities」, 「2016年9月17日」 (筆頭発表)	がん専門薬剤師養成	大谷 祐基
26	学会等発表 「第32回京都がん研究会」, 「抗体医薬品リツキシマブの薬物動態評価とその変動因子の探索」, 「2016年9月16日」 (筆頭発表)	がん専門薬剤師養成	大谷 祐基
27	学会等発表 第75回日本癌学会学術総会, Differential effects of EGFR inhibitors on epithelial- and mesenchymal-like esophageal squamous cell carcinoma cells., 2016/10/6, (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡 正博
28	学会等発表 平成28年度5大学連携「医療フォーラム」, HER2蛋白過剰発現を検出する迅速コンパニオン診断薬開発, 2016/11/15, (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡 正博
29	学会等発表 第12回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム 『ヒト初代肝細胞からの内胚葉系多分化能肝幹細胞樹立について』 2016年6月25日 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南
30	学会等発表 第75回日本癌学会学術総会 「MALDI-MSIによる血清IgG Fc領域のN型糖鎖修飾プロファイリングを用いた乳がんの予測モデルの開発」 2016年10月7日 (共著発表)	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
31	学会等発表 「第75回日本医学放射線学会総会」, 「Comparative evaluation of respiratory-gated and un-gated PET based target volume in the definition of radiation treatment planning in pancreatic cancer」, 「2016年4月」 (筆頭発表)	放射線治療開発	岸 高宏
32	学会等発表 「第54回日本癌治療学会学術集会」, 「切除不能局所進行膵癌に対する化学放射線療法におけるサルコペニアの予後因子としての有用性」, 「2016年10月」 (筆頭発表)	放射線治療開発	岸 高宏
33	学会等発表 「第65回近畿膵疾患談話会」, 「膵癌に対する息止めIMRTの治療成績」, 「2016年10月」 (筆頭発表)	放射線治療開発	岸 高宏
34	学会等発表 「第42回京都放射線腫瘍研究会」, 「局所進行膵癌に対して化学放射線治療を施行し3年半以上の長期生存が得られた一例」, 「2016年10月」 (共著発表)	放射線治療開発	岸 高宏

35	学会等発表 「第54回日本癌治療学会学術集会」、「局所進行膵癌に対する化学放射線治療 —IMRTの有用性の検討—」、「2016年10月」(共著発表)	放射線治療開発	岸 高宏
36	学会等発表 「第65回近畿膵疾患談話会」、「局所進行膵癌に対する追尾IMRTの治療成績」、「2016年10月」(共著発表)	放射線治療開発	岸 高宏
37	学会等発表 第75回 日本癌学会学術総会 Arid1a suppresses formation of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms and Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. 2016/10/6 English oral session (英語口頭セッション)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	木村 佳人
38	学会等発表 「日本癌学会学術総会」、「当院で内視鏡治療を施行した同時性異時性多発早期胃癌における遺伝子異常の検討」、平成28年10月」(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	水口 綾
39	学会等発表 「JDDW」、「当院で内視鏡治療を施行した多発性早期胃癌における遺伝子異常の検討」、「平成28年11月」(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	水口 綾
40	学会等発表 第75回日本癌学会学術総会・Hes1 plays essential role in tumorigenesis of pancreatic cancer.・2016年10月6日(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 義浩
41	学会等発表 2016年4月 第68回日本産科婦人科学会学術講演会 卵巣癌における上皮間葉転換因子SNAIL発現が局所免疫能に与える影響 (筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
42	学会等発表 日本肝臓学会大会、肝移植後C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療効果と薬剤耐性変異の意義、2016.10.(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
43	学会等発表 日本消化器病学会近畿支部例会、肝移植後C型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬の治療効果と薬剤耐性変異の意義、2016.9.(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
44	学会等発表 第26回日本抗ウイルス療法学会総会、肝移植後C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療効果と薬剤耐性変異の意義、2016.4.(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
45	学会等発表 「第75回日本癌学会学術総会・一般口演 英語セッション がん幹細胞(4)」、「腸管の正常幹細胞と腫瘍幹細胞におけるHes1の役割」、「2016/10/6」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	後藤 規弘
46	学会等発表 「第75回日本癌学会学術総会・消化器領域における最新の医療研究開発」、「消化器腫瘍における腫瘍幹細胞標的治療」、「2016/10/6」(共著発表)	手術療法・機器開発	後藤 規弘
47	学会等発表 「第41回内藤コンファレンス・がんの多様性・可塑性と治療抵抗性」、「The role of Hes1 in the maintenance of normal stem cells and tumor stem cells of the intestine」、「2016/7/6」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	後藤 規弘
48	学会等発表 「第113回日本内科学会総会」同種造血幹細胞移植後長期生存者における慢性腎臓病の発症率とリスク因子」平成28年4月15日」(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	城 友泰
49	学会等発表 日本外科学会総会 肝内胆管癌における新たなバイオマーカーの展望 2016年4月14日 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	池野 嘉信
50	学会等発表 「第14回日本臨床腫瘍学会」セルフマネジメント(マッサージ・体操・排泄姿勢)による制吐剤起因性便秘の予防:乳癌化学療法患者に対するランダム化比較試験」2016.07」(筆頭発表)	がんリハビリテーション法開発	華井 明子
51	学会等発表 「第50回日本作業療法学会」京都の伝統産業で作る介護食器プロジェクト」2016.09」(共著発表)	がんリハビリテーション法開発	華井 明子
52	学会等発表 「第15回コ・メディカル形態機能学会」化学療法誘発性末梢神経障害に対する局所冷却の効果の検討」2016.09」(筆頭発表)	がんリハビリテーション法開発	華井 明子

53	学会等発表 細胞生物学会、マウス小腸オルガノイドにおけるシグナル伝達経路の解析、28年6月（筆頭発表）	抗悪性腫瘍薬臨床開発	牟田 優
54	学会等発表 肺癌関西地方会、局所進行非小細胞肺癌に対する術前化学放射線療法(CRT)後の腫瘍体積縮小率(TVRR)による病理学的治療効果(Ef)の予測、2016/7/16、(筆頭発表)	放射線治療開発	光吉 隆真
55	学会等発表 癌治療学会、肺腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動物追尾SBRT臨床成績の初回報告、2016/10/22、(筆頭発表)	放射線治療開発	光吉 隆真
56	学会等発表 肺癌学会、局所進行非小細胞肺癌に対する術前化学放射線治療後の組織学的治療効果の予測因子の検討、2016/12/19（共著発表）	放射線治療開発	光吉 隆真
57	学会等発表 「第75回日本医学放射線学会総会」 「Clinical Outcome of Hypofractionated Radiotherapy with Concurrent Temozolomide in Elderly Patients with Glioblastoma」 「2016年4月17日」 (筆頭発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
58	学会等発表 「第54回日本定位放射線治療学会」 「2か所の転移性脳腫瘍に対するdynamic conformal arc therapyとmono-isocentric volumetric-modulated arc therapyの比較検討」 「2016年5月27日」 (筆頭発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
59	学会等発表 「第54回日本癌治療学会学術集会」 「高齢者膠芽腫に対する テモゾロマイド併用 寡分割放射線治療の治療成績」 「2016年9月20日」 (筆頭発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
60	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第29回学術大会」 「頭蓋咽頭腫における Dynamic WaveArc法を用いた海馬線量低減の検討」 「2016年11月25日」 (筆頭発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
61	学会等発表 「第314回日本医学放射線学会関西地方会」 「大きな病巣を有する多発脳転移に対する全脳照射＋待機的定位放射線治療の検討」 「2016年11月5日」 (共著発表)	放射線治療開発	宇藤 恵
62	学会等発表 「日本外科学会」、「Stage IV大腸癌患者の予後におけるHospital typeの影響 腹腔鏡下大腸切除研究会の症例より」、「2016/4」 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	星野 伸晃
63	学会等発表 「日本消化器外科学会」、「腹腔鏡手術にて切除した巨大直腸平滑筋肉腫の1例」、「2016/7」、(筆頭発表)	手術療法・機器開発	星野 伸晃
64	学会等発表 第24回日本乳癌学会学術総会、日本人乳癌患者におけるオランザピン(アプレピタント非併用)の化学療法誘発性悪心嘔吐抑制効果、28年6月(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西村 友美
65	学会等発表 JASIS 2016ライフサイエンスイノベーションゾーン 基調講演、物理特性を利用したラベルフリー細胞解析・分離精製技術とその応用、28年9月(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西村 友美
66	学会等発表 「日本消化器外科学会」、「Trans-anal tube placement for the prevention of anastomotic leakage after low anterior resections」、「2016年7月」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	後藤 沙織
67	学会等発表 第39回日本分子生物学会、High order complex formation of Thioredoxin interacting protein (Txnip) in cancer cells, 2016.11.30 (筆頭発表)	がん専門薬剤師養成	Cristiane Lumi Hirata
68	学会等発表 第37回 日本再生・炎症医学会 非ラメラ液晶製材スプレーによる術後癒着防止効果 平成28年6月17日(筆頭発表)	手術療法・機器開発	山下 幸大
69	学会等発表 日本放射線腫瘍学会 タイトル:縦隔に広がる頭頸部癌における肺野線量低減の工夫 2016年11月26日 (筆頭発表)	放射線治療開発	河村 光栄
70	学会等発表 第97回内視鏡学会近畿支部例会 ワークショップ1 局所進行膵癌に対するEUS下VISICOIL留置術と動物追尾IMRTの現況 2016年11月26日(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松森 友昭

71	学会等発表 学会名:第71回 日本消化器外科学会 総会 発表タイトル:The effect of preoperative treatment on postoperative functions and QOL after ISR 発表年月日:H28年7月16日(筆頭発表)	手術療法・機器開発	奥村 公一
72	学会等発表 日本消化器病学会近畿支部第105回例会、隣癌診療における個別化医療と新規治療標的探索を目指した取り組み、2016年9月17日、(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
73	学会等発表 「日本泌尿器腫瘍学会第2回学術集会」「前立腺癌に対する 定位的寡分割強度変調放射線治療のパイロット試験」2016年10月23日(筆頭発表)	放射線治療開発	中村 清直
74	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第29回学術大会」「前立腺癌IMRT治療計画におけるKnowledge-based Planningの評価」2016年11月26日(筆頭発表)	放射線治療開発	中村 清直
75	学会等発表 「第14回日本臨床腫瘍学会学術集会」「FLT3/Internal Tandem Duplication 変異陽性急性骨髄性白血病に臍帯血移植は治療選択となり得る」2016年7月29日(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西 義延
76	学会等発表 「第68回日本細胞生物学会大会」「赤色蛍光色素、タンパク質の2光子励起スペクトル」2016年6月16日(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西 義延
77	学会等発表 消化器外科学会 2016.7.14 術後肝不全発症抑制のためのオルプリノンの臨床応用～第I相臨床試験～(筆頭発表)	手術療法・機器開発	藤 浩明
78	学会等発表 日本肝胆膵外科学会 2016.6.4 肝予備能不良例(Child-Pugh B)における腹腔鏡下肝部分切除の安全性と有用性(筆頭発表)	手術療法・機器開発	藤 浩明
79	学会等発表 近畿内視鏡研究会 2016.9.10 肝予備能不良例(Child-Pugh B)における腹腔鏡下肝部分切除の安全性と有用性(筆頭発表)	手術療法・機器開発	藤 浩明
80	学会等発表 肝臓内視鏡外科研究会 2016.11.23 再肝切除症例における腹腔鏡下肝切除の安全性と適応(筆頭発表)	手術療法・機器開発	藤 浩明
81	学会等発表 日本光線力学会 一般演題「ALAIによる創傷治癒促進効果は光照射で増強される」2016年6月25日(筆頭発表)	手術療法・機器開発	桐野 泉
82	学会等発表 第56回 日本リンパ網内系学会総会 極めて急速な臨床経過をたどったcMYC/IGH, BCL2/IGH, PAX5/IGH転座を有するtriple-hit lymphomaの一例 2016/9/3(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	大塚 泰幸
83	学会等発表 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会, “肺定位放射線治療において平坦化フィルタ有無が線量分布に及ぼす影響”, 2016/11/27, (筆頭発表)	放射線治療開発	花澤 豪樹
84	学会等発表 「肝胆膵外科学会」、「肝細胞癌患者における術前心肺機能とサルコペニアの相関」、 「2016/06/03」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	白井 久也
85	学会等発表 「日本消化器外科学会」、「生体肝移植患者における 心肺機能とサルコペニアの相関」、 「2016/07/16」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	白井 久也
86	学会等発表 「日本移植学会」、「生体肝移植患者における 心肺機能とサルコペニアの相関」 「2016/09/30」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	白井 久也
87	学会等発表 「日本移植学会」、「当科におけるアルコール性肝硬変に対する肝移植の成績」2016/09/30 (筆頭発表)	手術療法・機器開発	白井 久也
88	学会等発表 肝癌研究会 2016/7/1 問題症例検討(筆頭発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史

89	学会等発表 肝移植研究会 2016/7/8 肝右葉グラフトドナーにおける術後合併症のリスクファクターの検討(筆頭発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史
90	学会等発表 116回外科学会:大腸癌肝転移における切除後補助化学療法完遂の意義:2016/4(共著発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史
91	学会等発表 28回肝胆膵外科学会:ICG蛍光画像を用いたプロジェクションマッピングによるリアルタイムナビゲーション肝切除2016/6(共著発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史
92	学会等発表 28回肝胆膵外科学会Liver: Reappraisal of hepatectomy according to liver functional reserve 非侵襲的肝線維化指標に基づいた肝予備能評価(Liver: Reappraisal of hepatectomy according to liver functional reserve Evaluation of liver functional reserve based on noninvasive assessment of liver fibrosis):2016/6(共著発表)	手術療法・機器開発	吉野 健史
93	学会等発表 日本神経内分泌腫瘍研究会,“胆嚢NET G1の一例”(筆頭発表),2016/9/24,同学会にて(共著発表2題)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野 健三
94	学会等発表 「第130回日本薬理学会近畿部会」「社会的挫折ストレス負荷によるうつ病モデルマウスにおけるベンゾジアゼピン系睡眠薬による睡眠作用の効力変化」,「2016年11月19日」(共著発表)	がん専門薬剤師養成	重面 雄紀
95	学会等発表 「第119回近畿精神神経学会」,「うつ病に併発する不眠症に対する睡眠薬の使用状況および有効性に関する調査研究」,「2016年7月30日」(筆頭発表)	がん専門薬剤師養成	重面 雄紀
96	学会等発表 「医療薬学フォーラム2016/第24回クリニカルファーマシーシンポジウム」,「社会的挫折ストレス負荷によるうつ病モデルマウスにおけるプロチゾラム誘発睡眠作用の効力変化に関する行動薬理学的研究」,「2016年6月26日」(共著発表)	がん専門薬剤師養成	重面 雄紀
97	学会等発表 日本産科婦人科学会学術講演会 Establishment of ovarian patient derived xenograft 2016/4/22(筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
98	学会等発表 婦人科腫瘍学会 卵巣癌におけるpatient derived xenograftの樹立 2016/7/8(筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
99	学会等発表 癌学会 TOP2A amplification is related to platinum resistance in ovarian clear cell carcinoma 2016/10/6(筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
100	学会等発表 第75回日本癌学会学術総会、ABC11上昇がヒト肺腺癌株PC9のAZD9291耐性獲得の原因となる 2016年10月(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	野溝 岳
101	学会等発表 第78回日本臨床外科学会総会、タイトル:直腸内分泌腫瘍(NET)に対する当院での治療、11月24日、(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西川 元
102	学会等発表 第116回日本外科学会定期学術集会 C型肝硬変に対する生体肝移植後、C型肝炎ウイルスの自然陰性化を認めた4症例 H28.4.14 H28.4.8(筆頭発表)	手術療法・機器開発	玉木 一路
103	学会等発表 「第111回日本医学物理学学会学術大会」,「Quality assurance procedures of Dynamic WaveArc irradiation using electric portal imaging device」,「H28年4月14-17日」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	玉木 一路
104	学会等発表 「第112回医学物理学学会学術大会」,「膵癌に対する放射線治療における胆管ステントの体内マーカ代替可能性に関する検討」,「H28年9月8-10日」(共著発表)	先端医学物理研究者養成	平島 英明
105	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第29回学術大会」,「ログファイルを用いたDWA照射精度検証」,「H28年11月25-27日」(筆頭発表)	先端医学物理研究者養成	平島 英明
106	学会等発表 「第75回日本癌学会学術総会」,「Disruption of colorectal cancer organoids promotes growth and stemness by activating WNT pathway. 」,「2016年10月6日」,(筆頭発表)	手術療法・機器開発	萩原 健

107	学会等発表 「第116回日本外科学会定期学術集会」「大腸癌肝転移における切除後補助化学療法完遂の意義」「平成28年4月15日」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
108	学会等発表 「第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会」「ICG蛍光画像を用いたプロジェクションマッピングによるリアルタイムナビゲーション肝切除」平成28年6月4日」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
109	学会等発表 「第41回日本外科学会連合学会学術集会」「大腸癌肝転移における切除後補助化学療法完遂の意義」平成28年6月17日」(筆頭発表)	手術療法・機器開発	西野 裕人
110	学会等発表 第75回日本癌学会学術総会、Digital PCRを用いた前立腺癌での血漿遊離DNAのアンドロゲン受容体遺伝子異常の同定法、2016年10月 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
111	学会等発表 第104回日本泌尿器科学会総会、Primary xenograftを用いた腎細胞癌アキシチニブ耐性獲得の解明、2016年4月 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
112	学会等発表 第104回日本泌尿器科学会総会、多発両側嫌色素性腎癌を主病態とし、全エクソンシーケンスにて同定した結節性硬化症の1例、2016年4月 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
113	学会等発表 第75回日本癌学会学術総会、Primary xenograftを用いた腎細胞癌アキシチニブ耐性獲得の解明、2016年10月 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
114	学会等発表 第75回日本癌学会学術総会、全エクソンシーケンスによる腎細胞癌テムシロリムス耐性獲得機序の解明、2016年10月 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
115	学会等発表 「消化器外科学会・Recent advancement of laparoscopic surgery for rectal cancer –Orthodox & Serendipity–」、「Transanal Minimally invasive Surgery for Tectal Cancer」、「7月」(共著発表)	手術療法・機器開発	岡田 倫明
116	学会等発表 「第71回消化器外科学会」、「TAMIS-ISRIにおける解剖学的ランドマーク」7月」(共著発表)	手術療法・機器開発	岡田 倫明
117	学会等発表 29年3月18日 「第30回高精度放射線外部照射部会学術大会」 発表タイトル名：「前立腺癌全骨盤照射計画におけるRapidPlanシステムの性能評価(仮題)」 (筆頭発表予定)	放射線治療開発	藤井 康太
118	学会等発表 第2回日本産科婦人科遺伝診療学会 近畿大学におけるHBOC診療の現状 H28年12月 (筆頭発表)	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
119	学会等発表 第75回日本癌学会 腫瘍内クローン数定量化プログラムによる卵巣がんのクローン数と遺伝子変異の関連解析 H28年10月 (共著発表)	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
120	学会等発表 第2回日本産科婦人科遺伝診療学会 上皮性卵巣癌におけるコピー数多型と腫瘍クローン数についての検討 H28年12月 (共著発表)	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
121	学会等発表 日本血液内科学会 「HBs抗原陽性日本人患者におけるリツキシマブ使用中のエンテカビル併用によるB型肝炎ウイルス再活性化の予防」 2016/10/14 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	渡邊 瑞希
122	学会等発表 日本血液内科学会 近畿地方会「慢性骨髄性白血病急性転化に対する同種移植後に難治性胸水貯留及びギラン・バレー症候群を来した一例」 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	渡邊 瑞希
123	学会等発表 日本血液内科学会 近畿地方会「ドナー細胞白血病及び再発に対し複数回同種移植を施行した難治性腸症型腸管T細胞性リンパ腫の一例」 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	渡邊 瑞希
124	学会等発表 日本血液内科学会 近畿地方会「ニボルマブが有効であったホジキンリンパ腫同種移植後再発の一例」 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	渡邊 瑞希

125	学会等発表 JASTRO 肺癌脳転移に対する定位照射 EGFR変異を含めた検討 28年11月26日 (筆頭発表)	放射線治療開発	芦田 良
126	学会等発表 JASTRO 当院における非小細胞肺癌の術前化学放射線療法臨床成績 28年11月25日 (共著発表)	放射線治療開発	芦田 良
127	学会等発表 第75回日本医学放射線学会総会(2016年4月14日-17日) Congenital pulmonary vascular anomalies requiring treatment; a pictorial essay (筆頭発表)	手術療法・機器開発	徳永 幸史
128	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第29回学術大会」 「Dosimetric Evaluation of Dynamic WaveArc Therapy for accelerated partial breast irradiation - APBI における Dynamic WaveArc の線量評価 -」 「2016年11月25日発表」 (筆頭発表)	放射線治療開発	小野 幸果
129	学会等発表 日本臨床腫瘍学会 専門医部会企画ケースカンファレンス ハイリスク患者に対する薬物療法の実践:レビュー 2016/7/28(筆頭発表)	手術療法・機器開発	古武 剛
130	切除不能進行・再発大腸癌に対するTAS-105、Regorafenib投与の後方視的検討 2016/7/28 (共著発表)	手術療法・機器開発	古武 剛
131	学会等発表 第7回日独肝臓外科研究会(JGSSLS)、A cholangiolocellular carcinoma with liver cirrhosis due to HCV and alcoholic.、2016年4月10日(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	戸田 怜
132	学会等発表 第10回肝臓内視鏡外科研究会、我々の高難度部腫瘍へのアプローチ -腹腔鏡下尾状葉切除に対する工夫について-、2016年11月23日(筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	戸田 怜
133	学会等発表 第71回 消化器外科学会 閉鎖孔ヘルニア小腸嵌頓時の小腸壊死の有無の検討 2016/7/14 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	喜安 佳之
134	学会等発表 第29回 近畿内視鏡外科学会 巨大前立腺肥大症をとまなう下部直腸癌に対して腹腔鏡下併用 TAMIS-ISRを行った1例 2916/9/10 (筆頭発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	喜安 佳之
135	学会等発表 日本細胞生物学会 SALL4 promotes cancer cell migration through integrin up regulation 2016 Jun 15 (共著発表)	手術療法・機器開発	田中 直
136	学会等発表 日本癌学会 The mechanism of integrin alpha 6 activation on metastasis in basal-like breast cancer 2016 Oct 6(筆頭発表)	手術療法・機器開発	田中 直
137	学会等発表 日本消化器病学会、2016年3月 ・巨大Lipomatous pseudohypertrophy of the pancreasの一例 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
138	学会等発表 日本消化器病学会、2016年3月 壊疽性膿皮症を合併した潰瘍性大腸炎の2例 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
139	学会等発表 日本消化器内視鏡学会、2016年4月・当院における高齢者総胆管結石症に対するEPLBD後の長期予後を含む治療成績の検討 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
140	学会等発表 日本消化器内視鏡学会、2016年4月・当院における、閉塞性大腸癌に対する術前ステント留置術の検討 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
141	学会等発表 日本消化器内視鏡学会、2016年4月・当院における高齢者出血性消化性潰瘍に対する内視鏡治療の現状 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
142	学会等発表 日本消化器内視鏡学会、2016年4月・当センターにおいて内視鏡検査を施行したIgA血管炎10例の検討 (共著発表)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智

143	学会等発表 JDDW、2016年11月・当院での胆嚢軸捻転症7症例についての検討（共著発表）	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
144	学会等発表 JDDW、2016年11月・閉塞性大腸癌に対して18mm径大腸ステントを留置した症例の検討（共著発表）	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
145	学会等発表 *優秀演題賞 第113回内科学会講演会 内科学会 2016東京 プレナリーセッション 「UGT1A1遺伝子多型と肺癌のリスクに関する研究」2016年4月（筆頭発表）	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝
146	学会等発表 海外合同教育シンポジウム Assessment of treatment response after lung stereotactic body radiotherapy by diffusion weighted MRI 2016/10/28-29（筆頭演者）	放射線治療開発	新谷 堯
147	学会等発表 第106回日本肺癌学会関西支部学術集会 拡散強調MRI (DW-MRI)は、肺癌に対する定位放射線治療 (SBRT)後の治療効果予測因子となりうるか？ 2016/6/24（筆頭発表）	放射線治療開発	新谷 堯
148	学会等発表 第313回日本医学放射線学会関西地方会 肺癌に対する定位放射線治療後の効果予測における拡散強調MRIの有用性の検討 2016/6/11(共著発表)	放射線治療開発	新谷 堯

国内学会、雑誌等への研究発表一覧

滋賀医科大学

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	和文雑誌 藤中央部切除術 消化器外科Nursing H28.7	新しい外科医療開発・応用を担う 研究者養成コース	前平 博充
2	和文雑誌 腹腔鏡下に切除した虫垂結石を伴った急性虫垂炎の1例 日本外科系連合学会誌 H28.7	新しい外科医療開発・応用を担う 研究者養成コース	前平 博充
3	和文雑誌 薬学部病院実務実習時に行う栄養教育介入の効果 医療薬学誌 inPress	地域のがん薬物療法を支える薬 剤師養成コース	神谷 貴樹
4	国内学会・シンポジウム Characterization of URST1 as a novel therapeutic target for breast cancer 第75回日本癌学会学術総会 H28.10	新しいがん診断・治療法開発を 担う研究者養成コース	青田(中村) 正子
5	国内学会・シンポジウム 乳房MRI検出病変のSecond look USにおける検出予測範囲の検証 第24回日本乳癌学会学術総会 H28.6	新しい外科医療開発・応用を担う 研究者養成コース	田中 彰恵
6	国内学会・シンポジウム A Case of late onset of HBV reactivation following R-CHOP chemotherapy. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 ポスター発表	地域のがん薬物療法を支える薬 剤師養成コース	土手 賢史
7	国内学会・シンポジウム 薬物治療プロトコルを作ることって大変だけど、面白い！ 日本病院薬剤師会関東ブロック第46回学術大会シンポジウムH28.8	地域のがん薬物療法を支える薬 剤師養成コース	土手 賢史
8	国内学会・シンポジウム 抗ヒスタミン剤を用いたオキサリプラチン過敏症反応1次予防プロトコルの有効性: 後ろ向きコ ホート研究 第26回日本医療薬学会年会 口頭発表H28.9	地域のがん薬物療法を支える薬 剤師養成コース	土手 賢史
9	国内学会・シンポジウム 在宅医療推進を目指した栄養管理研修の評価 第26回日本医療薬学会年会 H28.9	地域のがん薬物療法を支える薬 剤師養成コース	神谷 貴樹

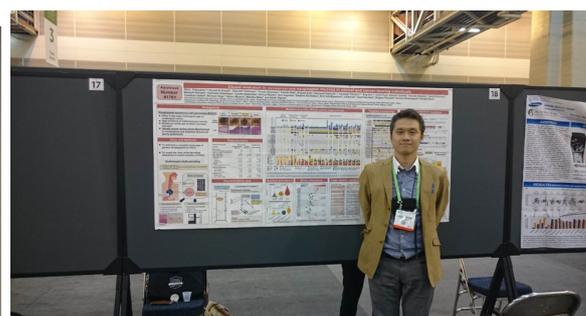
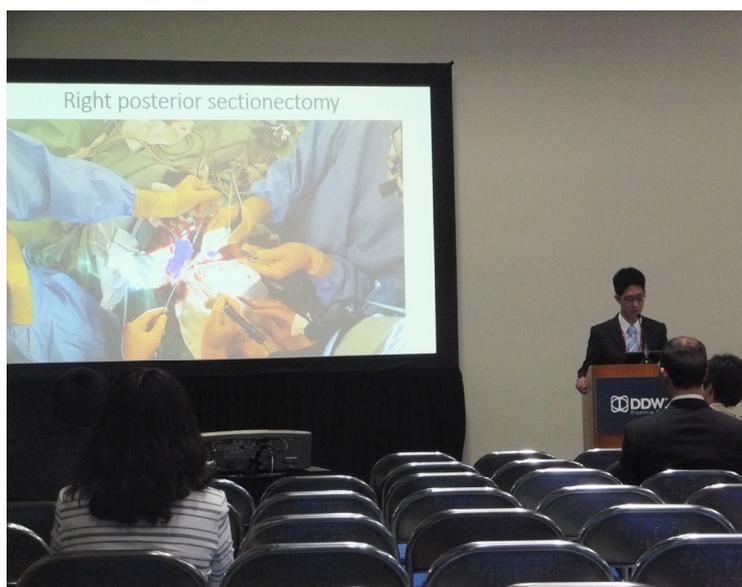
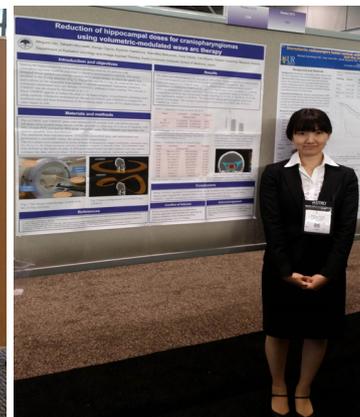
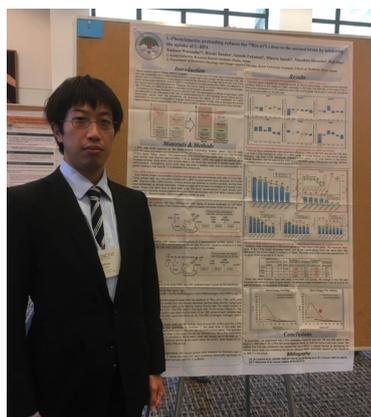
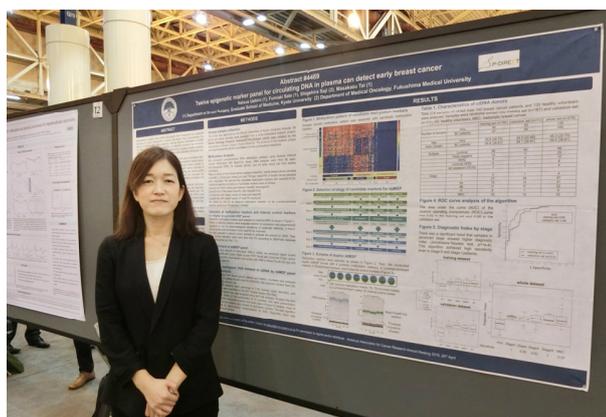
海外学会・シンポジウム等参加状況

京都大学

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	28年5月20日～24日 DDW(Digestive Disease Week)参加、アメリカ/サンディエゴ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田 喬之
2	2016.4.16-20 「American Association for Cancer Research Annual Meeting 2016」 New Orleans, Louisiana, USA	抗悪性腫瘍薬臨床開発	横山 顕礼
3	28年4月29日～5月3日 ESTRO35(European Society of Radiation Oncology)参加、イタリア/トリノ	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
4	28年9月25日～28日、 ASTRO58参加、アメリカ Boston, Massachusetts	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
5	28年5月21日～28年5月24日、 DDW2016 (Digestive Disease Week 2016) アメリカ・サンディエゴ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
6	28年5月21日～28年5月24日、 Digestive Disease Week 2016 参加、米国サンディエゴ	手術療法・機器開発	錦織 達人
7	28年10月16日～28年10月20日 American College of Surgeon Clinical Congress 2016参加、米国	手術療法・機器開発	錦織 達人
8	28年10月2日～28年10月7日 17th International Congress on Neutron Capture Tehrapy参加, アメリカ合衆国	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
9	2016/10/29～10/31 IGCS 2016 in LISBON ポルトガル・リスボン	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
10	28年6月29日～28年7月2日、 ESMO World Gongress on Gastrointestinal Cancer 2016参加、スペイン・バルセロナ	先端的放射線治療開発	岸 高宏
11	2016年10月29日～31日 16th biennial meeting of the international gynecologic cancer society(ポルトガル・リスボン)	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
12	28年5月4日～8日、 米国消化器病週間、米国肝臓学会参加 アメリカ合衆国	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
13	28年12月2日～5日 ASH 2016 (米国血液学会)、サンディエゴ (米国)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	上野 浩生
14	28年6月9日～12日 欧州血液学会 デンマーク	抗悪性腫瘍薬臨床開発	上野 浩生
15	2016.10.7-10.11 ESMO 2016 Congress デンマーク・コペンハーゲン	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
16	201610/14/16, MD Anderson Onco-Nephrology Symposium 2016MDアンダーソン腫瘍腎臓学シンポジウム アメリカHouston, TX	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
17	28年9月25日～9月28日、 ASTRO 58th annual meeting,アメリカ・ボストン	先端的放射線治療開発	宇藤 恵
18	28年4月29日～5月3日 ESTRO 35 congress トリノ、イタリア	先端的放射線治療開発	宇藤 恵

19	2016年5月22日～5月24日 Digestive disease week 2016 アメリカ・サンディエゴ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	廣橋 研志郎
20	2016年10月28日～10月29日 Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong (5大学連携合同教育セミナー) 香港	抗悪性腫瘍薬臨床開発	廣橋 研志郎
21	April 16-20, 2016, AACR2016(American Association for Cancer Research Annual Meeting 2016)、New Orleans, Louisiana, USA	手術療法・機器開発	西村 友美
22	2016 May 18-20, 2nd Annual Midwest Tumor Microenvironment Meeting, Minnesota, USA	抗悪性腫瘍薬臨床開発	井口 恵里子
23	28年10月28～29日 Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong (海外合同教育セミナー) 香港	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂 光洋
24	28年9月24日～28年9月30日 ASTRO 2016 Annual Meeting参加 アメリカ・ボストン	先端的放射線治療開発	中村 清直
25	2016/4/29-5/3 ESTRO35(European Society of Radiation Oncology) トリノ	先端的放射線治療開発	花澤 豪樹
26	2016/9/25-29 ASTRO2016 アメリカ・ボストン	先端的放射線治療開発	花澤 豪樹
27	28年5月25日～28年5月28日、 European Society for Surgical Research、チェコ、	手術療法・機器開発	白井 久也
28	28年9月14日から9月19日、 The European Society for Clinical Nutrition and Metabolism、デンマーク	手術療法・機器開発	白井 久也
29	28年4月17日～28年4月20日 AACR Annual Meeting参加 アメリカ・ニューオーリンズ	手術療法・機器開発	山口 絢音
30	28/5/24-27 ESSR チェコ	手術療法・機器開発	吉野 健史
31	2016/3/9-11, ヨーロッパ神経内分泌腫瘍学会(ENETS), スペイン・バルセロナ(予定)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野 健三
32	28年10月28-29日 Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong 香港合同教育セミナー 香港	先端的放射線治療開発	新谷 堯
33	28年10月27-30日 Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong 合同教育セミナー 香港	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
34	H28.8.18-23 26th international congress of the transplantation society (中華人民共和国)	手術療法・機器開発	玉木 一路
35	H28年7月31日-H28年8月4日, AAPM2016 58th Annual Meeting&exhibition参加, アメリカ・ワシントン	先端医学物理研究者養成	平島 英明
36	2016年10月28-29日、 Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong 香港	先端医学物理研究者養成	平島 英明
37	28年5月21日～5月24日、 Digestive Disease Week 2016、米国・サンディエゴ	手術療法・機器開発	西野 裕人
38	28年5月6日～10日、 American Urological Association(AUA)参加、アメリカ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸

39	2016/12/03 - 12/06 2016 American Society of Hemaology サンディエゴ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	渡邊 瑞希
40	28年10月27日～10月30日、 Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong	がん専門薬剤師養成	荻原 孝史
41	2016年5月 21 - 24日、 DDW 2016, USAサンディエゴ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三谷 洋介
42	2016年10月28-29日、 Exchange international symposium in Chinese University Hong Kong 香港	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三谷 洋介
43	2016.4.16-20「American Association for Cancer Research Annual Meeting 2016」 New Orleans, Louisiana, USA	手術療法・機器開発	植弘 奈津恵
44	2016.4.24-4.30 GAP 2016 Conference ブラジル・サンパウロ	先端的放射線治療開発	光吉 隆真
45	2016.11.27-12.2 RSNA (Radiological Society of North America 2016) アメリカ・シカゴ	先端的放射線治療開発	光吉 隆真
46	2016.6.14-6.19 24th International congress of the European Association of Endoscopic Surgery, オランダ・アムステルダム	手術療法・機器開発	奥村 慎太郎



国内学会・シンポジウム等参加状況

京都大学

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	28年10月6-8日、日本癌学会参加、神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田 喬之
2	10月6日-8日 「The 75th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association」パシフィコ横浜	抗悪性腫瘍薬臨床開発	横山 顕礼
3	28年4月14日～17日、第111回医学物理学会参加、神奈川県	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
4	28年8月2日～4日、第28回放射線夏の学校参加、千葉県	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
5	28年11月25日～27日、日本放射線腫瘍学会第29回学術大会参加、京都府	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
6	28年9月8日～10日、第112回医学物理学会参加、沖縄県	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
7	28年11月3日～28年11月5日、APDW2016 (Asian Pacific Digestive Week 2016) 神戸	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
8	28年10月6日～28年10月8日、第75回日本癌学会学術総会、神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
9	28年11月3日～11月6日、JDDW2016 (日本消化器関連学会週間2016)、兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
10	28年4月14日～28年4月16日、第116回日本外科学会定期学術集会、大阪府	手術療法・機器開発	錦織 達人
11	28年6月4日～5日、米国内科学会日本支部総会2016、京都府	手術療法・機器開発	錦織 達人
12	28年7月6日、第70回日本食道学会学術集会参加、東京都	手術療法・機器開発	錦織 達人
13	28年7月7日～9日、日本外科代謝栄養学会第53回学術集会、東京都	手術療法・機器開発	錦織 達人
14	28年7月14日～28年7月16日、第71回日本消化器外科学会総会、徳島県	手術療法・機器開発	錦織 達人
15	28年8月27日、日本疫学会サマーセミナー参加、東京都	手術療法・機器開発	錦織 達人
16	28年8月5日、ヘルスケアデータサイエンス研究所養成講座、東京都	手術療法・機器開発	錦織 達人
17	28年10月1日～28年10月2日、日本疫学会若手の会、滋賀県	手術療法・機器開発	錦織 達人
18	28年10月13日、ヘルスケアデータサイエンス研究所養成講座、東京都	手術療法・機器開発	錦織 達人
19	28年10月27日～10月28日、第46回胃外科・術後障害研究会、鳥取県	手術療法・機器開発	錦織 達人
20	28年11月18日～11月20日、日本薬剤疫学会・第22回学術総会、京都府	手術療法・機器開発	錦織 達人
21	11月3日-6日 JDDW2016(日本消化器関連学会) 神戸	抗悪性腫瘍薬臨床開発	山内 雄輝
22	28年8月6日～8月7日、第13回日本中性子捕捉療法学会学術大会、東京都	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
23	28年7月1日～28年7月3日、国際癌増感研究協会・第22回癌増感研究会、沖縄県	先端的放射線治療開発	堤 ゆり江
24	28年11月25日～28年11月27日、日本放射線腫瘍学会・第29回学術大会、京都府	先端的放射線治療開発	堤 ゆり江
25	29年2月3日～2月4日、国際癌増感研究協会・第19回癌治療増感シンポジウム、奈良県	先端的放射線治療開発	堤 ゆり江
26	28年7月27日～28年7月29日、第20回日本がん免疫学会総会参加、大阪府	がん専門薬剤師養成	大谷 祐基
27	28年11月3日～6日、APDW2016参加、神戸市	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡 正博
28	2016年4月9日 第12回肝免疫・ウイルス・フロンティア 東京都	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南

29	2016年5月22日 日本内科学会第114回四国地方会 徳島県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南
30	2016年6月11日 内視鏡学会 第96回近畿支部例会 京都府	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南
31	2016年6月25日 第12回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム 広島県、	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南
32	2016年11月3日～11月6日 JDDW2016 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南
33	6月15-17日 第68回日本細胞生物学会大会・日本ケミカルバイオロジー学会 京都府	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
34	28年10月6-8日 第75回日本癌学会学術総会 参加 神奈川県	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
35	2016年4月 第68回日本産科婦人科学会学術講演会 東京	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
36	2016年7月 日本婦人科腫瘍学会 鳥取県	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
37	H28/10/6-8 第75回日本癌学会学術総会 横浜	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
38	28年10月6日から8日 日本癌学会総会 English Oral Session 神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	生田 耕三
39	28年4月14日～28年4月17日、第75回日本医学放射線学会総会参加、神奈川県	先端的放射線治療開発	岸 高宏
40	28年10月15日、第65回近畿膵疾患談話会参加、大阪府、	先端的放射線治療開発	岸 高宏
41	28年10月20日～28年10月22日、第54回日本癌治療学会学術集会参加、神奈川県	先端的放射線治療開発	岸 高宏
42	28年10月29日、第42回京都放射線腫瘍研究会参加、京都府、	先端的放射線治療開発	岸 高宏
43	28年11月25日～11月27日、日本放射線腫瘍学会第29回学術大会参加、京都府	先端的放射線治療開発	岸 高宏
44	H28/10/6-8 第75回日本癌学会学術総会 横浜	抗悪性腫瘍薬臨床開発	木村 佳人
45	7月20日 第4回 がんと代謝研究会 鹿児島	手術療法・機器開発	戸田 孝祐
46	28年10月6日から8日、日本癌学会、神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	水口 綾
47	28年11月3日-6日 JDDW2016、兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	水口 綾
48	2016年10月6日～8日 ・第75回日本癌学会学術総会・神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 義浩
49	2016年11月3日～6日・第24回日本消化器関連学会週間JDDW・兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 義浩
50	平成28年11月3-6日 JDDW2016（第24回日本消化器関連学週間 KOBE）神戸	抗悪性腫瘍薬臨床開発	美馬 淳志
51	2016年4月21日-24日 第68回日本産科婦人科学会学術講演会 東京	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
52	2016年7月8日-7月10日 日本婦人科腫瘍学会 鳥取県	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
53	2016年10月6日-10月8日 日本癌学会 横浜	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
54	28年4月、日本抗ウイルス療法学会総会参加、愛知県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
55	28年10月、日本消化器病週間JDDW、日本肝臓学会参加、兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
56	2016/7/5-8 第41回内藤コンファレンス 北海道	手術療法・機器開発	後藤 規弘
57	2016/10/6-8 第75回日本癌学会学術総会参加 神奈川県	手術療法・機器開発	後藤 規弘
58	28年7月28日 日本臨床腫瘍学会参加、兵庫県	がんリハビリテーション法の開発	華井 明子
59	28年9月17日 コメディカル形態機能学会参加、京都府	がんリハビリテーション法の開発	華井 明子

60	28年7月28日—7月30日 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 神戸	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
61	平成28年11月3-6日 日本消化器関連学会週間 JDDW 2016 神戸	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
62	28年4月14日～4月17日、第75回日本医学放射線学会総会、神奈川県	先端の放射線治療開発	宇藤 恵
63	28年5月27日、第54回日本定位放射線治療学会、京都府	先端の放射線治療開発	宇藤 恵
64	28年10月20日～10月22日、第54回日本癌治療学会学術集会、神奈川県	先端の放射線治療開発	宇藤 恵
65	28年11月25日～11月27日、日本放射線腫瘍学会第29回学術大会、京都府	先端の放射線治療開発	宇藤 恵
66	28年12月7日 第4回創薬等支援技術基盤プラットフォーム 公開シンポジウム 東京	手術療法・機器開発	金光 瑛彰
67	28年6月16日～18日、第24回日本乳癌学会学術総会、東京都	手術療法・機器開発	西村 友美
68	28年9月8日、JASIS2016、千葉県	手術療法・機器開発	西村 友美
69	2016年10月6日～8日 第75回日本癌学会学術総会 神奈川県	手術療法・機器開発	西村 友美
70	28年7月14日～16日 日本消化器外科学会総会参加 徳島県	手術療法・機器開発	後藤 沙織
71	平成28年11月3-6日 JDDW2016 (第24回日本消化器関連学週間) 神戸	抗悪性腫瘍薬臨床開発	友野 輝子
72	28年11月30日～28年12月2日、日本分子生物学会参加、神奈川県	がん専門薬剤師養成	Cristiane Lumi Hirata
73	平成28年6月16-17日 第37回 日本再生・炎症医学会 京都府	手術療法・機器開発	山下 幸大
74	平成28年7月13日～7月16日 第71回日本消化器外科学会、徳島県	手術療法・機器開発	笠原 桂子
75	28年11月3日～11月6日 JDDW学会参加、兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂 光洋
76	H28年7月14日～16日、第71回 日本消化器外科学会 総会 (徳島県)	手術療法・機器開発	奥村 公一
77	28年10月7日～28年10月8日、 The 75th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association、神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
78	28年9月17日、日本消化器病学会近畿支部第105回例会、大阪府	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
79	28年10月22日～28年10月23日 日本泌尿器腫瘍学会第2回学術集会参加 神奈川	先端の放射線治療開発	中村 清直
80	28年11月25日～28年11月27日 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会 京都府	先端の放射線治療開発	中村 清直
81	28年6月15日～28年6月17日 第68回日本細胞生物学会大会 京都	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西 義延
82	28年7月28日～28年7月30日 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 神戸	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西 義延
83	10/23-10/26 The 40th World Congress of the International College of Surgeons 京都	手術療法・機器開発	藤 浩明
84	H28年7月14日～16日、第71回 日本消化器外科学会 総会 徳島県	手術療法・機器開発	藤 浩明
85	2016年6月2日-6月4日 日本肝胆膵外科学会 大阪	手術療法・機器開発	藤 浩明
86	2016年9月10日 第29回 近畿内視鏡研究会 京都	手術療法・機器開発	藤 浩明
87	2016年11月23日 第10回肝臓内視鏡外科研究会 東京	手術療法・機器開発	藤 浩明
88	2016/9/1-3 第56回 リンパ網内系学会総会参加 熊本	抗悪性腫瘍薬臨床開発	大塚 泰幸
89	2016/11/25-27 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会 京都	先端の放射線治療開発	花澤 豪樹
90	2016年4月14日-16日 日本外科学会 大阪府	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西内 綾

91	28年4月14日28年4月16日 第116回日本外科学会、大阪府	手術療法・機器開発	白井 久也
92	28年6月2日～28年6月4日、 日本肝胆膵外科学会、大阪府	手術療法・機器開発	白井 久也
93	28年7月7日から7月8日、 日本肝移植研究会、北海道	手術療法・機器開発	白井 久也
94	28年7月14日から28年7月16日 消化器外科学会、徳島県、	手術療法・機器開発	白井 久也
95	28年9月29日から28年10月1日、日本移植学会、東京都	手術療法・機器開発	白井 久也
96	28/7/1-2 肝癌研究会 東京	手術療法・機器開発	吉野 健史
97	28/7/7-8 肝移植研究会 北海道	手術療法・機器開発	吉野 健史
98	2016/8/5-7, 国際膵臓学会・日本膵臓学会・アジアオセアニア膵臓学会(joint meeting), 仙台	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野 健三
99	2016/9/25, 日本神経内分泌腫瘍研究会、東京	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野 健三
100	28年9月17日～28年9月19日、 第26回日本医療薬学会参加、京都府	がん専門薬剤師養成	重面 雄紀
101	2016/6/11 第313回日本医学放射線学会関西地方会 京都	先端的放射線治療開発	新谷 堯
102	2016/6/24 第106回日本肺癌学会関西支部学術集会 大阪	先端的放射線治療開発	新谷 堯
103	28年4月22-24日 日本産科婦人科学会 東京	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
104	28年7月8-10日 婦人科腫瘍学会 鳥取	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
105	28年10月6-8日 癌学会 横浜	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
106	28年10月22-23日 近畿産婦人科学会 京都	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
107	28年12月16-17日 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会 京都	婦人科がん治療の開発	北村 幸子
108	28年5月31日 関西健康・医療創生会議シンポジウム参加 京都	手術療法・機器開発	我如古 理規
109	28年6月4日-6月5日 米国内科学会(ACP)日本支部年次総会2016 京都	手術療法・機器開発	我如古 理規
110	28年5月27日-5月29日 腹腔鏡下大腸切除研究会参加 沖縄	手術療法・機器開発	我如古 理規
111	28年7月1日-2日 日本肥満症治療治療学会参加 東京	手術療法・機器開発	我如古 理規
112	28年10月6日から8日 第75回日本癌学会学術総会 神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	野溝 岳
113	28.11.24-11.26 第78回日本臨床外科学会総会 東京	手術療法・機器開発	西川 元
114	H28.7.8-7 第34回日本肝移植研究会 北海道	手術療法・機器開発	玉木 一路
115	2016年10月6日～8日 第75回日本癌学会学術総会 神奈川県	手術療法・機器開発	井上 善景
116	H28年4月14-17日、 第111回日本医学物理学会学術大会参加、神奈川県	先端医学物理研究者養成	平島 英明
117	H28年11月25-27日、 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会参加、京都府	先端医学物理研究者養成	平島 英明
118	28年7月5日～7月8日、 The 41st Naito Conference、北海道、	手術療法・機器開発	萩原 健
119	28年10月6日～8日、 第75回日本癌学会学術総会、神奈川県	手術療法・機器開発	萩原 健
120	28年12月15日-17日 日本小児血液がん学会 参加予定 東京	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上 真充
121	平成28年11月5日 JDDW 2016 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中村 文保

122	28年4月23日～25日、第104回日本泌尿器科学会総会参加、宮城県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
123	28年10月6日～8日、第75回日本癌学会学術総会参加、神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
124	28年7月14-16日 第71回消化器外科学会 徳島県	手術療法・機器開発	岡田 倫明
125	28年11月26-27日 第25回コンピューター外科学会 東京都	手術療法・機器開発	岡田 倫明
126	28年8月6日～28年8月7日 第18回放射線腫瘍学夏期セミナー 参加、愛知県	先端的放射線治療開発	藤井 康太
127	28年8月27日～28年8月28日 第37回夏季放射線腫瘍学セミナー参加、京都府	先端的放射線治療開発	藤井 康太
128	28年11月25日～28年11月27日 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会参加、京都府	先端的放射線治療開発	藤井 康太
129	28年11月3日～28年11月6日、 第24回消化器関連学会週間JDDW Kobe2016参加、兵庫県神戸市、	手術療法・機器開発	日下部 治郎
130	28年11月26日～28年11月27日、 第43回日本臓器保存生物医学学会学術集会参加、東京都八王子市	手術療法・機器開発	日下部 治郎
131	28年9月29日～28年9月30日、第52回日本胆道学会学術集会、神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	栗田 威
132	28年11月3日～11月6日、JDDW2016、兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	栗田 威
133	平成28年4月21日～24日 第68回日本産科婦人科学会学術講演会 東京都	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
134	平成28年7月8日～10日 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 鳥取県	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
135	平成28年7月27日～28日 第20回日本がん免疫学会総会 大阪府	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
136	平成28年9月1日～3日 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 長崎県	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
137	平成28年12月16日～17日 第2回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会 京都府	婦人科がん治療の開発	浮田 真沙世
138	28年4月21日～24日 日本産婦人科学会 東京都	婦人科がん治療の開発	三瀬 有香
139	28年10月6日～8日 日本癌学会 横浜	婦人科がん治療の開発	三瀬 有香
140	28年7月8日～7月10日 日本婦人科腫瘍学会 鳥取県	婦人科がん治療の開発	三瀬 有香
141	平成28年6月16日～28年6月17日、第37回日本炎症・再生医学会参加、京都府	手術療法・機器開発	鈴木 貴久
142	2016/10/06 - 10/08 日本がん学会 神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	渡邊 瑞希
143	2016/10/13 - 10/15 日本血液内科学会 横浜	抗悪性腫瘍薬臨床開発	渡邊 瑞希
144	2016/10/29 日本血液内科学会 近畿地方会 大阪	抗悪性腫瘍薬臨床開発	渡邊 瑞希
145	28年11月25日-27日 JASTRO/FARO参加(京都府)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	芦田 良
146	2016年4月14日-17日 第75回日本医学放射線学会総会、横浜市、	手術療法・機器開発	徳永 幸史
147	2016年6月12日 第16回日本抗加齢医学会総会、横浜市	手術療法・機器開発	徳永 幸史
148	平成28年10月6日(木)～8日(土)、第75回日本癌学会学術総会 神奈川県	手術療法・機器開発	竹内 康英
149	28年6月9日～6月11日、第53回日本リハビリテーション医学会学術集会 京都府	がんリハビリテーション法の開発	馬場 千夏
150	28年9月9日～28年9月11日、第50回日本作業療法学会参加、北海道	がんリハビリテーション法の開発	馬場 千夏
151	28年4月14日～16日 第116回日本外科学会定期学術集会 大阪	手術療法・機器開発	中村 達郎
152	2016. 7. 4～7. 6 第70回日本食道学会学術集会 東京	手術療法・機器開発	中村 達郎

153	平成28年10月14日～10月15日、第78回日本血液学会学術集会参加、神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	平林 茂樹
154	28年9月27日～29日 第26回日本医療薬学回 参加 京都府	がん専門薬剤師養成	荻原 孝史
155	28年11月19日 第130回日本薬理学会近畿部会 参加 京都府	がん専門薬剤師養成	荻原 孝史
156	2016年7月28日-2016年7月30日 日本臨床腫瘍学会 参加 神戸	手術療法・機器開発	古武 剛
157	2016年10月20日-2016年10月22日 日本癌治療学会 参加 横浜	手術療法・機器開発	古武 剛
158	28年4月14日～16日、第116回日本外科学会定期学術集会参加、大阪	抗悪性腫瘍薬臨床開発	戸田 怜
159	28年11月23日、第10回肝臓内視鏡外科研究会参加、名古屋	抗悪性腫瘍薬臨床開発	戸田 怜
160	28年11月24日～26日、第78回日本臨床外科学会総会参加、日本	抗悪性腫瘍薬臨床開発	戸田 怜
161	2016/7/14 第71回 消化器外科学会 徳島	手術療法・機器開発	喜安 佳之
162	2016/9/10 第29回 近畿内視鏡外科学会 京都	手術療法・機器開発	喜安 佳之
163	28年10月8日～9日 Asian Breast Cancer Confercnce参加、東京都	手術療法・機器開発	田中 直
164	28年6月15日～6月17日、日本細胞生物学会参加、京都府	手術療法・機器開発	田中 直
165	28年9月10日、京滋乳癌研究会参加、京都府	手術療法・機器開発	田中 直
166	28年10月6日～10月8日、日本癌学会参加、神奈川県	手術療法・機器開発	田中 直
167	28年10月23日 JBCRG学術集会参加、神奈川県	手術療法・機器開発	田中 直
168	5月12～14日、日本消化器内視鏡学会、東京都	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
169	10月6日～8日、日本癌学会、神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
170	11月3日～6日、JDDW、兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小川 智
171	28年4月15日～17日 内科学会総会 東京都	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝
172	28年11月4日～7日 JDDW2016 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝

プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況

京都大学

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
1	骨格筋が進行胃癌患者の予後に与える影響	手術療法・機器開発	錦織 達人
2	高齢胃癌患者における胃切除後の予後予測ノモグラムの開発:多施設共同後方視的コホート研究	手術療法・機器開発	錦織 達人
3	「がんのリハビリテーションに従事する理学療法士が抱える問題」	がんリハビリテーション法開発	袴田 華菜子
4	胃がんにおけるHER2タンパク過剰発現の新規検出法開発	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡 正博
5	「次世代型質量分析計によるプロテオミクス解析を用いた新規肝細胞癌発癌エクソソームマーカーの探索」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南
6	乳がん微小環境形成に関わる分子生物学的機序の生体試料を用いた探索研究(G424)	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
7	局所進行膵癌に対する化学放射線治療症例の予後予測における骨格筋量、内臓脂肪量の予後因子としての有用性を検討する研究	放射線治療開発	岸 高宏
8	「寛解導入療法期血液がん患者に対する運動指導介入の効果と実現可能性の検証」	がんリハビリテーション法開発	地家 淳史
9	人を対象とする医学系研究「国内初の汎用自動分析装置用IgG4測定試薬の多施設での評価」研究計画	抗悪性腫瘍薬臨床開発	美馬 淳志
10	肺体幹部定位放射線治療における線量増加の安全性および有効性評価のパイロット研究 C859	放射線治療開発	光吉 隆真
11	AMED 動体追尾肺定位放射線治療の安全性および有効性評価の多施設共同第二相試験 C1042	放射線治療開発	光吉 隆真
12	StageII大腸癌における再発予測ノモグラム作成	手術療法・機器開発	星野 伸晃
13	乳癌化学療法時の悪心嘔吐に関する観察研究(R0444) 第3版	手術療法・機器開発	西村 友美
14	局所進行直腸癌に対し強度変調放射線治療を利用した術前化学放射線療法のパイロット臨床試験(C1257)	手術療法・機器開発	後藤 沙織
15	局所進行下部直腸癌に対する術前補助化学療法の有効性と認容性の検討(C546)	手術療法・機器開発	後藤 沙織
16	直腸低位前方切除術後の縫合不全予防のための経肛門ドレーンの意義(E2491)	手術療法・機器開発	後藤 沙織
17	ヒト腸管壁における硫酸アルミニウムカリウム水和物・タンニン酸(ALTA)による注射療法後の組織学的変化の検討(R0326)	手術療法・機器開発	後藤 沙織
18	人を対象とする医学系研究「国内初の汎用自動分析装置用IgG4測定試薬の多施設での評価」研究計画	抗悪性腫瘍薬臨床開発	友野 輝子
19	G1035 ヒト消化管癌を用いたオルガノイドモデルの樹立	抗悪性腫瘍薬臨床開発	馬場 希一郎

20	食道がん内視鏡的切除例における他臓器重複がんの検討	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂 光洋
21	R0714:「穿孔性胃・十二指腸潰瘍に対する穿孔部閉鎖術施行時におけるドレーン留置の実際:日本のQIプロジェクトにおける後方視的解析」	手術療法・機器開発	奥村 公一
22	E1491、R892:「直腸がん手術後における生活の質の調査」	手術療法・機器開発	奥村 公一
23	G389急性膵炎、慢性膵炎、遺伝性膵炎における膵炎関連遺伝子変異の有無についての検討	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
24	G605固形腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析、	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
25	G738膵癌、胆道癌における遺伝子異常の網羅的解析と治療薬開発、	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
26	G748家族性膵癌の疾患関連遺伝子に関する研究、	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
27	G766膵神経内分泌癌及び膵MANECの遺伝子異常の網羅的解析	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
28	「Volumetric-modulated Dynamic WaveArc therapy (VMDWAT)の実行可能性および線量投与正確性検証のための臨床研究」	放射線治療開発	中村 清直
29	R0525 肝機能不良症例に対する腹腔鏡下肝切除の有用性	手術療法・機器開発	藤 浩明
30	R0677 腹腔鏡を用いた肝切除の安全性の検証	手術療法・機器開発	藤 浩明
31	肝移植患者の腸内細菌叢と拒絶反応、感染症の発症との関係に関する研究	手術療法・機器開発	吉野 健史
32	呼気ガス分析による乳癌マーカー発見に関する研究	手術療法・機器開発	中山 美恵
33	肺癌におけるProgrammed Death Ligand 1の遺伝子多型による予後及び治療効果との関連性の検討の作成	抗悪性腫瘍薬臨床開発	野溝 岳
34	「大腸癌肝転移治癒切除後の患者に対する術後補助化学療法として、L-OHPベース化学療法にUFT/LV療法の逐次療法を行うことの安全性と有用性の検討」	手術療法・機器開発	西野 裕人
35	「近赤外蛍光カラーシステムを用いた新規術野投影機器の機能・性能の評価」	手術療法・機器開発	西野 裕人
36	「原発性肝腫瘍同定における近赤外蛍光カラーシステムを用いた新規術野投影機器の機能・性能の評価」	手術療法・機器開発	西野 裕人
37	「系統的肝切除における切離ラインの精度の検証」	手術療法・機器開発	西野 裕人
38	「新規術野投影機器により可視化された近赤外蛍光画像をガイドとして行う肝切除における切離ライン精度の検討」	手術療法・機器開発	西野 裕人
39	進行泌尿器癌における血中ゲノムマーカーの縦断的解析に基づくプレシジョン医療の実現	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
40	血液ゲノムマーカーに基づく去勢抵抗性前立腺癌の最適医療の実現	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉 崇幸
41	腹腔鏡下大腸手術における術中ナビゲーションの位置精度の評価	手術療法・機器開発	岡田 倫明

42	ナビゲーションシステムを使用した腹腔鏡下S状結腸切除術の“追いつアドバンス”の教材作成	手術療法・機器開発	岡田 倫明
43	進化する医療光学技術に対応し得る消化器解剖図の作成	手術療法・機器開発	岡田 倫明
44	Thiel法で固定された遺体の組織学的評価の有用性	手術療法・機器開発	岡田 倫明
45	肺動静脈奇形と鑑別すべき類似疾患のCT所見の検討	手術療法・機器開発	徳永 幸史
46	研究計画「治療中のがん患者のリハビリテーションに関するニーズ調査」について	がんリハビリテーション法開発	馬場 千夏
47	進化する医療光学技術に対応し得る消化器解剖図の作成	手術療法・機器開発	中村 達郎
48	2つの進行・再発乳癌に対する医師主導治験のプロトコール、標準手順書	手術療法・機器開発	古武 剛
49	ブタプロテオミクスによるFOLFOX誘導性SOSの病態解明と診断バイオマーカーの開発	抗悪性腫瘍薬臨床開発	戸田 怜
50	「大腸SM癌の転移、再発、予後に関わる因子についての過去起点コホート研究」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川 佳孝

評 価 結 果 表

1. 各項目評価

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

	番号 (関連)	達成目標	評価 1	評価 2	評価 3
全拠点共通 目標	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか、	A	A	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか、	A	A	A
	3	コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか、	A	A	B
	4	がんにて特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、 講座の活動状況は、	A	A	C
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、 開催数、参加者数、	A	B	B
	6	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか、	A	A	B
	7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備等、	A	A	B
	8	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数、	A	A	B
	9	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、	A	A	B
	10	コース履修者の医療チーム、カンサーボードの開催数、期間等、	A	B	B
	11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績、	A	A	B
	12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数、	A	A	B
	13	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)	A	A	C
	14	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか、	A	A	B
国際交流目標	15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数、	A	A	C
	16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、	A	A	B
	17	国際交流プログラムの実施数、	A	A	B
	18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、	A	A	D
	19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み、	A	A	B
連携大学間・職 種間連携目標	20	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況、	A	A	A
	21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、	A	A	A
	22	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率、	B	A	D
	23	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて、	A	A	B
	24 (9)	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、	A	A	A
教育改革目標	25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、	A	A	A
	26	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況、	A	A	A
	27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況、	A	A	D
	28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進、	A	A	D

地域貢献目標	29 (12)	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数、	A	A	B
	30 (13)	市民公開講座等一般向け講演会の開催数、	A	A	C
	31	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況、	A	A	D
	32 (14)	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況、	A	A	B
	33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて、	A	A	B
	34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み、	A	A	D
	35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み、	A	A	C
	36	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み、	A	A	B
研究者養成目標	37	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数、	A	A	D
	38 (15)	国際学会、英文誌への研究論文発表数、	A	A	B
	39	学会への研究論文の発表推進への取組み、 国内学会、和文誌への論文発表数	A	A	B
	40 (16)	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数、	A	A	A
	41 (19)	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況、 国内学会・シンポジウム等参加状況	A	A	A
	42	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況、	A	A	A
	43	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	A	A	A

2. 講 評

講 評 (評価 1)
<p>○本がんプロコースは昨年度までに引き続き全国の各がんプロの実績と比較して、平均を大きく上回る実績で、どの評価項目に関しても日本をリードするプログラムと評価される。</p> <p>○人材育成の面では、数多くの大学院生を集め、広く世界と交流したり、高度な研究成果を数多く学会、論文発表したりして着実にがんプロの本来の目的を実現している。</p> <p>○そして地域貢献の面でも着実に地域医療連携を進めたり、市民公開講座を数多く開催したりして、各府県でのがんの診療の向上に大きな役割を果たしている。</p> <p>○e-learningの受講率が多少足りなかったものの、これだけ数多くのカリキュラムが組まれているので、当該学生にとっては十分な知識が身についたことと想像される。また同様に学生達を指導された教官諸兄の努力も並大抵の事ではなかったと想像される。</p> <p>○京都大学以外の大学も今年度はかなり京都大学と共同しつつ、さらに独自のカリキュラムを策定して、京都大学にキャッチアップしようとしている努力が伺われる。総じてこの5年間でこのがんプロコースは大きな成果を得たと評価される。</p> <p>○来年度以降もこのプログラムが発展的に継続される事を期待している。</p>

講 評 (評価 2)
<p>本事業は、京都大学を主幹とする5大学がお互いに連携協力しながら、先端的がん研究者および地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成を行う取組である。平成28年度も事業が順調に遂行されており、最終年度の中途ではあるが5年間の事業のほぼすべての目標が達成されていることは高く評価できる。研究論文数も目標を大きく上回っており評価できる。わずかに医療チームの活動実績などにコース間の格差が十分に是正されておらず、またFDとしてカンファレンスやキャンサーボード、学会への参加をもってFDとしている点については十分とは言えないが、今後京都大学のリーダーシップによって改善されることを期待したい。</p> <p>なお、大学院生の入学人数に比して専門医とくにがん薬物療法専門医の取得者数が少ない印象があり、本事業による教育を修了した人材の今後の専門医取得に期待したい。</p>

講 評 (評価 3)
<p>全体的な取り組みとして評価できるものと考えられる。京都大学と連携大学とのギャップの広がり否めない。連携する一部の大学における取り組みなど、人材不足など困難な部分があると思われるが、共同での取り組みなどによる底上げが必要かと思われる。また、情報発信、一般市民に向けた取り組みが一部の大学で不足していることもうかがえる。</p> <p>しかしながら、地方大学では地域に根ざした取り組みも見られており、それぞれの特徴を生かし、さらなる発展を期待する。</p>

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」

京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学

京都大学医学研究科 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

TEL 075-753-4654 FAX 075-753-9495

E-mail 060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp